

日本国際情報学会誌
2018年度 通巻 第3号

Kokusai-joho



日本国際情報学会

(目 次)

発刊の言葉	-----	1
巻頭言	-----	2
報告論文		
自由投稿論文: Review		
米国防省予算研究についての一考察 関 博之	-----	3
21世紀社会における人間性回復の課題 —「共感」(empathy)の再生をめぐる— 磯部 千枝	-----	9
2D世界の影響の考察 —生活様式への影響を中心に— 草野 純子	-----	20
ジョン・ヒックの宗教多元主義における功罪に関する一考察 南部 千代里	-----	29
看護師等養成所別卒業者の就職場所の特徴 柏田 三千代	-----	37
評価場面に現れた言語現象 —「ちょっと」はどんな役割をしたのか— 加藤 香須美	-----	47
天津飯の起源 —定説を疑う— 増子 保志	-----	52
研究ノート: Research Report		
デジタル時代における企業経営と情報システム —「インターネット・マネジメント」を参照モデルとして— 符 儒徳	-----	58
地政学からみるモンゴルの概況 吉澤 智也	-----	68
涼拌麺から冷やし中華へ —冷やし中華はいつ“冷やし中華”になったのか?— 増子 保志	-----	73
日本国際情報学会誌規程	-----	78
編集後記	-----	82

発刊の言葉

日本国際情報学会 会長 近藤大博

社会科学は、その研究の歴史において、多くの先達の知恵と経験を蓄積させ現在があります。たしかに知識の積重ねと経験に支えられた研究は重要です。それらの蓄積が各学問の礎としてあります。

しかし、今日、国際化・グローバル化の波は、各学問の境界・領域・枠をいとも容易に乗り越えます。各学問の境界・領域・枠を乗り越えたかたちで、新たな問題が生じています。

各研究者は、従来の礎・専門領域に拘泥しては、新時代に、新たな問題に、対処・対応できません。

また、グローバル化は、国境を超えての研究協力、積極的な情報の受発信の機会をもたらしました。この機会を大いに活用すべきです。縦横に協働研究すべきです。研究成果を共有すべきです。

今日の社会的・公共的問題は、知識・学問と社会・政治の境目にあります。さらには従来の学問体系では対処不能・対応不能となっています。解決するためには、学際的な集団の確立と学際的な取り組み、ひいては学際的な理論的枠組みが必要となります。

つまり、21世紀の現在、社会学・経済学・歴史学・心理学・哲学等々の専門領域・枠を超えた協働研究が必要不可欠となってきたのです。

既存の考え方・方法論、既存の専門分野にとらわれることなく、幅広く研究テーマを募りたいと存じます。学際的な研究に積極的に発表の機会を与えたいと存じます。多くの方々が斬新的で視点の違う研究を競い合う場を設定したいと存じます。

日本国際情報学会は、上のような思いを密かに胸に、2002年3月に設立されました。

このたび、会員の研究を促進すべく、活動の成果を公表・公開すべく、学会誌発行を企画しました。本誌がその創刊号です。

今回発刊にあたり、多くの方々から、ご指導、ご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。

本誌が、広く世に迎えられ、新しい社会の創造に多少なりとも寄与できますよう、さらに学問の垣根が取り払われた研究の場として数多くの研究者に活用していただきますよう、祈念いたします。

2004年5月10日

当学会の目的の一つは、日本語で思索する全世界の同学のフォーラムを形成することです。その目的達成のためにも、従来の機関誌『国際情報研究』を刷新し、『日本国際情報学会誌』としました。新しく編集実務を担当することになった編集委員会の諸兄の尽力あつてのことです。

全世界に読者を求めるため、インターネットにて公開発行いたします。もちろん、ダウンロードしてプリントアウトすれば、通常の紙媒体の冊子と同様になります。活用願います。なお、学会論文の質の向上を目指すため査読の方式をも、今号をもって改めました。詳しくは、「投稿論文の査読について」をご覧ください。

当学会の会員層は産学官に属する人材で形成され、その研究テーマは総合社会情報研究を中心に幅広いジャンルを網羅しており、新たな学術的価値創造を可能にしています。今後、会員間のコミュニケーションをより充実させ、社会に貢献する学会活動を目指したいと存じ上げますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

2008年12月5日

巻頭言

新たな学問探究の「自由」な地平の開鑿を求めて

——第3号発刊にあたりもう一度——

佐々木 健

『Kokusai-joho』第3号をお届けします。

この度は、論文7篇、研究ノート3点を掲載し、探究方向も広範囲にわたる充実した誌面構成となりました。慶賀すべきことです。同時に、今回も改めて、「新たな学問探究の『自由』な地平の開鑿を求めて」ということが本誌刊行にあたっての私たちの念願であり、みずからに課した使命でもあることを、確認したいと思えます。

* * * * *

二つの文章を、at random ながら、掲げます。

A 「人間をもっぱら人間としてのみ考え、そしてまた、世界に対する人間の関係(かかわり方)を人間的な関係として想定するならば、あなたはただ愛を愛とだけ、信頼を信頼とだけ、交換することができるのだ。もしあなたが真に芸術を享受し作品の真価を知りたいと願うのであれば、あなたは芸術的に自分を陶冶し芸術的教養を身につけた人間とならなければならない。……あなた自身の(他の)人間に対する——そしてまた自然に対する——かかわり方は、その一つひとつが、あなた自身の現実的(実現された)個性の明確な現れ、しかもあなたの意志が向き合おうとする対象に対応する顕現でなければならない。」

B 「芸術監督エマニュエル・ドゥマルシー・モタは言う。『他者を押しつぶすのではなく、他者に心を開き、関係性を築くことで自己の個性を開花させる。これが本当に豊かなことなのだ』とイヨネスコは訴える。調和しながら生きることを、私たちは今こそイヨネスコから学ばなければ。』

A は、19世紀ドイツの——ちょうど200年前に生まれた——ある思想家の青春期における草稿に見られる一節です。(筆者がかなり自由に「超訳」しています。)B は、時期的にだいぶ前になりますが、ある全国紙の文化欄に載った記事の一節です。(2015・11・18『朝日新聞』朝刊、12版、34ページ「文化・文芸」)

「愛」も「芸術(芸術的想像力・創造力)」——art, Kunst はここでは「芸術」としておきます——も、ともに、「私」が「私」とは異質な他者である「あなた」へと思いを馳せ思いやり、「あなた」へ「関心」(interest=interesse : 「私」が「私」自身の狭い境域から出て「あなた」という他者の「存在」のなかへ)を抱くことを基本とします。このような「私」と「あなた」という場面での他者認識と自己認識とを踏まえた両者の相互承認が、愛であり芸術力の働きであります。このことが、ミニマムに押さえても、上の両文章から読み取れるでしょう。

読者と読者、読者と筆者、読者・筆者と研究テーマ・対象、(さらにまた、探究者とその置かれた自然的社会的環境)、これらの関係性はどうかあるべきなのか。この点を真摯に問い続けていくことが、自由で新たな探究の地平を切り拓いていくことにつながるのではないのでしょうか。

報告論文
(自由投稿論文 : Review)

報告論文は審査・査読を行っておりません。

米国防省予算研究についての一考察

関 博之

海上自衛隊第2術科学校

日本大学大学院 総合社会情報研究科 博士後期課程

A Literature Review on the U.S. Department of Defense Budget Research

SEKI Hiroyuki

Japan Maritime Self-Defense Force 2nd Service School

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies, Doctoral Program

This article reviews the academic literature on the U.S. Department of Defense (DoD) budget and provides implications for future research. From the viewpoint of political science, the previous studies can be categorized into two broad types ((1) building models to explain the U.S. DoD budget, (2) evaluating the U.S. security policy through defense budget). However, I found three problems in this research field. The first is few discussions between incrementalism and anti-incrementalism. The second is an overall scarcity of research from the viewpoint of budget allocation. The third is no common measure to evaluate the DoD budget for understanding the U.S. defense policy. Further research is required to bridge the gaps.

1.はじめに

国防予算¹⁾は、常に議論の焦点となる重要なトピックである。国防予算はその国の財政のみならず、国防政策の方向性をも示唆するからである。特に、今日における唯一の超大国である米国の国防省予算は常に人々の耳目を集めるものである。そのため、米国防省予算に関する先行研究は多数存在する。キー (V. O. Key) は、予算編成活動そのものについて「なぜBという活動ではなくAという活動にxドルが配分されるのか」は、経済学的な視点だけでは説明しきれず、政治学的な視点からの研究も必要不可欠なはずであるという問題提起をし、政治学的視点からの予算研究の必要性を早くから指摘していた²⁾。一方で森が指摘したように、特に国防予算については「その制度上のたてまえと実質的権限のズレが時代とともに随所で拡大し、財政専門家やベテラン議員でさえ混乱・誤解することがしばしばで」あり、「そうしたわかりにくさの中でも、予算項目中、最大の項目である国防予算は、これを設定するさいの

目的や根拠が他の項目にない不確実性をもち、無数の小項目にわかれて無数のチェックをうける長期の過程でさまざまな圧力と思惑に影響されて変容することなどのために、とびぬけて複雑、不可解な性格をとまなっている³⁾。米国防省予算研究についての政治学的議論は、2つの視点が考えられる。第1に、米国防省予算はどのようにして増減またはその配分を変化させるのかという金額にまつわる議論である。第2の視点は国防省予算を通じて米国の国防政策を分析あるいは評価するというものである。本稿の目指すところは、これらの視点に基づいて米国防省予算に関する先行研究を整理し、政治学的視点から今後の米国防省予算研究のあるべき方向性を示すことにある。

2.先行研究のレビュー

2.1 米国防省予算の金額に関する研究

米国防省予算に関する研究の多くは、米国防省予

算の増減を説明するためのモデルの構築が目的であった。米国防省予算が何によって決定されるのかを明らかにすることを目的とした研究について、ミンツ(Alex Mintz)は2つの流れに大別できるとした⁴⁾。すなわち、リチャードソン(Lewis F. Richardson)が提唱したとされるリチャードソン・モデルから着想を得た「軍備競争モデル」(arms race model)と⁵⁾、ウィルダフスキー(Aaron Wildavsky)の予算編成政治における増分主義から着想を得た「増分主義モデル」(incrementalism model)である⁶⁾。ただし、リチャードソンもウィルダフスキーも、自身の考えを国防省予算へ適用することを当初は考えていなかったため、それぞれのモデルの国防省予算への適用は、後世の研究者たちの手によってなされていった。グレイ(Colin S. Gray)が軍備競争には武器の量や質のみならず軍事費における競争も含まれるとしてから⁷⁾、軍備競争モデルを用いた米国防省予算の研究が本格化し始めた⁸⁾。しかし、軍備競争モデルはソ連崩壊以降、衰退の一途を辿り、今日に至っている。これに対して、現代においても国防省予算の理論について主流にあるのは、やはり増分主義モデルであろう。そもそも増分主義モデルとは、予算金額は前年度実績(base)をもとに決定されるとする考え方である⁹⁾。増分主義モデルについては、同モデルを初めて国防省予算に適用したストロンバーグ(John Leonard Stromberg)の研究¹⁰⁾を出発点として、その後、多くの研究が誕生した¹¹⁾。一方で、トロッタ(Anthony M. Trotta)のように、国防省予算は関係者の熟議(argumentation)の結果が反映された結果であり組織政治に基づく増分主義モデルによって決まるものではないと、増分主義へのアンチ・テーゼを唱える者も存在する¹²⁾。しかし、国防省予算研究に限って言えば、反増分主義を唱える者はトロッタを除いてほとんど存在しない。さて、軍備競争モデルと増分主義モデルについてであるが、両モデルはそもそも相互排他的なものではない。このためオストロム(Charles W. Ostrom, Jr.)のように、両者を融合させる試みを実施した者も存在する¹³⁾。しかし最近、関(Hiroyuki Seki)が国防省予算の増分主義が統計的有意であることを示すことに成功したことから¹⁴⁾、今後も当面の間は増分主義が有力説であり続けること

が予測される。

次に米国防省予算の配分(allocation)に着目した研究に目を向けると、先行研究は軍種間競争(interservice rivalry)から軍種間の配分に着目した研究と、人件費、作戦維持費、調達費、研究開発費などの国防省予算の構成要素への配分に着目した研究の2種類に大別することができる。第1の軍種間競争と国防省予算の関係について論じた研究は、軍種間競争が国防費決定に与える影響を明らかにすることを目的としていた。この分野の先駆的な研究はカンター(Arnold Kanter)によって行われた。カンターは1950年代から1960年代までの国防費決定過程の分析を通じて、軍種間競争が国防費の決定を複雑にするものであり、これを完全に排除することはできないと結論づけた¹⁵⁾。1980年代頃までは、軍種間競争は国防省予算に影響を与える大きな要素と考えられてきた¹⁶⁾。しかし、1990年代以降の研究では、各軍種は、特に冷戦終結後の国防費削減期において、軍種間競争による余計なコストを忌避するようになり、むしろ三軍間の公平配分を指向するようになってきていると見るようになってきている¹⁷⁾。第2の構成要素に着目した研究についての最初の研究は、クレサイン(John P. Cresine)らによって行われた。クレサインらは、国防長官府(Office of the Secretary of Defense: OSD)の国防省予算案における軍種および構成要素への配分¹⁸⁾がどのように決定されるのかを研究し、各軍種からの要求額、前年度の議会で承認された予算割当額(appropriations)、OSDの割当目標額、前年度の戦闘死者数との間に相関関係があることを突き止めた¹⁹⁾。クレサインらの研究は、国防省予算の構成要素別配分に初めて着目した点において画期的なものであったが、研究対象が各軍の予算要求からOSDの予算要求案ができるまでにとどまっていた。クレサインらの研究の後、約10年間、ドムケ(William K. Domke)の研究が出てくるまでの間、なぜか国防省予算の構成要素別配分に着目した研究は誕生しなかった。ドムケは、国防省予算の配分に視点を置いた研究がクレサインらの研究しか存在しないことに疑問を呈し、初めて本格的に国防省予算を構成要素別配分の観点から分析した。ドムケはアイゼンハワー政権からレーガン政権までのFY1955

から FY1984 の国防費の配分を分析し、政権が変わると予算が重点的に投資されるところ（勝者）とそうではないところ（敗者）に変化が生じること²⁰⁾、緊縮財政等により国防費総計が小さくなるほど勝者と敗者の差が大きくなる傾向にあること、大統領の人气が下がると国民の目につきやすい武器調達といったものに重点投資されるようになることを明らかにした²¹⁾。ミンツは、FY1948 から FY1980 までの米国防省予算のうちの人件費、作戦維持費、調達費、研究開発費の配分について、構成要件ごとの前年度の金額およびその構成要件が前年度に国防省予算全体の中で占める割合によって決まるということ、すなわち配分についても増分主義的な動きをすることを前提とした上で、米ソ軍事力格差、戦争、米大統領選挙など、どのような外的要因が契機となって増分主義からの逸脱が起こるのかを、統計分析を通じて明らかにしようとした²²⁾。クレサイン、ドムケ、ミンツらの研究は、国防省予算の配分に影響を及ぼす要因を明らかにするとともに、米国防省予算の研究を構成要素別配分という観点から捉え直すことを目指すものであった。その後の関連研究としては、やや趣を異にするが、地域への配分という観点から、国防省予算のうちの調達費の州への分配額（distribution）の決定要因を明らかにすることを試みたランドクイスト（Barry S. Rundquist）らの研究も存在する²³⁾。しかし、米国防省予算全体の配分（allocation）に関する本格的な学術的研究は、ミンツの研究以降なされていない²⁴⁾。なお、米国以外の国々を含む全世界レベルで見ても、国防費の配分に着目した研究の数は、決して多くないのが実状である²⁵⁾。

その他、この分野の研究は、いかに米国防省予算の増減を説明するためのモデルを構築するのが目的の1つであったため、米国防省予算の説明変数（例えば選挙や世論など）は何なのかという点にも関心が集まり、これについてもこれまで多くの議論がなされてきた²⁶⁾。

2.2 国防省予算から国防政策を分析する研究

アダムズ（Gordon Adams）らが述べるように、国家安全保障予算は最も信頼できる国防政策の指標で

ある²⁷⁾。国防省予算から米国防政策分析あるいは評価を試みる学術的研究は、比較的古くから存在した。たとえば初期の研究として、シリング（Warner R. Schilling）の FY1950 の国防予算決定過程の事例研究を通じて国防政策決定過程の評価を実施したものがある²⁸⁾。本格的に国防省予算の数値そのものを様々な視点から捉えて国防政策を理解しようとする研究は、カウフマン（William. W. Kaufmann）が初めて本格的に実施した。カウフマンは国防省予算を地域別（regional）と構成兵力別（combat units）に分けて、レーガン軍拡、ソ連崩壊後の米国防政策のあり方、「基盤戦力」（Base Forces）構想を評価した²⁹⁾。国防費を地域別、構成兵力別に分けて評価するこの方法を、オハンロン（Michael E. O'Hanlon）は「カウフマン方式」（Kaufmann Methods）と呼び、国防省予算を理解しやすく細分する上で最も有用な方法の1つである評価している³⁰⁾。しかし、カウフマン方式は政府発表の一次資料予算額をそのまま使用することができない（政府が発表する国防省予算額は構成要素別と軍種別のみ）。このため、国防省予算の動向に基づいて国防政策を評価あるいは予測する他の研究者は、構成要素別の予算額や対 GDP 比といった数値を使用している³¹⁾。この分野は情勢のカレントを分析するという側面が強く、需要も高い。しかし、国防省予算の分析手法は論者によって異なり、統一された方法はないのが現状である。

3. 考察

前節では、米国防省予算に関する先行研究の整理を実施した。本節では前節の分類にしたがったこれまでの研究について考察を実施し、今後の米国防省予算研究のための示唆を導き出すことを試みる。

まず第1の米国防省の金額に関するこれまでの研究について考察する。この分野は前述のように増分主義が有力説としての地位を確立している。しかし翻って国防省予算の分野では、増分主義と反増分主義の議論があまりされてこなかったように感じる。反増分主義者たちの主張の多くは、予算は様々な関係者の調整の結果決まるものであって、前年度実績をもとに決まるなどという単純なものではないと、増分主義モデルを非難する。このような論争は、連

邦予算を巡って 1980 年代から活発にされてきたものであった³²⁾。しかし国防省予算に関していえば、ようやく 2006 年にトロッタが反増分主義的な立場からの国防省予算の分析の必要性を主張したものの、その後の議論の進展は見られない。トロッタの研究は反増分主義者の一人であるマイヤー (Roy T. Meyers) の影響を受けたものであり、それは関係者の熟議の結果が予算として反映されたのだとする主張である³³⁾。たしかに例えば冷戦終結期など、国防省予算が前年度と比べると著しく変化した時期も存在するのであり³⁴⁾、増分主義だけでは説明には限界があるとする反増分主義者たちの主張にも一定の説得力がある。このため、米国防省予算については、マクロの視点では増分主義的であるが、それだけでは説明できないミクロの部分については反増分主義的な考えも取り入れていくべきなのかもしれない。この観点から、米国防省予算における増分主義と反増分主義の今後の議論を積み重ねが期待される場所である。

次に、米国防省予算の配分に着目した研究について考察する。イーストン (David Easton) は、「政治学は、権力の分布と行使によって影響を受けるところの、価値の権威的配分の研究にほかならない」という有名な言葉を遺している³⁵⁾。この言葉にしたがえば、米国防省予算の政治学的研究の中心は、まさにこのカテゴリーに属するものであるということになる。しかし米国防省予算の配分に関する研究は、軍種間競争に基づく軍種ごとの配分についてはそれなりに研究されているものの、構成要素別の配分についての研究は 1988 年のミンツの研究以降なされていない。なぜ研究が途絶えてしまったのかについての理由は明らかではない。ただ、少なくともそのような研究に意義が見出せないからだという理屈は成り立たないであろう。なぜならば、米国防省予算の構成要素別配分は国防省予算が「何に」配分されたのかを意味するものであり、それは軍種別配分のような「どこに」配分されたのかという問題と、同程度、あるいはそれ以上の意義を持つからである。ミンツの研究は、冷戦期までの分析に留まっている。このため、ポスト冷戦期も考慮した米国防省予算の構成要素別配分に関する研究は、喫緊に取り組んで

いくべき分野であると考えられる。

最後に、国防省予算から米国の国防政策を分析する研究について考察する。この分野の研究の最大の問題点は、やはり国防省予算の数値をどのように使用または分析するのかが論者によって異なり、統一された方法はないという点である。このこともあり、米国防省予算の数値は多くのことが読み取れる公開情報であるにも関わらず、一部の者にしか解読できない難解な代物になってしまっているのが現状である。もしも万人にとって容易に理解できる分析手法が編み出されれば、より多くの情報がより多くの人々に提供されることになり、安全保障問題への議論参加の機会増加が期待できよう。

4.おわりに

以上、米国防省予算に関する先行研究を整理し、それに対する考察を実施した。考察の結果、米国防省予算の研究についての今後の課題として、「増分主義と反増分主義との間のさらなる議論」、「配分に着目した研究の深化」、「統一された平易な国防省予算の分析手法の創出」の 3 つの必要性を提示することができた。本稿の目的は、海外の米国防省予算に関する研究の整理と、今後の研究のあるべき方向性を示すことであつた。これらの目的は、おおむね達成できたものと考えられる。

2017 年 1 月 20 日に米国でトランプ (Donald J. Trump) 政権が発足した。従来にも増して米国の安全保障環境は益々見通しが不透明になってきており、それに伴って米国防政策の見通しも立てにくい状況になってきている。このため米国政府公刊文書や政府高官の言説だけでは、今後の米国防政策を正確に予測することは極めて困難な状況である。今後は、国防省予算は米国の国防政策をより深く理解するために信頼の置ける指標になっていくであろう。特に近年は米国をはじめ、多くの国が強い財政制約下での予算編成、政策立案を迫られており、安全保障政策の分析に際しても予算政治をうまく理解することが重要な意味を持っていくことが予想される。しかし国防省予算を体系的に扱った先行研究やテキストが、特に日本において、あまり見られないのも事実である。これは日米同盟重視を掲げる日本にとって

は死活的問題である。本稿の問題提起が、今後の米国防省予算の研究に拍車をかけるきっかけとなつて

くれることを筆者は強く期待してやまない。

- 1) 米国では法律上、「国防予算」(National Defense Budget)は、①「国防省予算—軍事」(Department of Defense-Military)、②「核兵器関連エネルギー省予算」(Atomic energy defense activities)、③「(国防省とエネルギー省を除く)防衛関連予算」(Defense Related activities)の3つで構成されるとしている。実際は①が国防予算の多くを占めている。なお本稿では①を扱うこととし、「国防省予算」と明記する。用語の定義については、次を参照されたい。United States Government Accountability Office, *A Glossary of Terms Used in the Federal Budget Process*, September 2005, pp.124-126.
- 2) V.O. Key, “The Lack of a Budgetary Theory,” *The American Political Science Review*, Vol. 34, No. 6 (December 1940), pp. 1137-1144.
- 3) 森泉「アメリカ国防予算の編成過程—Richard . Stunbbing “The Defense Game”の紹介と補足」『北海道大学経済学部経済学研究』第37巻第4号(1988年3月)、95頁。
- 4) Alex Mintz, “Introduction: Political Economy and National Security,” in Alex Mintz, ed., *The Political Economy of Military Spending in the United States* (London: Routledge, 1992), p.2.
- 5) Lewis F. Richardson, *Arms and Insecurity: A Mathematical Study of the Causes and Origins of War* (New York: The Boxwood Press, 1960).
- 6) Aaron Wildavsky, *The Politics of the Budgetary Process*, (New York: Little, Brown and Company, 1964).
- 7) Colin S. Gray, “The Arms Race Phenomenon,” *World Politics*, Vol.24, No.1 (October 1971), pp.39-79.
- 8) Dina A. Zinnes and John V. Gillespie, “Analysis of Arms Race Models: USA vs. USSR and NATO vs. WTO,” in William G. Vogt and Marlin H. Mickle, eds., *Modeling and Simulation* (University of Pittsburgh, 1973), pp.145-148 は、米国、ソ連、NATO、WTOの国防費についてリチャードソン・モデルで説明できるのかを検証し、説明可能であることを証明した。Stephen J. Majeski and David L. Jones, “Arms Race Modeling: Causality Analysis and Model Specification,” *The Journal of Conflict Resolution*, Vol.25, No.2 (June 1981), pp.259-288 は、相手国の軍事費について認識するのにタイム・ラグが生じる点に着目し、タイム・ラグを考慮するとリチャードソン・モデルの精緻化が図れると主張した。Charles W. Ostrom, Jr., and Robin F. Marra, “U.S. Defense Spending and the Soviet Estimate,” *The American Political Science Review*, Vol.80, No.3 (September 1986), pp.819-842 は、リチャードソン・モデルと増分主義を比較検証した結果、米国の軍事費は3年前のソ連軍事費と連動していると、タイム・ラグを考慮したリチャードソン・モデルの優位性を主張した。Gary Zuk and Nancy R. Woodbury, “U.S. Defense Spending, Electoral Cycles, and Soviet-American Relations,” *The Journal of Conflict Resolution*, Vol.30, No.3 (September 1986), pp.445-468 は、FY1982までの米国防省予算について、選挙、戦争、米ソ関係の3つを説明変数とした場合、米ソ関係が最も大きな決定要因であることを統計分析で明らかにした。John T. Williams and Michael D. McGinnis, “Sophisticated Reaction in the U.S.-Soviet Arms Race: Evidence of Rational Expectations,” *American Journal of Political Science*, Vol.32, No.4 (November 1988), pp.968-995 及び Michael D. McGinnis, “Richardson, Rationality, and Restrictive Models of Arms Races,” *Journal of Conflict Resolution*, Vol.35, No.3 (September 1991), pp.443-473 は、リチャードソン・モデルの有用性を認めつつ、過去の脅威認識等のみが説明変数になっている点を克服し、将来の脅威をリチャードソン・モデルに組み込もうと試み、一定の成果をあげた。
- 9) Wildavsky, *The Politics of the Budgetary Process*.
- 10) John Leonard Stromberg, *The Internal Mechanisms of the Defense Budget Process: Fiscal 1953-1968* (Santa Monica, The RAND Corporation, 1970).
- 11) たとえば、John P. Crecine, “Defense Budgeting: Organizational

- Adaption to Environmental Constrains,” in R.F. Byrne, A. Charles, W.W. Cooper, O.A. Davis and Dorothy Gilford, eds., *Studies in Budgeting* (Amsterdam: North-Holland Publishing Company, 1971), pp.210-261 は、米国防省予算は通常、増分主義モデルによって決定されるが、戦争などの壊滅的事件(catastrophic event)が生起するとそれが崩れるとした。John P. Crecine and Gregory W. Fischer, “On Resource Allocation Processes in the U.S. Department of Defense,” in Cornelius P. Cotter, ed., *Political Science Annual*, Vol.4, (Indianapolis: Bobbs-Merill, 1973), pp.181-236 は、米国防省予算配分に着目した初の研究でもある。予算配分要求においては、外因的な要因よりも前年度ベース額などの内因的な要因によって大きく左右されることを明らかにした。John R. Gist, *Mandatory Expenditures and the Defense Sector: Theory of Budgetary Incrementalism* (London: SAGE Publications, 1974)は、基本的に増分主義の立場をとりつつも、1958年から1972年までの国防省予算は総額でみると増分主義モデルに基づくが、国防省予算のうち調達費と研究開発費については必ずしも増分主義モデルにしたがっていないことを指摘した。Alex Mintz, *The Politics of Resource Allocation in the U.S. Department of Defense: International Crises and Domestic Constraints* (Boulder & London: Westview press, 1988)も、Crecine(1973)同様、配分に着目した研究であり、1948会計年度(FY1948)から1980会計年度(FY1980)までの国防省予算額を構成要素別(人件費、作戦維持費、調達費、研究開発費)配分について増分・公平配分をモデル化して統計分析を実施した。だがそもそも、そのモデルの統計的有意性を完全に立証できていなかった。
- 12) Anthony M. Trotta, *Budget Arguments and Military Spending in the Immediate Post-World War Two Era*, Ph.D. Dissertation, the State University of New Jersey, May 2006.
 - 13) Charles W. Ostrom, Jr., “Evaluating Alternative Foreign Policy Decision-Making Models: An Empirical Test between an Arms Race Model and an Organizational Model,” *Journal of Conflict Resolution*, Vol.21, No.2 (June 1977), pp.235-266; Charles W. Ostrom, Jr., “A Reactive Linkage Model of the U.S. Defense Expenditure Policymaking Process,” *The American Political Science Review*, Vol.72, No.3 (September 1978), pp.941-957.
 - 14) Hiroyuki Seki, “Allocating the U.S. Department of Defense Budget: Revisiting the ‘Incremental/Fair Share Model’,” *Defence and Peace Economics* (2017), DOI:10.1080/10242694.2017.1419402.同論文はMintz, *The Politics of Resource Allocation in the U.S. Department of Defense* が提示した統計モデル(増分・公平配分モデル)を使い、FY1949からFY2015までの構成要素別の国防省予算金額を分析し、統計的有意性を完全に得ることに成功したものである。なおMintzが成功させることができなかったことを成功させることができたのは、いわゆる「大数の法則」によるものである。つまりMintzの時代よりも時代が進みデータの標本数が約2倍に増えたためであると、関は論文中で述べている。
 - 15) Arnold Kanter, *Defense Politics: A Budgetary Perspective* (The University of Chicago Press, 1979).
 - 16) 予算管理局(OMB)で約20年間の勤務経験を持つスタビング(Richard A. Stubbing)は、国防予算を巡る軍種間競争は表舞台には出ないものの、それは峻烈を極めると述べている。Richard A. Stubbing, *The Defense Game: An Insider Explores the Astonishing Realities of America's Defense Establishment* (New York: Harper & Row, 1986), pp.69-76.
 - 17) Sharon K. Weiner, “The Politics of Resource Allocation in the Post-Cold War Pentagon,” *Security Studies*, Vol.5, No.4 (Summer 1996), pp.125-142; Jessica Deighan Blankshain, *Essays on Interservice Rivalry and American Civil-Military Relations*, Ph.D. Dissertation, Harvard University, 2014.
 - 18) ここで言う構成要素とは、たとえば、「陸軍の人件費」や「海軍の作戦維持費」、「空軍の調達費」といったものである。

- 19) Crecine and Fischer, "On Resource Allocation Processes in the U.S. Department of Defense," pp.181-236.
- 20) 前年度で増加率が最も高かったものが「勝者」、最も低かったものが「敗者」とされた。たとえば、1960年度の勝者は陸軍の研究開発費で100%増、敗者は海兵隊の調達費で40%減であるとされた。William K. Domke, "Waste, Weapons, and Resolve: Defense Posture and Politics in the Defense Budget," *Policy Sciences*, Vol. 16, No.4 (March 1984), p.384.
- 21) Domeke, "Waste, Weapons, and Resolve," pp.371-390.
- 22) Mintz, *The Politics of Resource Allocation in the U.S. Department of Defense*.
- 23) Barry S. Rundquist and Thomas M. Carsey, *Congress and Defense Spending: The Distributive Politics of Military Procurement* (University of Oklahoma Press, 2002).
- 24) 前出の Seki, "Allocating the U.S. Department of Defense Budget" は、Mintz, *The Politics of Resource Allocation in the U.S. Department of Defense* が統計的有意を得ることができなかった増分主義について、統計的有意を得ることに成功したものに留まっており、配分についての研究と言うためには一歩踏み込みが足りない。
- 25) リンゲル (Itay Ringel) らが指摘するように、予算配分に着目した研究は世界レベルでも少ない。Itay Ringel and Asher Tishler, "The Government Budget Allocation Process and National Security: An Application to the Israeli-Syrian Arms Race" in Dereck L. Braddon and Keith Hartley eds., *Handbook on the Economics of Conflict* (Cheltenham, Edward Elgar, 2011), pp.105-142. 数少ない研究の例として次のようなものがある。コウビー (Vally Koubi) は、調達費と研究開発費の配分について、競争国のない場合には、調達費が研究開発費よりも大きくなるが、潜在的な敵を有する場合、および実際に競争をしている場合には、研究開発費の配分が高くなると理論的に論じた。しかし、実証的な検証はなされていない。Vally Koubi, *Qualitative vs Quantitative Arms Races: The Allocation of the Defense Budget*, A Conference Papers presented at the annual meeting of the International Studies Association, San Francisco USA, March 25-29, 2008. また、シリアとの軍備競争が原因で、イスラエルにおける軍事費、その中でも調達費への配分が大きくなる傾向を明らかにした研究もある。Ronen Bar-El, Kobi Kagan and Asher Tisher, "Forward-Looking Versus Short-sighted Defense Budget Allocation," *Journal of Conflict Resolution*, Vol.54, No.4 (August 2010), pp.638-662.
- 26) 国防省予算を変化させる諸要因の中でも、選挙が最も重要であるとする趣旨のものが比較的多い。たとえば、Miroslav Nincic and Thomas R. Cusack, "The Political Economy of US Military Spending," *Journal of Peace Research*, Vol.16, No.2 (1979), pp.101-115 は、なぜ米国の軍事費が第2次世界大戦前よりも大戦後のほうが上昇したのかという問いを設定し、軍事費は現職の政治家たちにとって容易に経済刺激の道具として使用でき、選挙の得票につなげるからであると分析した。Kenneth R. Mayer, "Elections, Business Cycles, and Timing of Defense Contract Awards in the United States," in Alex Mintz, ed., *The Political Economy of Military Spending in the United States* (London: Routledge, 1992), pp.15-32 は、ソ連崩壊後においては、選挙が国防契約 (defense contract award) を増加させ、ひいては国防省予算の増加要因になるであろうと主張した。Morton H. Halperin and Kristen Lomasney, "Playing the Add-on Game in Congress: The Increasing Importance of Constituent Interests and Budget Constraints in Determining Defense Policy," in Leon V. Sigal, ed., *The Changing Dynamics of U.S. Defense Spending* (Westport: Praeger), 1999, pp.85-106 は、ポスト冷戦期における安全保障の優先事項についてコンセンサスが得られなくなったため、連邦議会軍事委員会などの国防省予算に関係する委員会に所属する議員の選挙区の利益が国防費を決定する重要な要素となったと指摘した。大統領が国防費に与える影響力を検証した研究としては、William K. Domke, "Do Leaders Make a Difference? Posture and Politics in the Defense Budget," in Alex Mintz, ed., *The Political Economy of Military Spending in the United States* (London: Routledge, 1992), pp.33-51 が、アイゼンハワー政権期からレーガン政

- 権期の国防省予算の分析を行い、大統領のリーダーシップは国防省予算に影響を与えるものであることを示した。世論が国防費に与える影響を検証した研究としては、Thomas Hartley and Bruce Russett, "Public Opinion and the Common Defense: Who Governs Military Spending in the United States?" *The American Political Science Review*, Vol.86, No.4 (December 1992), pp.905-915 は、1965年から1990年までの米国防省予算と世論には相関関係があり統計的に有意であると示した。Thomas H. Hartley, *What Determines Defense Spending?: Public Opinion, Mass Media and the Soviet Threat*, Ph.D. Dissertation, Yale University, December 1994 は、米国防省予算は世論の影響を強く受けるものであり、特に大統領予算要求段階においてより強い影響を受けるとした。Richard C. Eichenberg and Richard Stoll, "Representing Defense: Democratic Control of the Defense Budget in the United States and Western Europe," *The Journal of Conflict Resolution*, Vol.47, No.4 (August 2003), pp.399-422 は、米国、英国、フランス、ドイツ、スウェーデンの5か国について、1960年代から1998年までの間の、国民と政策の相関性について回帰分析を行い、5か国全てについて、世論が政策のうちの軍事費の決定について重要な影響を与えており、特に米国においてその傾向が顕著であることを明らかにした。一方で、Richard Stoll, "Too Little, but Not for Too Long: Public Attitudes on Defense Spending," in Alex Mintz, ed., *The Political Economy of Military Spending in the United States* (London: Routledge, 1992), pp.52-64 は、1947年から1987年までの米国防省予算と世論の動向について統計分析を行ったところ統計的有意は得られなかったとする否定的な見解もある。複合的な要因が国防省予算を決定するのだとする研究としては、Thomas R. Cusack, "On the Domestic Political-Economic Sources of American Military Spending," in Alex Mintz, ed., *The Political Economy of Military Spending in the United States* (London: Routledge, 1992), pp.103-131 があり、レーガン政権期を含む冷戦期における国防費には、大統領の選挙への関心度、大統領支持率、失業率、国民の経済問題への関心度、国民の国際問題への関心度、戦時の兵員動員数の複数要因が影響を与えていることを明らかにした。
- 27) Gordon Adams and Cindy Williams, *Buying National Security: How America Plans and Pays for Its Global Role and Safety at Home* (New York: Routledge, 2010), p.1.
- 28) Warner R. Schilling, "The Politics of National Defense: Fiscal 1950," in Warner R. Schilling, Paul Y. Hammond and Glenn H. Snyder, eds., *Strategy, Politics and Budgets* (Columbia University Press, 1962), pp.1-266.
- 29) William W. Kaufmann, *A Reasonable Defense* (The Brookings Institution, 1986); William W. Kaufmann, *Glasnost, Perestroika, and U.S. Defense Spending* (The Brookings Institution, 1990); William W. Kaufmann, *Assessing the Base Force* (The Brookings Institution, 1992).
- 30) Michael E. O'Hanlon, *The Science of War: Defense Budgeting, Military Technology, Logistics, and Combat Outcomes* (Princeton University Press, 2009), pp.18-27.
- 31) たとえば、現在は戦略国際問題研究所 (CSIS) の研究員となっているハリソン (Todd Harrison) は、戦略予算評価センター (CSBA) に所属していた時に、毎年、国防予算の過去の実績や政府発表のデータを使って継続的に国防政策の分析、評価、提言をしていた。Todd Harrison, *Analysis of the FY2017 Defense Budget* (Center for Strategic and International Studies, April 2016) など。
- 32) 河音琢郎『アメリカの財政再建と予算過程』日本経済評論社、2006年、163-199頁。
- 33) Roy T. Meyers, *Strategic Budgeting* (The University of Michigan Press, 1994).
- 34) 冷戦終結期の国防予算編成過程についての研究として、関博之「冷戦終結と米国の国防予算—1991会計年度国防授權法成立過程に見る米国防予算編成の事例研究」『国際情報研究』第14巻第1号 (2017年)、15-26頁参照。
- 35) デヴィット・イーストン『政治体系—政治学の状態への探求 (第2版)』山川雄巳訳、ペリカン社、1976年、153頁。

21世紀社会における人間性回復の課題 —「共感」(empathy)の再生をめぐる—

磯部 千枝
日本国際情報学会

On Cultivation of Humanity in 21st-Century Society — How to develop Empathy in the contemporary human situations —

Chie ISOBE
Japanese Society for Global Social and Cultural Studies

Rapid and great changes of society are going on today in the global world. In the age of the “Fourth Industrial Revolution” it is necessary to see from a new point of view what it is to be human in a full sense of the word. In this report, we examine the role of “empathy” in becoming truly human and forming new relations of members of society.

I 「序文」

後世から 21 世紀の社会を歴史として捉えるなら、
持続可能な世界¹の危機という大命題とともに DX:

¹ 日本学術会議 日本の展望委員会 持続可能な世界 分科会 2010.4.5『日本の展望—学術からの提言 2010』P.15 4.課題と解決策 (6)リスク③IT 技術を活用した環境倫理へのアプローチ」にこのように語られている。グローバル時代においては、新たに人間と自然との関係を律する規範(環境倫理)が求められている。その根底にあるのは、「ある枠組み(価値基準・規範)のなかで考えられたサブシステムにおける定量/定性的な最適化は、別の枠組みで考えると最適にならないことを認識し、枠組みの設定こそが重要であり、そのために複数の視点から絶えず物事に対しズームを利かせながら、それらを俯瞰するといった、包括的な視野を意識的に持たねばならない」という、課題に応じて「適正視点」を変容させ、その間を柔軟に移動する姿勢であろう。この「ズームを利かせる、全体を俯瞰する」という作業こそ、空間情報科学をはじめとする IT の本質的な機能であり、その効力が期待できる分野である。情報化社会の本質は、サイバースペース(実空間と区別されたコンピュータのネットワークが生み出す仮想空間、デジタルワールド、実際の実物世界、経済・生活・産業・環境)に先導的な役割を果たすことにある。したがって実物世界を情報空間上に再現するサイバースペースを、いかに情報の欠落なく構築するかとそれをどのように利用するかが重要な課題と考えられる。そこで膨大な地理空間情報を取り扱い、多解像度で、3次元や時系列の地球を実時間で

デジタルトランスフォーメーションによるグローバル化が第 1 に象徴されるに違いない。現在の私たちは、ひとりまたひとりと、そのような生活領域への扉を開き新しい社会基盤に移動し始めた段階にある。そのなかにはレガシーシステムからまったく新しい社会システムに活路を見いだし迷いもなく前進している者、新しい領域に入りたいと思いつつながら、旧来のシステムの規律や慣習の網に両手両足を絡め取られ自由度を奪われている者、変革の流れにただ身を委ねるがごとく側から汎用化に供される進行具合を傍観しつつ成り行きを伺っている者がいる。しかしながら私たちがどのようにあろうとも、社会システムは否応なしに新しい境地に移行している。後の世から俯瞰するなら、そのような〔歴史的転換点：移りゆく世〕をひとびとはどのようにして迎え、受容し、〔人生に投影したのか：豊かな生の精神的基盤の在りどころはどこにあったのか〕、学びのあり方とディープラーニングの登用の仕方について問わずにはいられないはずである。さまざまな人たちの英知を、今後の社会の進歩に役立たせ

表現することを可能にするデータベース、ツール、社会制度の開発が必要である。

るために、私たちが集団思考 (group thinking) にかたまりやすいかということに気づきを得ながら、共同思考 (collective thinking) の重要性について開眼する過程を垣間見るに違いない。この共同思考に欠かせないのが、私たちの誰もが自然状態で持ち合わせる「エンパシー(共感するチカラ)」なのである。これを取り戻し、社会に再登用していく過程であるに違いないのだ。

私たちの経済活動の基盤となる産業、物流、金融などのビジネス領域を隔てるあらゆるフィールド間の垣根が〔取り外され：全く新しい常識に塗り替えられ〕、人びとの社会生活に革命的な変化をもたらされる。この流れは第4次産業革命と称され、人びとの社会生活を同時進行的に巻き込んでいく。家電や車だけでなく医療機関や学校、企業や社会インフラのシステム網が IoT²で繋がりを持つ世界を目前にして〔人びとのコミュニケーション:人と人とがあらゆる交流を通じて相互に作用する仕方〕にも当然ながら影響を及ぼす要因となっている。

そのような近未来社会の前提にある〔現下の社会に特異な状況：地球規模の気候変動、少子高齢化を伴う人口構造の変化、年齢や人種・宗教の異なりや生体的な異なりを超えての協働、移民や経済格差との折り合い、近未来に向けた各世代への教育の仕方など〕地球規模で浮かび上がる諸課題を抱えながら国としての統治形態、それらの国家同士による外交、サイバー空間を含めたテロ対策、地域連携による安全保障のあり方など、さまざまなかたちで諸問題が堆積している。

今後の課題は、私たちがこのような社会的課題を背景に複雑に絡み合う諸問題を紐解く叡智を自己のうちに蓄えるだけでなく、当事者として理性を尽くして如何様に行動に結びつけていけるか、職場、地域コミュニティにおいても一人、また一人と人々を

² 『つながる世界のセキュリティ設計入門』情報セキュリティ大学院大学 p.3 IoT: モノのインターネット (Internet of Things) IoT の特徴: 多様な機器・システムがつながることより複雑なセキュリティ要件をもつことになる

議論に巻き込みながら課題解決に向けたエネルギーを保ち続けられるか、また何れのコミュニティの中でも人間同士の有機的な関係を築いていける一個人でいられるかというところにあるといえる。

まずは過去の事象にフォーカスしていく人間による論理的思考法には限界があることを私たちは了解しなければならぬだろう。むしろ認識の枠を広げながら、限りあるいのちを将来に手向け次世代にタスキを渡していくためにも現下の諸条件に対応していくためには AI の助けが不可欠となる。前述した複雑に絡み合う諸課題の課題解決に向けては、AI から派生するさまざまなテクノロジー³ を有用に作用させる仕方、人間であることの本質を十分に理解した上で、その質を向上させていく試みこそが最大限の解決策と考えられる。しかし他方では、現在「問題特化型 AI」が主流を占める傍らで研究されている「次世代型の AI 開発」⁴には、サイエンス・テクノロジー・哲学が三位一体となり、AI が主体的・能動的処理を行えるよう人間の脳の働きに迫る方向の研究開発が進められている。このような場面にこそ、さまざまな研究分野の専門家をはじめとした多種多様な人間同士による共同思考 (collective thinking) の重要性を感じ得ずにはいられない。

II 「豊かさを育くむ人間性の本質について」
産業革命による変革は資本主義経済システムを世界中に広め、ひとびとの生活基盤を革命的に塗り替えていった。私有財産制、市場経済が貧富の格差をもたらし、資本家と大量の賃金労働者との関係性を作り上げ社会問題を産んでいった。第1次産業革

³ AI の深層学習 (ディープラーニング) は人間の神経回路をコンピュータ上で模擬するニューラルネットワークという技術を発展させた機械学習の一分野である。どのように判断するかを人間が教えることなく機械が自分で学ぶ研究は加速度を増して進化している。

⁴ 『人工知能のための哲学塾』p.111. 11 「人工知能はサイエンス、エンジニアリング、哲学が交錯する分野です。まず知能とは何かを探求するサイエンスであり、そして知能とは何かを問う哲学であり、さらに知能を作ろうとするエンジニアリングです。この三者が交錯する、とらえがたい中心に人工知能はあります。」

命の原動力：生産工程・産業資本・運輸などの革新的な技術の投与によって革新された新しい経済基盤に、その規模、変化が及ぼされた範囲の広さ、影響力において社会構造に革命的な違いをもたらした。〔革命：本格的な資本主義体制への移行期〕の前夜といえる時期に経済的な交換の本質とそれを行うひとびとの社会生活の中で享受する豊かさの関係性について探究したスコットランド哲学史のなかで、人間の本性について壮大な探究をしたヒューム⁵、そしてそのヒュームの人間本性を受け継ぎ精緻化していったアダム・スミス⁶、この二人の連携によって、またスコットランド各地（カーコーディ、グラスゴー、エディンバラなど）においての知的活動の影響を受けたスミスは近代的な経済社会における人間の本质を見事に浮かび上がらせた。折しも

⁵ 『アダム・スミスとその時代』p370 1.3 「ヒュームはこの大胆な試みを行えるようにするため、政治社会でどうやって生き残り成功するのかが分かる、さまざまな手法の懐疑的な説明をスミスに提供した。欠乏を動因として人間の精神の成り立ちをみるこの考え方が、一個人の自然および超自然の世界や政治、道徳、宗教の捉え方にどれだけ強く根付き、その形成に影響を与えているかを明らかにしたのは、ヒュームなのである。また、計画の行程を決めたのも彼のほうだった。

ヒュームはこの新しい科学を築いていく作業をスミスに任せただけで、どんなことをしようとしていたのか、また達成したものは何だったのか、その手がかりを得られるのは刊行・未刊行、完成・未完成を合わせたスミスの文章からとなる。彼は、人の性格が具象化してくる、さまざまな感情の研究や感性を構成する色々な要素の研究を通して、精神の仕組みや社会化の過程を調べることが可能だと説明した。スミスは、われわれが適切さや正義、市民としての義務や美といった、社交術のうまさや品格を左右する感覚を獲得する過程を探求した。そのなかで彼は、自然状態における人間の貧弱さは、やっても安全だと思えるならいつでも改良しようとする心といつしか密接に関わってきたのだという、近代の哲学では注目されていなかった、人間本性の原理に関するひとつの単純な所見をみずからの分析に盛り込んだのである。… それによって彼は、ある程度安定した社会ならば、支配者の気まぐれに従うよりも物質面や道徳、政治や知性においてもっと自然で着実な発達経路を辿るということを説明できた。

⁶ 『アダム・スミスとその時代』p370 1.1 「ふたりは手始めに、人間の人格も、政治世界と文明の進歩とを可能にする慣行・習慣・制度も、欠乏を抱えた種が想像力や共感を駆使して果てしなくのしかかってくる必要に対応したものだ」と説明できるような、さまざまな過程を示すことにした。」

スミスが生きた時代は〔まさに第一次産業革命に差し掛かりはじめた時期であった。：イギリスに発祥し次世代に向けて地球規模での飛躍的な技術革新を迎えようとしていた。〕スミスは自身が著した『国富論』で資本主義の本質を伝える一方で、当時としてこれから迎えるのであろう経済発展の前提には〔安全な社会基盤：その社会基盤を支える人びとの道徳心が十分に培われている状態〕があり、ひとびとによる同胞感情が自然に働いていることが不可欠であることを『道徳感情論』の中で示している。スミスに拠れば、日常の生活において、私たちは相手が自分の内面的な道徳感情に導かれて判断しようとしているのか、或いは周囲の考えに合わせようとしているのかを見極め、この前者を道徳的な責任を持った人であると見なした。真の豊かさとはこのようにひとびとの美的感性⁷と表現し得る高度な社会基盤を前提としている。ひとりひとりの市民が自律して社会生活を営んでいると、自ずと経済的豊かさも縦走していくことをスミスは裏付けている。第1次産業革命の時代から解決をみることのない課題はここにある。スミスが経済発展の前提として打ち立てた人間性の土台を強固に固めていくことに配慮が向かわないまま、外側の経済システムそのものだけがその規模を巨大化させながら発展し多くの社会問題を生み出していった：『国富論』の中でも注意深く唱えていた〔経済という社会的交換：それを行うひとびとの倫理や道徳、趣味や教養は加味されることなく営まれる個々のひとびとの利己心の追求であり〕、〔ひとびとは作用の仕方を客観的に観察し、作用法則として認識しながら関わり合いをもつことによって経済は発展する：経済活動に従事する場面と人間性の豊かさについて分別している〕。

⁷ 『アダム・スミスとその時代』p158 1.12 スミスはきわめて多くの人びとの行動には、より直接的で思弁的でない動機が働いていることを発見した—それは美的な感性であり、彼らが便益や秩序を求めるのは、それが自分やほかの者に利益をもたらすかもしれないと同時に、それ自体が美しく満足を与えてくれるからである。～スミスがもっと詩的な表現をしている箇所であれば、〈見えざる手〉のはたらきによるものだと言っていいだろう。

さらに人間同士のやり取り、結びつきの部分に不可欠となる「エンパシー：共感するチカラ」により注意を傾けるべき時代を迎えているのだ。人種や宗教、国籍や性差、経済環境の落差など、さまざまな境遇・種別の異なりを乗り越えて離れた場所にいるひとびとの立場に入り込んで思考することは、ソクラテスが唱えた「人間性を培う」ために要求される①〔自主的能動的に思考する懐疑の姿勢を思考様式に取り入れる〕⁸ことでもある。しかし、教育の中でも試行錯誤されてきた〔これらの教育方法：益々重要度を増すであろう教育方法〕に必要不可欠となるのが、先述したスミスによる②〔経済という社会的交換の原理とそれを営むひとびとの道徳心・倫理、趣味や教養との関係性〕について理解を促すことと考えられる。経済社会と「人間性を培う」こととの間に、このような原理が働くことによって「人間性の豊かさ」を育むほうの本来の意味を転倒させてしまうことで、経済社会に入り込んだ領域で経済的交換をしながら「人間性を培う」ことなど到達困難な崇高な理想郷として扱われやすくなりがちなのである。未来を担う子供たちへの教育、そして社会人のリカレント教育・企業内教育のなかでは、①に先立ち、先ず②について理解を促すことが肝要と考えられるのだ。

Ⅲ「デモクラシーを支える共同思考とエンパシーの関係について」

民族や政治・経済の枠を超えて、年齢性別や生態的な違いを超えて相手を理解し受容するために最も重要な人間の基本的な能力は、個々のひとびとの「シンパシー（共感）」を担う能力、すなわち「エンパシー（共感するチカラ）」といえる。エンパシーの本質には2つ⁹ある。一つは、「他者の置かれ

ている状況を想起しながら、その人の立場に成り代わってものごとを考えようとするチカラ」であり、もう一方は、「他者が見ている芸術作品を、あたかもその人が美的鑑賞をするのと同様のレベルで美的にとらえる心の働きを自覚するチカラ」と表現することができる。人間相互のコミュニケーションには前者だけでは物足りない部分を後者が補うとも表現できるのであるが、むしろ良質で高度なコミュニケーションには両者は欠くべからざる関係性であると捉えられる。

14世紀から16世紀の頃、中世から近代への橋渡しとして興隆した「ルネサンス」¹⁰期以降の精神の柱となった「個人の尊厳」は、フランス革命と人権宣言の支柱となり、アメリカ合衆国の独立宣言の精神ともなった〔神の前における自由と平等：平和・博愛〕は「民主主義（デモクラシー）」の思想的基盤であり基本原理である。デモクラシーに重要なことは市民社会の基本である「共同思考（collective thinking）」である。今日的思考を交えてデモクラシーを定義すれば、「自己と他者の尊厳を尊重する自律した個人の参画により相違を乗り越えて平等な政策決定を目指す社会制度」といった表現になろう。このときの「相違を乗り越える」チカラがすなわち「エンパシー（共感するチカラ）」の作用的効用にはほかならないのである。一方、独自の歴史を歩んだ日本では「個人の尊厳」がひとびとの精神に十分に根付いていないところに、より注意を向けなければならないであろう。

Ⅳ「経済社会とエンパシーについて」

イギリス経験論の脈絡の遡上でヒュームからアダム・スミスへの継承に代表される倫理学を基礎づけ

⁸ P.14 l.15 『Cultivating Humanity』Martha C. Nussbaum, Our campuses educate our citizens. Becoming an educated citizen means learning a lot of facts and mastering techniques of reasoning. 私たちの教育研究の場である大学は市民を教育〔して自覚的な市民に育て上げる〕。教育ある自覚的な市民となることは、多くの事実を「正確に」認識すること〔正当な根拠を持って筋道を立てて〕推論を展開する技術を自分のものとするを意味する。

⁹ OXFORD ADVANCED LEADER'S DICTIONARY NEW EDITION empathy

n/ 1. ability to imagine and share another person's feelings, experience, etc.

2. ability to identify oneself mentally with a work of art that one is looking at, and so to understand its meaning.

¹⁰ P.57 l.14 『アダム スミス』「人間中心、現世中心の考え方がはっきりあらわれるのはルネッサンスとときである…」

る原理として共感を「他者の置かれている立場に成り代わってものごとを考えるチカラ」と結びつけている一方で、「他者が見ている芸術作品をあたかもその人が美的鑑賞をするのと同様のレベルで美的にとらえるこころの働きを自覚するチカラ」についても同様のこととして扱っている。ヒュームは、勤勉さと才能をフル稼働させて仕事に貢献し、労働の果実として労働という精神の活動それ自体から享受する満足感と、抑制の効いた快樂を味わうことができると同時に、産業活動と技術的な向上による学芸上洗練された技芸の進歩にフォーカスしている。これらの進歩が人々の社交性を高め、知識や芸術的感性を互いに交換したり、会話を重ねることによって人間性を高めてゆくことに繋げてゆけるのだ。このように、産業活動と知識と人間性の揺るぎのない相互作用が真になされている国、地域、コミュニティが〔洗練されている：熟成している〕ことの証であり、それらの構成員となる市民は真の豊かさを感じているに違いないといえる。

スミスは『道徳感情論』において観察する側とされる側の相手の感情を汲み取ろうとする努力と自分の感情を抑制する相互の努力によって、そして「他者の行為と同じように自分の行為を評価する方法を覚えていく過程について、綿密に実験的な研究をしようというものであり、何よりもこうしたさまざまな過程が人格に与える影響に着目する、ということであった。」社会的所属の違うひとびとの相互関係に共感を生み出す、この相互作用の力を基本に置いている。

社会のいたるところにある人間相互に高め合う行為基準に照らしながら、自分自身の自己基準によって生きるという自然な行為によって、国家、親戚や親子関係、友人、経済活動の協働者間の関係など人間同士によるおおよその関係において、〔人間個々の道徳心による相互作用がなされている状況にこそ：フェアプレイといえる状況にこそ〕、『国富論』に著した経済発展が成立することの礎でなければならないことが秘められていたと解することができる。この条件下で経済活動が営まれるとき、ひとびとは社会的交換によって互いを高め合い、慈しみ合い、経済的自由、選択の自由という豊かさを

享受するために必要な条件を潔く手に入れることができるのだ。

V 「デモクラシーのあるべき姿とそれを達成する困難さについて」

個々の人びとがエンパシーを培った先に、ようやく「デモクラシー(民主主義)」の本来のあるべき姿、〔世界市民の概念：自分が属するひとつの国や地域、企業、仲間などのコミュニティへの忠誠よりも、先ず先に全世界への忠誠を意識する市民像〕へ向かう道の〔玄関口：あらゆる垣根が取り外された現在に相応しい立場〕にたどり着くことができるといえる。しかし現代社会には、このデモクラシーのあるべき姿を模索する前に解決を要する難題が社会の至るところにひしめき合っているため、〔デモクラシーが成立する要件：ひとりひとりの市民が自律している状態、自律しているひとたちの割合が高まっている状態〕にまで辿り着く前に、様々な事情を抱えたあらゆる市民を乗せた船は難破しかねないのである。あらゆる市民とは、この社会に特徴的な格差社会¹¹の住民であり、限られた富裕層を頂点にした所得ピラミッドの裾野のおおよそその部分を構成する経済的自由に制限のある分厚い層を含み、その底辺には私たちの将来を託す子どもたちへ適切な教育を施そうとしても敵わない貧困層を抱えている。

さらに現実の世界にこのデモクラシーのあるべき姿を落とし込もうとすると、組織にも人びとの協働作業の場面にも必要不可欠となる適切な主導力、つまるところはリーダーシップに関わる問題としてひとつの課題が抽出される。リーダーシップとは語るまでもなく集団の理想的な着地点に向けてその問題解決を望むステークホルダーを当事者として個々の利害を調整していく過程に散在する諸問題に解決の糸口を見つけながら手繰り寄せていくという難儀な作業に情熱を傾けられ、不断の努力を厭わない者と表現することができる。また個人としては、当事者意識を稼働できる一人の人間であることが要求される。社会的諸問題はあらゆるところに散

¹¹ 『Capital in the Twenty-First Century』 Thomas Piketty

在しているが大概は当事者になって初めて気づくことができる。それらは家族の中に、企業の中に、そしてその垣根を飛び越えた人びとが協働し活動する広大な範囲に、地球規模に、波及しており、[目の前の問題に自覚的に対処できるのかが問われる：自律したひとりひとりの人間同士の協働によってモラルエコノミーが為される]時代となってきたためである。

ことさらに〔DX:デジタルトランスフォーメーション〕に向かう社会においては、人間が人間に対する興味の度合を薄れさせてしまいがちなことが解決を困難にする要素として覆い被さる。21世紀に相応しいリーダー像とは、前述した集団志向による同調圧力を取り外し、「共同思考(collective thinking)」による協調をなし得る存在、皆が共感できるビジョンを常に抱き続け、例え間違ったとしてもリスクをミニマイズしていける存在、惜しみのない努力を継続していける人間特性と行動姿勢により人びとを惹きつけていく存在であり、[コミュニティに共通善を生み出してゆけるひと：成員のひとりひとりを主人公にしていけるひと：社会的合意形成を導いてゆけるひと]¹²なのであろう。

VI 「教育について」

教育を考えるうえで、ひとびとに密かに入り込んでいる伝統や慣習のなかで、新しい社会への対応力を阻害し未来へ目的が入り込むことをせき止めようとする作用因に気付くことから始めなければならない。

知識を通じて自然力を支配するチカラの増大の規模に比べ、[人間に直接働きかける人間の科学と技術の不足：判断力や実行力を身につけるための教育のばらつき]が社会問題の原因に関与しているといえる。私たちに望まれる態度は、政府・国際機関・企業・地方発ソーシャルビジネスなどすべての組織においてAIやAIロボットが労働人口の減少の担い役として供与される新しい社会システムのなかで共生していく方法を見つけ出すことである。

¹² 二項対立に陥りそうな案件(ex: 自然保全 vs 開発・自己利益 vs 社会的利益)を「より創造的な方向に」うまく軟着陸させてプロジェクトを前に進める。社会的合意形成とは、この進め方を指す。

さらに経済の効率性の向上に向かう道筋には、自然力を利用する力を増強させ環境保全・エネルギー問題に影響を及ぼすといった悪循環に陥りやすい性質が介在することに意識を向ける必要がある。教育は、現在未来の社会のテーマとなっている持続可能性(sustainability)の推進を養成する重要な役目を負うということになる。これに対して個々の人間には自然力を取り戻し、想像力をフル稼働させ、自然界の一員として、さまざまなコミュニティの一員としてひととひととの有機的な関係を育みスマート社会のなかで豊かな生活を営みながら高度な社会基盤を支えていくことが要請されることから、このようなひとびとを一人でも多く生み出していくことが教育の使命となっていくはずである。

知識の運用を負う部分はAIによって、その機能的特質としてアクティブラーニングに活かすことができる。人は論理思考を駆使するときの負荷のおおよそAIを媒介に軽減する一方で理性的側面を高めていくことが求められる。これまでひとりひとりのうちにバランスが求められてきた論理と理性の両局面のうち、論理性の多くをAIに明け渡すことによって、理性による解決力やイマジネーションの働きを高めていくことのできる可能性が飛躍的に増すのではないだろうか。近未来を担う子どもたちの教育現場で進んでいる教育改革とは、IoTによってグローバル化した経済社会で経済活動に従事し、このような社会に相応しい新しいビジネスを創出し活躍できる人材を輩出することが主題としてあげられている。様々な人種、文化背景を持つ多種多様な人たちと協働しながらビジネスを創造していくための、対等な人的交流の基礎となる〔語学力：会話力〕に加え、コミュニケーションに不可欠な「エンパシー(共感するチカラ)」の養成には力点が置かれている。

1. 将来を担う子どもたちのへ教育

このような社会を背景にすれば、子どもたちへの教育のあり様にも自ずと変革が求められる。これまでは何を教えるかに注力されてきた教育にも、どのようにといった方法論が求められている。具体的には

13、次世代型教育モデルとして、学びとる知識・専門知識（数学・語学といった従来型とロボティクス・起業家精神といった現代型学問領域）、知識の運用方法として健全な批判力、判断力、表現力の技法（クリエイティビティ・クリティカルシンキング・コミュニケーション・コラボレーション）、社会との関係の取り方（マインドフルネス・興味・関心・勇気・レジリエンス¹⁴・倫理・リーダーシップ）

¹³ “THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS” Education 2030 project (www.oecd.org)

Student will need to apply their knowledge in unknown and evolving circumstances. For this, they will need a broad range of skills, including cognitive and meta-cognitive skills (e.g. critical thinking, creative thinking, learning to learn and self-recognition; social and emotional skills (e.g. empathy, self-efficiency and collaboration); and practical and physical skills (e.g. using new information and communication technology devices).

The use of this broader range of knowledge and skills will be mediated by attitudes and values (e.g. motivation, trust, respect for diversity and virtue). The attitudes and values can be observed at personal, local, societal and global levels. While human life is enriched by the diversity of values and attitudes arising from different cultural perspectives and personality traits, there are some human values (e.g. respect for life and human dignity, and respect for the environment, to name two) that cannot be compromised.

OECD education 2030 は、現在の学生らが社会人として近未来の世の中を繁栄させながら形作っていくために必要となる知識、スキル、学習態度、価値が何であるかについての答えを探っていくことを目的とするプロジェクトである。当プロジェクトでは加速度を増すグローバル化、技術革新、社会・経済・環境下で現在の学生が 2030 年には社会の一員となって貢献していくことを目指している。

¹⁴ 「レジリエンス resilience」は心理学用語 人や人格について使用する場合は、ショックや落ち込みにも瞬時に回復するこころの力を意味する また組織・集団に対して使用する場合、ダメージからの集団全体の回復力を意味する

IMF 第 43 回年次総会のテーマ「レジリエント・ダイナミズム resilient dynamism」「レジリエント・ダイナミズム resilient dynamism」は同年 2013 年の WEF2013 年次総会のテーマとなり議論された。

「今日の世界では、現状にしがみつくと、変化を求めることよりリスクが

といった 3 要素を加味した「メタ認知力 : meta-cognitive skills」¹⁵ にフォーカスした〔生きるチカラ : 社会がいかに変化しようと自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質・能力〕の育成を目的とし、教育の中で、倫理・共感の姿勢を養成するプロジェクトがスタートしている。この「メタ認知力 : meta-cognitive skills」とは、まさに他者に「共感するチカラ(empathy)」の源泉となる能力である。

2. 社会人のリカレント教育

経済社会に特徴的な金銭が絡む問題と、純粋な人間同士の相互作用を分けて考えなければならないといった煩雑さがハードルとなり、この両者の切り分け方に問題が生じると〔人と人とのつながりの障壁 : 過大なストレス〕に発展する。論理思考を重んじてきた従来の経済社会では、経済的な繁栄と引き換えに、人間性の豊かさを育むもう一方の理性の働きを鈍化させてきたともいえる。エンパシーは教育の側が負うというよりも、もっぱら家族や友人たちとのほか社会的な諸活動や自己が所属する様々なコミュニティのなかでの実践的な交流に委ねられてきた。(自分が相対する人を自分の考え、態度やマナーの鏡として、相手がどのように捉えるかをヒントにして反芻しながら養う仕方です。)¹⁶

日本人に特有な「和を保つ」(後輩が先輩に異議を唱えられない)、「場の倫理に従う」(人様に迷惑をかけないように生きる)、「仲間意識」(感情の高ぶりでの場の安心感を得ようとする)¹⁷といったような人間関係は中庸としてのエンパシーを育む土壌と考えた場合には肥沃であるとはいえない。日本独自のこの傾向は、近代に入ってから諸外国からは幼児

大きい」IMF 専務理事 クリスティーン・ラガルドによるノースウェスタン大学ケロッグ経済大学院での挨拶より

¹⁵ アメリカの心理学者 John H. Flavell が提示した認知モデル:「認知を対象とした認知」であり、対象となる「認知」と区別している。効果的・効率的な認知を行ううえで重要な役割を果たす。

新しい領域への適応には欠かせない能力であり、「優れた学習者」に関する学習理論の革新的な能力として位置づけられている。

¹⁶ 『道徳感情論』アダム スミス

¹⁷ 『タテ社会の人間関係』中根千枝

性¹⁸と捉えられる向きもあった。高度経済成長期、失われた10年間、経済低迷期、経済のグローバル化と各世代が影響を受けてきた時代ごとに特徴を示す経済社会の特性が人びとの考えに違いを生み出し世代間の大きなギャップとして世代の違う人びとと士とのエンパシーを妨げやすい要因となっている。さらにギャップは世代間だけでなく、[ジェンダー問題：女性の社会進出・女性の社会的活躍]といった早急に開かれるべき必然性を秘めた課題を残している。

第4次産業革命以前の第1次から第3次までの産業革命は産業構造を変えながら、知識を全く別の知識に置き換えてきたという経緯がある。無くなる仕事がある一方で、新しい仕事生まれていく。一方ではこの変化の流れに身を任せるために、もう一方では人口構造の変化、労働人口の減少、社会のダイバーシティ化に対応すべく、私たちには学び直しが要請されているのだ。1.の将来を担う子どもたちの教育に携わる関係者も例外ではない。第4次産業革命はさらにデジタル革命と言われているだけにその変化のスピード、影響を及ぼす範囲は計り知れない。ここで日本に特有な国民性とレガシーの教育制度が関与する。日本人の和を重んじる傾向は、ひとびとに安らぎを与え安寧をもたらす方向に働く。しかしその反面、グローバル化した経済社会を生き抜くためのメンタルタフネスの養成にかける。さらに、日本の伝統教育にはディスカッション、ディベートなど自分の意見を述べ周囲の反応を感じ取りながら自分の考え方を反芻する機会が少なく物事を突き詰めて考える訓練をしていないため、社会に問い掛けをするモチベーションが薄れてきている。職能が陳腐化するスピードに対応して行くためにも、社会人として個人的な労働と学びの循環の環境を作り出すこと、企業内においてもAIを媒介としたアクティブラーニングなど学習効果の高い方法で「エンパシー(共感するチカラ)を育むメタ認知力」と併せ、専門知識などより効率的に学習・鍛錬できるような機会を整えていくことが肝要となる。

これは難儀な作業でありながら、このようなムードが広範囲に広がっていくなれば、社会にきわめて有意義な、かつ将来に明かりを灯す働きかけとなる。

VII 「リーダーシップの概念の変遷と今日的なあり方について」

グローバル化した経済やコミュニティの中で問題解決をしていくためには適切なコミュニケーション力の働きが重要だということは誰にでも納得がいくことでありながら、適切なコミュニケーション力とは、組織とは、リーダーシップとはの概念が今昔で様変わりしていることを認識している人たちの割合が低い、或いは認識しながらもこの難儀さを理解するからこそ尻込みをしてしまう者がいる一方で、旧来の行動規範や思考法に慣性の法則が働きやすいということが問題解決を遠ざける要因となっているのではないかと仮説すると糸口が見え始めてくる。この事象はその営みが経済活動であろうがなかろうが、人々が協働する場所には必ず新たな問題として生じてくるため、問題の上に更なる問題を覆い被せることで[解決が困難な方向：遠回りを余儀なくされる方向]にベクトルを傾かせてしまうことにもなり兼ねない。

戦後の経済発展に寄与するように研究開発されたリーダーシップ行動理論が20世紀を代表するリーダー育成の基礎理論の俎上に載せられた社会で活躍してきたシニア層の成功体験がこの21世紀の問題を解決する場面では度々障害となって立ちはだかる。21世紀の問題とは、20世紀の経済発展による繁栄の裏で国境を超えた問題の種子が撒かれていることに無自覚であったためか、或いは経済を優先させるという思潮に抗わざるゆえに見て見ぬ振りをせざるを得なかったためであろうか、そのような社会で活躍してきた人々が気付いた時には、複雑に絡み合う諸問題として眼前に立ちはだかる大きな壁(ギャップ)に手も足も出ないという事態に陥っている、時には知らぬ間に当事者となってしまっている。またそのような事態に無自覚な人びとも多く存在するのが現実なのではないだろうか。さらにこの壁には多層的に二項対立する問題が随所に組

み込まれていることが問題を複雑化させ解決を困難にしている。

多層的に二項対立する問題は経済社会のジレンマとして表面化している。経済社会が孕むジレンマとして、人びとの暮らしを豊かにするはずの所得に格差が生じ始め拡大の度合を増している一方で、一般的に高収入を得るには想像力(creative 力)を要するばかりか、高リスクの仕事に挑み必要以上のストレスを引き受ける用意が必要であるなど、トレードオフの関係性のなかで生きているのである。

これを解決する手段は、私たちひとりひとりに託されているといっても過言ではない。私たちひとりひとりが日々の生活の中で考え、絡み合いを丹念に解きほぐしながら問題解決に向かう覚悟と勇気が試されているのだ。これは難儀な作業でありながら、前述したスコットランド学派、ヒューム、アダム・スミスが第一次産業革命をまたいだ時代に投じた人間本性の在りどころとして、つまりは成熟した文化を持つ我々には人生のなかで達成感と豊かさを享受し得る高次元の精神活動の対象が、まさにこの問題解決を推進しながら活動するというところに他ならないのではないかと考えられる。難しければ難しいほど、精神活動と行動による成果は、困難を引き受けた自身が受け取る果実となり得るのだ。

私たちは面倒なことから遠ざかりたいという気持ちである時にこそ、自身の立場は問題の渦中に向かっているといえるのではないだろうか。このことが正しければ、私たちは問題から距離を置こうとして、実は自分に振りかかる火の粉を払いきれない状態を継続させてしまいがちであるということ。逃避と時間の浪費、こころを涵養する機会損失という質を低める方に向かいがちになるということを理解しなければならぬのだ。

さまざまな人々の個々の個性や能力を十二分に開花させながら、その果実としての様々な英知を効率よくカタチにして問題に対処しながら創造的な活動につなげていくためには、優れたリーダーシップの存在が不可欠となる。ハーバード公共政策大学院のケネディスクールには過去 30 年間、世界の政財界のリーダー等にリーダーシップについて教鞭を

執ってきたロナルド・A・ハイフェッツ氏の存在がある。ハイフェッツ氏はリーダーシップを執る上での危険性について解明し、危機を乗り越える技術について言及している。ハイフェッツ氏が語るように、重要なのは「リーダー」という立場ではなく、ひとが「リーダーシップ」という行動を起こすかどうかにかかっている¹⁹のだ。

VIII 「IoT 社会における豊かさについて」

この複雑多岐化した諸問題の解決にあたっては、デジタルトランスフォーメーションの果実として、AI による解析が大いに貢献してくれるはずである。デジタルネイティブ世代に属する若手の社会人や学生たちは、デジタルテクノロジーの恩恵に預かる名手であり、インターネットを介して様々な人種や違いを受容しながらグローバルな市場でアイデアをカタチにしていく素養を培っている。

自他共に怠惰を主張する人たちには、どのように勉強していいか分からなかったひとたちが含まれているはずである。そういったひとであっても、AI がそのひとのステータスと目標から解釈し「あなたに今必要な学習方法を提案します」といって候補を提示してくれる。AI に導かれ、私たちはさらに賢くなって他者の理知と理知を組み合わせ、問題解決や経済的な発展に寄与する準備ができ上がる。精神が新しい活力を獲得し始めると、その力と機能を最大限に発揮させようとさらに活性化するのだ。

ひとりの市民である私たちは、同時に、ひとりの職業人であり、ひとつの地域の住民でありながら、一国の市民であり、地球の市民であり、複数のコミュニティの参画者でもあるというふうに、ひとりひとりが社会とさまざまな関係性を持ちながら活動している。私たちの社会的交流の場所が現実空間であるか、サイバー空間であるかに関わらず、地球規模の問題、国固有の問題、地域の問題、自己が所属する特定のコミュニティの課題に関係づけられているということになる。従来为国家単位、地域単位、コミュニティ単位同士の境界が縦横無尽に複雑に

¹⁹ 『最前線のリーダーシップ』p.330 1.14 ドナルド A. ハイフェッツ

入り組んでいるために、これらの問題解決や将来を展望しながらより良い社会にしていくためには、もはやひとつの集団にひとりのリーダーではよりよい解決に向かうことができないことは所与の事項となっている。

デジタルトランスフォーメーション下のリーダー像は、変化する社会への対応力が第1の使命となるであろう。主導するリーダーは副リーダーを〔理性的判断ができるように:リーダーシップという行動を起こしていくことを育成するように〕気を配り、主導するリーダーのもと訓練された多くの副リーダーたちの支えによって、副リーダー等が収集提供する専門的かつ正確な情報と事実を読み取り未来を予見していく。成員へ説明する配慮を欠かさず納得と了承を得ながら物事を進めていく。そのような中で問題の性質によっては、主導するリーダーが下支えするリーダーにさりげなく主導権を渡し、支える側に回り込むといった適宜性が働くことが望ましい。

WEF を主宰するチャールズシュワブ氏が語るように、「変革の流れは、私たちを取り巻く環境に変化をもたらすと同時に、私たちが人間であることの基本概念そのものに変化をもたらしながら、私たちが巻き込んでゆく」²⁰このことの意味を、その流れに

²⁰ Adapted from Klaus Schwab, The Fourth Industrial Revolution, 2016
We are at the beginning of a global transformation that is characterized by the convergence of digital, physical, and biological technologies in ways that are changing both the world around us and our very idea of what it means to be human. The changes are historic in terms of their size, speed, and scope.

世界経済フォーラムを主宰するチャールズシュワブ氏が第4次産業革命と題して寄稿したように、わたしたちは地球規模の変革の始まりに直面しており、シュワブ氏によってこのように語られている。「その変革の流れは私たちを取り巻く環境に変化をもたらすと同時に、私たち人間にとって欠かすことのできない私たちが人間であることの基本概念そのものに、この両者に変容を促していくことに私たちが巻き込んでゆくのである。この変容は、その規模、変化の速さ、影響の及ぶ範囲において、人類史上ほかに類を見ないほど計り知れない。」

巻き込まれる前に十二分に理解しておく必要がある。「エンパシー(共感するチカラ)」は人間が社会的関係を構築していくための基礎となる、私たちが生まれながらに持ち合わせている最も貴重な人間の財産である。いずれの時代も豊かさを求める歴史であった。それは、私たちの〔道徳心:ふるまい:自己規律〕²¹の中に、そして文学、芸術に花開いた。それは、社会の趨勢と折り合いをつけながら美的感覚を研ぎ澄ます歴史でもあった。

現下においては、後者は聴覚・視覚・触覚、あるときは味覚・嗅覚を同時に刺激する仮想現実の世界に領域を広げている。重視すべきは前者のほうであり、私たちがここを使う領域にこれまでよりも高度な働きが要求されるはずなのである。私たちがその時代に、社会的課題と向き合いながら〔エンパシー(共感するチカラ)によって:公平で中立的な観察者として〕²²同感する範囲内で全力を傾けながら、如何様に精神的な豊かさを享受していた、というように歴史の中で語られるようになるのも然程遠くない未来にあるのであろう。

引用文献

『Capital in the Twenty-First Century』 Thomas Piketty, The Belknap Press of Harvard University Press CAMBRIDGE, MASSACHUSETTS LONDON, ENGLAND 2014

『道徳感情論』 アダム・スミス著 水田洋訳 岩波文庫 2003

『国富論』 アダム・スミス著 水田洋訳 岩波文庫 2000

『Cultivating Humanity』 Martha C. Nussbaum, HARVARD UNIVERSITY PRESS, 1997

『アダム・スミスとその時代』 ニコラス・フィリップソン著 永井大輔訳 白水社 2016

²¹ 特定の集団に対する愛着や思い入れ「慣習的な共感」としてではなく、人間社会のなかで「どのような行為が認められ、どのような行為が認められないか」という経験則に基づいて我々が「自分自身のために、自然に定める」規則を指す

²² 『アダム・スミス』p.64 1.2 「この観察者にとっては、競争相手もまた、おなじ程度に尊重すべき人間であって、とくに不利な取り扱いをする理由はない。いいかえれば、自由競争は、相手もまた自分とおなじように、生きる権利をもち、そのために全力をあげて努力する権利をもつことを前提としておこなわれるのであって、その対等・平等の関係を確認し監視するのが、公平な観察者の目なのである。ここでもうひとつ大事なことは、この観察者もまた、自分では自分の利益を追求しているものであり、それだから競争者たちの利益追求を理解できるとともに、フェアな競争条件の維持に関心を持つのだ、ということである。」

『アダム・スミス』自由主義とは何か 水田 洋著 講談社学術文庫 1997
『タテ社会の人間関係』中根千枝 講談社現代新書 1967
『OECD Education 2030』www.oecd.org
『Adapted from Klaus Schwab, The Fourth Industrial Revolution, 2016』
www.weforum.org
『人工知能のための哲学塾』三宅陽一郎 ピー・エヌ・エヌ新社 2016
『最前線のリーダーシップ』ロナルド・A. ハイフェッツ / マーティ・リンス
キー共著 竹中平蔵訳 ファーストプレス 2007

2D世界の影響の考察 —生活様式への影響を中心に—

草野 純子
日本国際情報学会

Consideration of influence of 2D world —Focusing on the impact on lifestyle—

KUSANO Junko
Japanese Society for Global Social and Cultural Studies

I reviewed and examined the current situation about the influence of the 2D world. Japan's content industry is 67.7 trillion yen as of 2014, accounting for 2.5% of sales overseas market size. As an economic effect, it was suggested that employment creation due to an increase in affiliated companies, regional revitalization through cultural sacred places, etc., and culture formation were suggested. Besides, as influence on declining birthrate, influence on love circumstances was raised. Love simulation experiences in the 2D world promote hormone secretion, stimulate metabolism and euphoria by activating respiration and cardiovascular system, improve euphoria for people who have physical and mental influences in the stress society, It has a beauty effect, suggesting that it is useful for maintaining and promoting health depending on the application method. On the other hand, due to the spread of mobile terminals, ubiquitousization also suggests reducing the involvement in the 3D world, which requires coordination with others.

1. はじめに

日本のアニメは世界中に広がり、「ジャパン（日本）」と「アニメーション」とを組み合わせた「ジャパニメーション（日本のアニメ）」という造語がつけられたように日本の文化の1つとして目覚ましくその位置づけを上げてきている。

ブリタニカ国際大百科事典小項目辞典の解説によれば、「文化」とは「人間の知的洗練や精神的進歩とその成果、特に芸術や文学の産物を意味する場合もあるが、今日ではより広く、ある社会の成員が共有している行動様式や物質的側面を含めた生活様式をさすことが多い。」¹⁾とされている。この構成要素は、「言語、思想、信仰、慣習、タブー、掟、制度、道

具、技術、芸術作品、儀礼、儀式など」からなっているとされている。

日本のアニメが文化の1つとなってきたのであれば、人間の行動様式や生活様式に関連した成果としての現象は大きくなってきていることが考えられる。

例をあげれば、アニメだけではなく、漫画やゲームなどの2次元の世界は、子供から大人まで多くの人を魅了し、何時間もゲームをし続ける人、仮想現実と実社会の区別がつかなくなる人もいる。その反対に、漫画やアニメは歴史や経済、時事問題などを「絵」という視覚教材として用いることで、様々な学習への興味の入り口を作る作品もある。学習への興味の入り口を作る例として、有名な作家の名前や文学作品がアニメや漫画に出てくると、原作を読んでもみる気になるというようにである。

2次元の世界は生活を少し振り返っただけでも、生活様式に影響を与えているといえる。

また、あるアニメで、3次元の世界の作家が作成

1) 生活様式とは、狭義には特定の社会や集団の生活手段の所有状況、使用の様式、消費の水準や様式などをさす。しかし、人類学などにおいては概念がさらに広い。たとえば生活とその周辺の社会関係に観察される特徴的な慣習、規範、価値観、感情様式などが生活行事、交際などの面で具体的に現れることをも生活様式と呼び、ほぼ文化という概念と同義語に用いる。

した2次元の被造物は、この作家が描くストーリーによって被造物の人生が決まるように3次元世界の作家の影響が大きい。しかし、ある時、逆に2次元の被造物が3次元の作家に大きな影響を与えるというストーリーがあった。ここから、日本のアニメや漫画の世界（文化）が3次元の私たちに影響を与えていることがあると考えられたため、本稿ではその現状を概観し考察していく。

2. 2D世界の現状

2.1 2D世界とは

2D世界とは、2-Dimensions(2次元)の略。

次元とは空間を表現するのに必要な成分のこと。平面は縦と横の2つの成分で表現できるので2Dである。

3Dは縦と横と高さ（奥行き）の3つの成分で表現でき、立体をさす。

本稿では、3Dのような立体の世界を現実世界とし、2Dのような平面の世界をアニメや漫画、コンテンツに代表される、非現実世界を指すものとする。

2.2 日本のコンテンツ産業

経済産業省から出された²⁾「コンテンツ産業政策について」によると、日本のコンテンツ産業は映画・アニメ・TV番組・音楽・ゲーム等の国内コンテンツ市場規模は約12兆円であり、近年ほぼ横ばいで推移している。（デジタルコンテンツ白書2016）

海外における日本のコンテンツ産業の市場規模は2014年時点で67.7兆円であり、2020年にはアジアを中心に市場が拡大し、約85兆円と予想されている。

日本由来のコンテンツ売り上げシェアは、マンガ、ゲーム、キャラクター、アニメの順に大きく、海外市場規模全体の売上の2.5%を占めている。

このように、いまや日本国内だけでなく世界規模にまで発展している日本の2D世界は経済的に大きな割合になってきている。

このことは、生活を維持するための経済活動という意味でも、身近な生活と密着した現象として切り離せない世界になってきていると考えられる。

3. 2D世界の社会的影響について

3.1 経済効果について

日本のコンテンツ産業の海外市場における売上割合が大きくなってきたことに伴い、2D世界の経済的な影響が大きくなってきていることが考えられる。経済的側面は生活にも影響を及ぼすため、他にも影響している部分について考察を加えていくこととする。

3.1.1 経済効果の例

純粋なアニメ制作だけではその経済効果は少ないがアニメに関連したグッズや音楽などが関係してくるとその経済効果は大きくなる。

例えば、アイドルのアニメの場合、男性版も女性版も、アイドル活動をしているので、当然アニメの中で歌や劇に出演している。ここから、CDやDVDがアニメの中でも売られる。さらに、実際の3D世界でも商品として売られており、あるアニメのCDの売り上げは30億、DVDやBDは350億を超える。また、その他に関連グッズの販売、映画、ゲームアプリなどその経済効果は500億を超えると言われている。

3.1.2 雇用創出

アニメの経済効果はアニメを制作する規模は小さくても、アニメに関連する企業も含めると、雇用や産業などの拡大があげられる。マンガやアニメでいえば、必要な人員として、ストーリーをつくる原作者、印刷、アニメーション制作、音楽、グッズ製作、声優、ライセンス料やキャラクター商品を制作する会社、IT関連業者など多種多様な会社や人が関わってくる。

例えば、男性アイドルアニメの声優は、先輩グループで12人、後輩グループで17人、合計29人を登用している。その他に、CD/DVDを製造する人、グッズを作る人、売る人など、多くの雇用が発生する。また、人気があれば、2.5次元ミュージカルのように、アニメの登場人物に扮した人間が行う舞台などの興

2) 経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課、コンテンツ産業政策について、
www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/contents/downloadfiles/shokanjikou.pdf,2018.3.26.

業が海外でも行われているなど、国内だけでなく、外貨を稼ぐことにもなる。

このように、2D世界に関連する企業が増加すれば、それだけ仕事も増加し、雇用創出につながるのである。

3.1.3 コミックマーケット

コミックマーケットは、世界最大の同人誌即売会のことである。毎年8月と12月の年2回、3日間ずつ、東京国際展示場（東京ビックサイト）で開催され、3日間で合計50万人前後の人が来場する。2017年12月のコミックマーケットの来場者数は56万人であった。

来場者1人当たりの購入金額は2015年のマイナビの調査で1万～1万9999円が25.43%、5000円～9999円が20.27%、2万～2万9999円は9.62%、3万～4万9999円は13.75%、5万～9万9999円4.12%であった。ここからも推測できるが、一説によれば、開催1回の経済効果は180億円ともいわれる。

同人誌やグッズ購入などの直接的な経済効果だけではない。コミックマーケットに参加する目的には、同人誌やグッズを購入する以外にも、新しいアニメや作品の発掘、交流の場という目的で参加している人もいる。

このことは、同人誌に興味のある人間をターゲットにし、日常生活の中ではある意味差別化されている人が、コミックマーケットという空間では「みんな自分と同じものが好きなんだ」という認識を生み出したり、購買意欲を高めたり、「即売」というその場でしか購入できない商品という付加価値がつくというような相乗効果も挙げられるだろう。

また、海外からのコミックマーケット訪問者も増えていることや、地方からの参加者も増えていることから、宿泊施設や交通機関、外食産業、会場近くのコンビニエンスストアなどの売り上げにも影響を及ぼしているといえる。³⁾

その他に、コミックマーケットから新しいアニメや作家、作品などが同人誌から商業誌にのり、映像

化されているなど、世の中に数多く出ている。新しいアニメがヒットすれば、またそこから新たな経済効果が生まれる。

今まで述べてきたように、コミックマーケットというイベントだけでも経済、仲間意識という精神面への効果も大きく、2D世界の影響の一つになると考えられる。

3.1.4 聖地巡礼

アニメやマンガ、映画などの作品の舞台やモデルとなった土地を訪問することを「聖地巡礼」という。近年、聖地巡礼のために日本を訪れる外国人観光客が増えている。

筒井⁴⁾はコンテンツツーリズムの研究の中で、フィルムツーリズムの効果を次のように述べている。

(財)経済広報センターが平成22年に行った調査によれば、エンタメ観光の体験率は15%であった。海外においてもこの種のツーリズムの存在は広く知られており、大きな経済効果が計測されている。大河ドラマのような3Dの映像作品では、ロケ段階から誘致すれば、ロケ中の滞在費や食費など大きな経済効果をもたらす、地域が映画になることで文化水準の向上にも寄与する。

しかし、フィルムツーリズム（ロケ地観光）の問題点として、①集客効果が一過性である、②経済効果が作品の知名度・内容に左右される、③来訪客が一過性である、④ロケ施設・環境の維持管理が困難、⑤著作権が厳しく取り組みに支障が生じる等を挙げている。

その他に、最近のテレビや映画といった媒体を使用している視聴率は低下してきており、大河ドラマにおいても20%に届いていない現状がある。

「聖地巡礼」はマンガやアニメなどの愛好家が作品に縁のある土地を「聖地」として訪れるフィルムツーリズムの1つの形態である。3D世界のドラマとは違い、撮影のために何百人も動員することがなく、取材のために1人～数人という少人数のため、撮影にかかる滞在費等の事前の経済効果は見込めない。

3) U-NOTE 経済効果180億円！入場者数700人から55万人へ、世界が注目する「コミックマーケット」の裏側、<http://u-note.me/note/47503838>,2018.05.09.

4) 筒井隆志、コンテンツツーリズムの新たな方向性—地域活性化の手法として—、経済のプリズム, No110, 2013.3.

また、「聖地巡礼」の特徴として、男性の若年層が中心であるため、日帰り、飲食費は800円程度、など通常の消費額は低額である。しかし、主な情報源がネットと口コミであるため、イベント時の動員力は格段の規模である。

そのため、人気作品が出現し、関連イベント等が開催されれば、地域においてその動員力は桁違いの規模となり、消費額も大きくなるのである。

また、ごく普通の地域に多くの訪問者が来る可能性があるため、地域名が全国に知られ、交流人口が増加し、地域活性化の重要な要因となることも考えられる。来訪者がリピーターとなれば、独自の楽しみ方を見つけ、その地域に定着する可能性もあり、地方の文化継承など教育効果と同様の息の長い地域活性化が期待できるといえる。その他に、聖地は圧倒的に東京および東京近郊が多い。地域が「聖地」となるには、作品中に地名が明示されるか、また地元が事前に関与するかに依存するとしている。つまり、2D世界は使い方により、人を呼ぶ求心力の役目を果たし、町おこしの起爆剤にもなっている。

このように、普段旅行などしない人の心を動かしその土地へ行くというような行動変容を起こさせることも可能であることがわかる。これも生活様式への影響の一つだと考えられる。

3.2 少子化への影響について

2Dの世界が少子化に影響を与えているという説もあるので、ここで少子化への影響についても概観してみることにする。

3.2.1 少子化の現状

日本の人口推移はこのままでいけば減少していくといわれている。このことは、出生数、出生率の推移(表1)をみてもわかる。

内閣府が述べている少子化問題の要因として以下にあげる。

- ・婚姻・出産等の状況

未婚化・非婚化の進行、晩婚化、晩産化の進行

- ・結婚、出産、子育てをめぐる状況

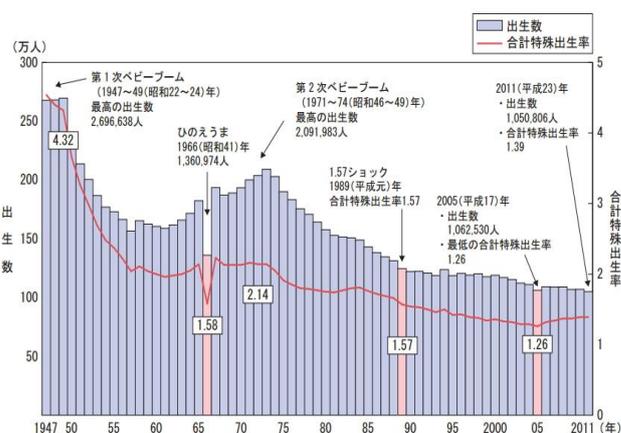
結婚に対する意識、出産に対する意識、若い世

代などの所得の伸び悩み、就労形態などによる家族形成状況の違い、依然として厳しい女性の就労継続、子育て世代の男性の長時間労働

- ・諸外国との国際比較

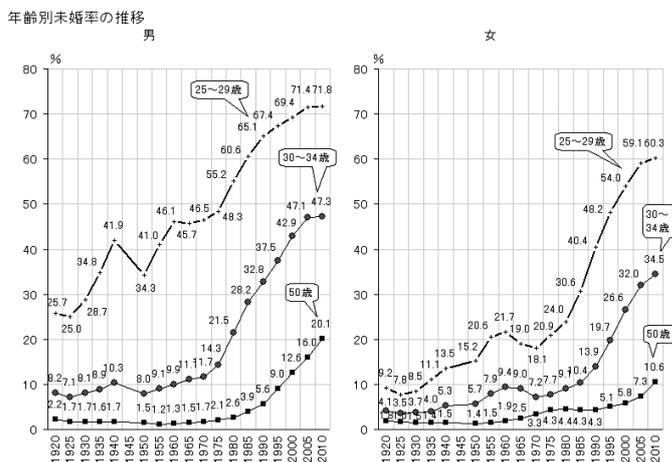
諸外国における出生率の状況、家族関係社会支出の国際比較

表1 出生数、出生率の推移(出生数と合計特殊出生率の推移)



出典：日本の人口の推移-厚生労働省「人口動態統計」

表2 年齢別未婚率の推移



(注) 配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる(45~49歳と50~54歳未婚率の平均値)。
(資料) 国勢調査(2005年以前「日本の長期統計系列」掲載)

出典：日本の人口の推移-厚生労働省「人口動態統計」

未婚率(表2)をみてもその推移は増えている。高度成長が完成した1975年以降の上昇カーブが急であり、現在では30~34歳の男性の半分近く、女性

でも3割半が未婚である。異性の交際相手がいない未婚者の割合は、男性の6割、女性の5割が異性の交際相手がいないと答えている。

要因として、男文化・女文化の規範の崩壊、個人化傾向の進展、経済的不況などが大きく絡んでいると述べている。

例えば 男性非正規社員、低所得者ほど未婚率が高くなっている。また2008年のリーマンショックをはさみ、2006年から2010年にかけて、交際相手がいない男女が急増している。つまり、経済力がないと、恋人を探す時間や余裕ができないといえる。

ここからも、精神的側面での要素もあるが、経済的側面も少子化には影響があるといえる。

2D世界の影響の一つとして、経済効果、雇用創出などがあげられるため、経済的側面だけを見ると少子化を押し進めているとはいえない。反対に、雇用を促進し経済効果をあげていることから、少子化の進行をとめているようにも考えられるため、経済的側面から見た場合の少子化への影響は不明である。

3.2.2 大学生の恋愛事情について

少子化をとめるには恋愛や出産が関わってくる。結婚・出産に近い現在の大学生の恋愛事情をみると、昔と比べて大学生は恋愛に対して消極的になっており、デートやキスに至る割合が減少しているという調査もある。

この背景には、「携帯メールのやりとりで夢中になっている男女は、告白以前に、告白を繰り返し確認し合っていることになる」⁵⁾と高橋が述べているように、近年のモバイル端末の普及により一方的コミュニケーションから双方向的コミュニケーションが可能になったことがあげられる。モバイル端末の普及は異性との交際における親密化を促進していると考えられる。しかし、逆に返信の遅さは相手への無関心や消極性の現れと受け止められ、親密な関係からの離脱も早める。このように、交際期間の短期化⁶⁾

5) 高橋征仁, コミュニケーション・メディアと性行動における青少年層の分極化 日本性教育協会編「若者の性」白書—第6回青少年の性行動全国調査報告—, 小学館, p75, 2007.

6) マイナビ学生の窓口, 【学窓総研】現役大学生の恋愛事情を調査! 今恋人がいない学生のうち4割が「ほしくない」…その理

由は?,
https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/45733,2018/5/21.

に結びつくことや、深い交際になりやすく、ライトな感覚の恋愛を繰り返すのみになりやすいといえる。また、恋人のいない大学生の半数に好きな人がいない。もし告白した場合には8割が前向きに検討すると答えている⁷⁾。そのため、恋人を作るには、告白できるかどうかを最も重要な要素であるといえる。

その他に、マイナビの調査によれば、恋人がほしいと思わない大学生の意見として、「勉強で忙しいので」「今は学業や就活に集中したい」「公務員試験の勉強とバイトで忙しいから」「面倒くさそうだから」「途中で面倒くさくなるから」「自分の時間が減り、面倒だから」「無駄な出費が発生するから」「別れたばかりだから」「1人が好きだから」「上手くいかなそうだから」等があった。

勝部⁸⁾は、若者が恋愛を面倒だと感じる理由について、価値観や生活スタイルの多様化により、趣味や生活時間などが細分化されてきているため、自分と価値観や生活スタイルの「合う」人が少なくなっているといっている。また、サービスやコミュニケーションがユビキタス化⁹⁾したこともあげている。

ユビキタス化とは「いつでもどこでもサービスが利用できる状態のこと」で、固定電話から携帯電話になり、今まで場所や時間の制限を受けていたものが、制限無く利用できる状態になり、「所有から利用」へ変化した。例えば、ゲームもゲーム機本体とソフトを購入するよりも、スマートフォンなどで自分が利用したいときに利用する。パソコンのファイル保存もパソコン本体に保存し所有するのではなく、クラウド上に保存し、どこからでも利用できるようになったなどである。コミュニケーションも、1家に1代の固定電話であったものが、携帯電話が1人1台

由は?,

https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/45733,2018/5/21.

7) Campus Hub, 大学生の恋愛事情 21の統計データから読み解く恋い活必勝テクニック,

https://campus-hub.jp/article916,2018/5/21.

8) 勝部元気, ラブフェミ論,

https://ameblo.jp/ktb-genki/entry-11869847717.html, 2018/6/7.

9) 「あらゆるところに」「どこにでもある」という意味で、ラテン語が語源。インターネットなどの情報通信ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできるようになる環境をいう。

で、ボタン一つで簡単に相手につながる。このように、他者と調整の必要性のある場面は少なくなり、様々なことがユビキタスになってきている。生活の中でユビキタスがスタンダードになると、ユビキタスではないものは「不便・面倒くさい」と感じるようになる。これと同じ構図で、若者にとって今の恋愛はユビキタス化されていない最たるものであるといえる。

つまり、コミュニケーションの利便性は向上したものの、モバイル端末が普及していない時代のような、直接会わなければ関係を深められないというような「行動する」リアルなコミュニケーションが減ることで異性間の触れ合いが減っている。そのため、人間関係を深めるような行動の経験値が少なく、「面倒くさい」や「他のことで忙しい」という理由をつけて親密な関係からの離脱が早く、リアルなコミュニケーションから遠ざかる傾向にあるのではないかと考える。そのような若者が告白をするという自分から行動するような行為自体、高いハードルであるため、恋愛や結婚、出産につながりにくく、少子化へ影響していることも考えられる。

3.2.3 2D世界と恋愛事情

勉強を後回しにしてアニメやゲームに没頭する「オタク」な子どもについて尾木直樹¹⁰⁾は、「人間は基本的にグロいものが好き。現代は清潔すぎてグロい体験ができなくなっているから、子どもたちはアニメなどで体験しようとする」「禁じれば過食・拒食など心理的なマイナス面が別方向から出てくるといいます」「人間は清濁併せのみなから成長するものだ」と述べている。

現代の子どもたちの状況をみると、少しでも危険あるいは傷つくおそれがある場合は「禁止」あるいは「危険を除去」されるので、尾木が述べているようにリアルな体験ができなくなっている。そのため、2D世界で体験しようとするのである。ゲームなど2D世界は自分の思うとおりに進める事ができ、「違う」と感じたら「ストーリーを書き直す」など

のリセットができる。しかし、現実の世界は、2D世界のようにすぐにリセットはできない。3D世界では失敗しないように環境が作られているため、リセットできないことがある事実を認識できていない子どももいると考えられる。身におよぶ危険はないほうがよい。しかし、体験し、失敗し、感じることから学ぶこともあると考える。

現在の大学生になぜ2Dがいいのか聞いてみると、「アニメは裏切らないけど、人間は裏切るから……」「現実世界での恋愛で裏切られる、傷つくのが怖いから」「自分の聞きたい言葉を自由に言ってくれるまたは、行動してくれる」などの意見があり、失敗を恐れる傾向がうかがえる。

マンガを好きになる理由や心理として¹¹⁾、①絵で楽しめる、②非日常的な世界を楽しめる、③パワーをもらえる、④簡単に気分転換できる、⑤作品数が豊富、などの理由があがっていた。

特に②の非日常的な世界を楽しむでは、「面白い世界に出会う」、「リアルではなかなかありえないストーリー」、「優しくて女心を分かっている行動をとってくれるので、キュンキュンする」、「簡単に青春を感じられる」、「登場人物は声や人柄、セリフの意味は自分の中で仕上げるができるのである程度自分の求めるものに近づけることができる」というように、リアルでは味わえない刺激を得られることや、妄想や空想である程度自分の求める展開に近づける事ができるという特徴がある。

また、③のパワーをもらえるでも、「自分の頭の中でセリフを再生してキュンキュンできるのもいいなと思う」「わくわく感を共有できる」④の簡単に気分転換できるでは「恋愛や日常の疑似体験ができドキドキしたり笑えたり、泣けたりするところも魅力」とあるように、恋愛や日常の疑似体験ができるという特徴がある。

つまり、自分の求める恋愛や日常の疑似体験から幸福感を得ているともいえる。このことは、大学生の意見の中にもあるが、リアルな人間での恋愛では裏切られるし、自分の予想する、または求める行動

10) キャリコネニュース、尾木まが「オタクな子どもたち」に理解示す「人間は基本的にグロいものが好き」、<https://news.careerconnection.jp/?p=16536>, 2018/5/22.

11) 漫画を好きになる理由や心理 5選まとめ！, <http://gate-world.com/manga-suki2-12576,2018/5/22>.

を相手がしてくれず傷つけられることを避けたい心理が働くのではないかといえる。そのため、傷つかずに済む2D世界の人物との妄想恋愛を求め、3D世界での恋愛に発展しにくいことも考えられた。

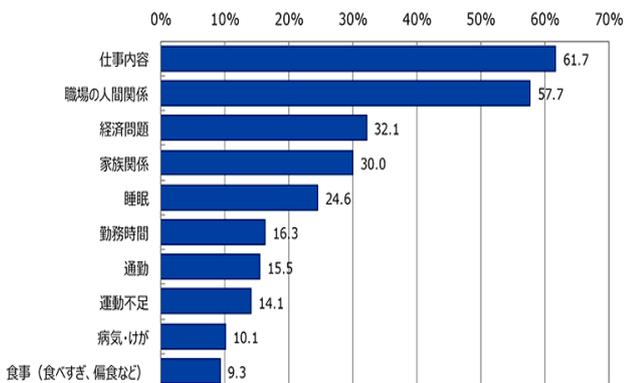
上述したが、疑似恋愛感情のユビキタス化が拍車をかけ、アイドル産業やオタク産業は情報化の進展もあり、萌えや疑似恋愛感情を簡単に享受できる時代になった。そのため、以前のように高い費用をかけて恋人を所有するよりも、好きな時に好きな場所で好きなキャラクターや有名人に浸るほうが便利で利益率が高い。また、集団の時代から「個」の時代になり、誰かと趣味趣向の違いをすり合わせて利害調整をしなければならない、という機会が大幅に減っている。そのため、今までの恋愛のように利害調整の必要が多いものは若者にとって大変面倒くさいものとして感じ、2D世界の体験から先に進みにくいことが考えられた。ここから、2D世界は3D世界の間人関係などに少なからず影響を与えていることが考えられた。

3.3 ストレス社会と心身への影響について

現在の日本の社会はストレス社会といわれている。2015年の「働く男女1000人ストレス実態調査」¹²⁾では、86%が「ストレスを感じている」とし、原因は「仕事、職場の人間関係」が多数を占めていた。(図1)

図1 Q. ストレスの原因は何だと思いますか? (複数回答可)

<ベース: ストレスを感じている人 (n=859) >
※上位10を抜粋

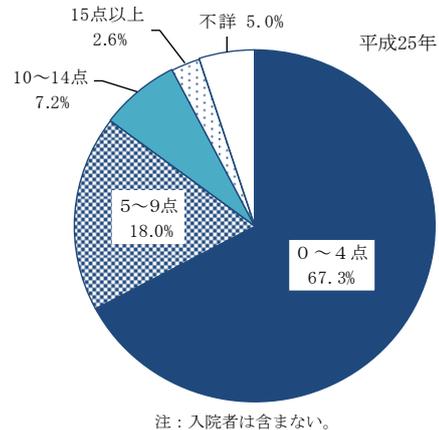


12) MACROMILL, 働く男女1000人ストレス実態調査, https://www.macromill.com/r_data/20151127_stress/20151127_stress.pdf, 2018/5/28.

出典: MACROMILL, 働く男女1000人ストレス実態調査

過去1ヶ月の心の状態を点数化した調査では、1割以上の人強い心理的苦痛を感じている。

図2 こころの状態(点数階級)別構成割合(12歳以上)



6つの質問について5段階(0~4点)で点数化して合計したもの。
10点以上: 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者

出典: 厚生労働省、平成28年度国民生活基礎調査の概況

ストレスが大きく長く続くと身体や精神に影響を及ぼす。例えば、うつ病になる、気力が低下する、自殺、倦怠感、心臓疾患、免疫力低下、血糖値上昇、頭痛、肩こりなど、軽いものから死を招くような症状を呈することもある。(表3、表4)

表3 ストレス社会の身体的・精神的影響

身体的影響
肩こり/目の疲れ/疲労/肌荒れ/脱毛/頭痛/ 腰痛/不眠/自律神経の乱れ など
心理的影響
不安/落ち込み/イライラ/怒り/気力や集中力の低下/ 希望のなさ など
行動への影響
生活の乱れ/暴飲暴食/散財/過度の飲酒/喫煙/ギャンブル/暴言暴力/遅刻/欠勤 など

表4 ストレス状態が長く続いた場合に起こりやすいこと

<p>体の病気</p> <p>自律神経失調症／胃や腸など消化器の病気／血圧や心臓など循環器の病気／免疫力が低下して感染症にかかりやすくなったり、免疫の働きが過敏になって アレルギー症状が重くなったりする／生活習慣病 など</p>
<p>心の病気</p> <p>不安障害／アルコール依存症／パニック障害／PTSD（心的外傷後ストレス障害）／うつ病 など</p>

ストレスがある場合の対処法は、「ヒトに話して発散する」39.2%、「のんびりする」「テレビをみたり、ラジオをきいたりする」「趣味に没頭する」「寝る」などが続いて高かった。

3D世界では、人間関係にストレスを感じる事が多く、その解消法として、人と関わることから離れた方法（2D世界で疑似恋愛体験をするなど）をとることが多いといえる。そこから癒しやパワーをもらう目的で利用していることも考えられ、2D世界を使う理由の一つとして、ストレス社会のような社会背景があることがうかがえる。

3.4 疑似恋愛体験の効果

現代の人はストレスが大きく、恋愛する時間が少ないため、手軽に2D世界の人物との疑似恋愛などを行い、幸福感や気分転換を求めて癒されていることが考えられたが、なぜ幸福感が得られるのかについて、人体のしくみから概観していく。

3.4.1 疑似恋愛体験時の人体のしくみ

恋をすると中枢神経系、特に交感神経の活動レベルが上昇する。すると、交感神経は心臓の拍動を早めるので、胸がドキドキした状態になる。矢で胸を射られるというように、心臓を栄養する冠動脈の拡張が追いつかず、必要量の血液が供給できなくなるため、心臓に酸素が供給されにくくなり、心臓の筋肉が動かせず、胸が締め付けられるように痛くなる。つまり、恋をした時の「トキメキ」や「ドキドキ感」

といわれる状態は、言い換えれば軽い狭心症の状態に近いといえる。

なぜこのような現象が起こるのかというと、人体は、ホルモンの分泌量を調節することで恒常性を保っている。恋愛をしている時には、多幸感や代謝の促進などに作用するホルモンが分泌される。

特に神経伝達物質である、フェニルエチルアミンは「媚薬ホルモン」ともいわれ、アドレナリン、ドーパミン、オキシトシン、エストロゲンの分泌を促進する作用がある。オキシトシンやドーパミンは幸福感や血行が良くなる働きがあるため、心臓の拍動を速め、「ドキドキ」するのである。

3.4.2 疑似恋愛体験の効果

恋愛時にフェニルエチルアミンやアドレナリン、ドーパミン、オキシトシン、エストロゲンなどのホルモンが分泌される。

フェニルエチルアミンは、天然ではアミノ酸であるフェニルアラニンの酵素的脱炭酸によって合成される。このホルモンの効果としては、食欲を抑制し消化を良くするため、ダイエット効果や便秘解消効果が期待できる。

オキシトシンは女性らしさや艶っぽさがでる。また、社交性が増し周囲とのコミュニケーションも上手になるといわれている。

ドーパミンは快楽ホルモンの一種で、瞳孔を開き眼力をアップする。血行もよくなり、顔色の明るさが増し肌に艶が出る美容効果があるとされている。

エストロゲンは女性の外見を美しくする美容効果が高く、バストアップやウエストのくびれなどスタイルアップにも良い影響を与える。

恋愛をすると、これらの効果があり、「恋をすると女性はキレイになる」といわれる要因として、本人の努力とは別に身体のこうした働きによっても起こされているといえる。

また、あるアンケート¹³⁾では主婦の7割、働く女性の約9割は妄想で恋愛をしたことがあると回答している。

13) 恋愛妄想は女をキレイにする！妄想美容法、
<http://and-flow.com/journal/2014/10/30/429/>, 2018/5/21.

2D世界の人物との疑似恋愛でも、「トキメキ」「ドキドキ」があることから、3D世界での恋愛と同様の刺激を受けているといえる。つまり、2D世界で疑似恋愛体験などの刺激を受ける事で代謝がよくなるため、得られる効果として、①多幸福感を得やすく、②前向きになる、③代謝が促進されることで肌の調子が良くなる、④痩せやすくなるなどの効果があると考えられる。

その他に、フェニルエチルアミンのサプリメントのうつ病への効果として¹⁴⁾、①やる気・意欲の向上、②ストレスへの耐性、③うつ病の改善（セロトニン不足、カテコールアミン不足、フェニルエチルアミン不足）、④学習能力の向上があげられている。ここから、癒しだけではなく、うつ病への対策にもなることが考えられる。

つまり、2D世界を活用した疑似恋愛でも、恋愛時と同様の身体的効果の他に精神的効果もあると考えられる。また、こうした効果が得られることにより、ストレスの解消にもつながり社会参加への意欲にもつながる可能性もあるといえる。

このように、2D世界は活用方法により、身体的、精神的にも影響を及ぼす可能性があることが考えられる。

3.5 フェニルエチルアミンの分泌を促す方法

補足ではあるが、リアルな恋愛を常にすることが難しい場合、このホルモンの分泌を促す他の方法があるため、いくつか下記にあげる。

- ・食品：チョコレート、ワイン、チーズ、大豆イソフラボン、キャベツ、ヘーゼルナッツ、から揚げ、きな粉 など
- ・心奪われる景色や美しいものなどを見る
- ・ロマンチックな映画を観たり、好きな芸能人を思い浮かべたり、空想にひたる
- ・何かを追い求める、何かに興味を示す

食べ物や行動でホルモン分泌を促すことができ

ば、身体的・精神的な健康増進につなげることができる。さらに、うつ病などの改善にも効果が見込めるため社会参加への意欲向上につなげることができる。

しかし、食品がすぐには手に入らない、景色を見に行けない、本や写真が手に入らないなどのデメリットもある。反対に、2D世界での疑似体験などの恋愛は妄想・空想で手軽に行えるところがメリットだともいえる。

身体的、精神的な効果を得て、健康的な生活につなげていくために、こうした様々な方法を必要な場合には活用することも有用であると考えられる。

4.おわりに

日本のコンテンツ産業は、海外市場規模全体の売上を占めてきており、経済効果として、関連企業の増加による雇用創出、聖地巡礼等による地域活性化および文化形成が示唆された。雇用創出、聖地巡礼など生活を維持するために必要な費用を生み出す等で生活様式に影響していることが考えられた。

また、少子化への影響として、恋愛事情への影響があげられた。2D世界での疑似恋愛体験は、ストレス社会の中で心身に影響を及ぼしている人に対して、ホルモン分泌を促し、呼吸、循環器系の活性化による代謝促進や多幸福感、うつ病の改善、美容効果があり、活用方法により健康の維持増進に役立つことが示唆された。

その反面、モバイル端末の普及により、ユビキタス化は他者との調整が必要になる 3D世界での関わりを減少させることも示唆された。

いずれも、2D世界は活用方法により、良い影響や悪い影響を与えることが考えられた。これらのことから、他にも新たな活用方法の可能性があることが示唆された。

課題としては、今回検討を試みたことは、一部の影響のみであるため、他の影響について今後検討をしていきたい。また、2D世界の活用方法を検討し、3D世界でのコミュニケーションや人間関係の構築について検討していきたい。

14) L-フェニルアラニンサプリメントのうつ病への効果や副作用を詳しく解説,<http://kebyou.com/post-3038,2018/5/21>.

ジョン・ヒックの宗教多元主義における功罪に関する一考察

南部 千代里
大正大学総合佛教研修所

A study on merits and demerits in John Hick's religious pluralism

NAMBU Chiyori
The Institute for Comprehensives Studies of Buddhism, Taisho University

Religious pluralism advocated by John Hick (1922-2012) continues to be criticized by Christian theology / philosophers. However, from the viewpoint of religious studies, this study considers not only criticism but also the effectiveness of it, and what is its significance.

1. はじめに

宗教多元主義(Religious pluralism)¹⁾は、キリスト教文化圏から発されたものである。そのため構造的な内容それ自体の把握が要となる。よって本研究は、まず、宗教多元主義という現代思想の要点を、その代表的立場にあるキリスト教の哲学者であり神学者でもあるジョン・ヒック(John Hick, 1922-2012)の著作『宗教多元主義への道(The Metaphor of God Incarnate. 1993)』から示し、次に彼が提唱した宗教多元主義への賛・否²⁾を問い、そして神仏習合文化圏、すなわち非キリスト教文化圏に生きている私たちにおいてどのような意義があるのか、を考察するものである。(聖書は『新共同訳』を使用する。)

2. J・ヒックの略歴

1922年英国スカボローで生れたジョン・ヒックは、両親と共に英国国教会に属す。父親が弁護士であったことから、彼もハル大学の法科に進学する。ところが、ヒックの自伝によると、一回生の時に霊的回心³⁾を体験したことから、英国長老派教会に属すようになる。学業も1941年にはエジンバラ大学に転校し哲学を専攻、1948年には哲学士を取得している。その間、1942-1945年にわたり良心的兵役拒否者としてフレンド派の救急班に加わっている。

1948年オックスフォード大学大学院哲学部に入学、1950年に哲学博士号を取得する。その後は、ケンブリッジ・ウェストミンスター神学大学に在籍し、

1953年英国長老派教会の牧師資格を取得し、3年間ベルフォード教会にて牧会活動を務める。

1959年米国プリンストン神学校の哲学教授として招かれる。ところが、1962年に長老派教会の教職者としての信仰告白を余議なくされ、その場で彼は『聖書』に記された六日間による天地創造、イエスの処女降誕などを、史実については懐疑的である、つまり文字通りに信じることはできないと発言した。それがため、彼は米国長老派教会の会議にかけられることとなる。そこにおける教会側が出した結論は、ヒックの米国長老派教会の牧師資格と、その教会の管轄下にあるプリンストン神学校の哲学教授資格との剥奪であった。

資格を喪失する前に、ヒックは1964年英国に戻り、ケンブリッジ大学の准教授を1967年まで務め、次にバーミンガム大学に移籍し、神学部教授を1982年まで勤め上げる。

バーミンガム大学在職中にヒックが目にしたものは、バーミンガム市内における宗教の多元化現象であった。つまりキリスト教徒以外の、多種多様な異教徒との宗教的出会いであった。彼はその経験から、彼自身の「神」、すなわちキリスト教の神理解と教義に対して、現実問題としての対応を迫られたのである。なぜならば、ヒックが滞在していた当時のバーミンガム市では、人口の二割をイスラム教徒が占めていたからである。

キリスト教徒やイスラム教徒のほか、ヒンドゥー

一教徒やシーク教徒、ユダヤ教徒、仏教徒も居住する市でヒックは「人類の一致を目指す多くの信仰(All Faiths for One Race)」という宗教活動体の議長などを務め他宗教への理解を深めていく。そのかたわらで、宗教多元主義の理論を構築、1973年、著作『神と諸信仰の宇宙』にて、これまでのキリスト中心主義(Chistocentrism)から神中心主義(theocentrism)への移行を発表し、キリスト教以外の諸宗教の中にも「神」の啓示は現われている、つまりキリスト教、ユダヤ教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教もそれぞれ真理である、というリベラリストとなる⁴。

3. 宗教多元主義へと至る基本的論理構造

ジョン・ヒックの著作『宗教多元主義への道』を要約すると以下の通りである。

3.1 宗教多元主義とは

ヒックの宗教多元主義の特徴は「イエス自身が神であったとは受けとめない信仰」⁵にある。だからといって「キリスト教を放棄することではない」⁶、伝統的キリスト教教理への解釈の見方を批判し、それに代わる見方を提示する⁷ものである。つまり、われわれの時代の新たなグローバル意識に示唆される方向で、キリスト教の自己理解を展開しつつけることである⁸。したがって、ヒックが提唱する宗教多元主義とは、伝統的キリスト教が、諸宗教に対しての、現実の宗教現象を、排他的、あるいは包括的信仰告白をもって解釈することを拒否し、他宗教の信仰者の宗教経験も自分たちキリスト教徒と同一の地平にあるものと認める、宗教的信念である。

3.2 実在とは

ヒックは、「超越的な究極リアリティ(the ultimate transcendent Reality⁹)」である、キリスト教の「神(we call God¹⁰)」を「神の実在(the divine reality)」、あるいは「実在者(The Real)」¹¹と呼ぶ(以後、神の実在に表現を統一する)。この唯一なる究極的神の実在が、「万物の根源であり根拠である(the source and ground of everything)」¹²と定義する。

諸宗教は、上述の、唯一なる究極的神の実在を「独自の色形をしたレンズ」¹³をもって、人格的アドナ

イ、天の父、アッラー、ヴィシュヌ、シバとして、あるいは非人格的なブラフマン、タオ(道)、ダルマカーヤ(法身)、シュニャター(空)とか根底として「覚知」¹⁴し、「神的な汝」¹⁵として経験するよう神の実在によって導かれている。つまり、人格的神であっても、非人格的原理であっても、超越的な究極実体は一つであって、ただそれへの呼び名が各宗教によって異なるだけである。諸宗教はともに「等しく」¹⁶神の実在による救いの道である。よって神の実在の受肉は、唯一イエスのみに起こったことではなく、他の者、すなわち他宗教の聖者にも起こったことであると理解する¹⁷。

3.3 イエスの位置

ヒックは、ナザレのイエス¹⁸を、キリストではなく、あくまでも「偉大な人間預言者(Jesus was a great human prophet)」¹⁹であり「最後の預言者(the final prophet)」²⁰と捉える。

イエスのような「偉大な精神的教師たちの影響は今日までつづいている」²¹。たとえば「中国の孔子、インドのゴータマやマハーヴィーラ、ペルシャのゾロアスターや、パレスチナのヘブライの預言者たち、そしてまた、ギリシアのピタゴラスやソクラテスやプラトンなど」²²である。

上述のような「偉大な宗教的人物はそれぞれ異なるしかたで神の実在に応答しつつ生きている理想的な人間の生き方を受肉している」²³。だから、神が受肉したのは唯一イエスだけだと主張する伝統的キリスト教の教理、すなわち三位一体論やキリスト論、贖罪論、復活論、終末論などは、イエスの死後に人間が「創作(the story)」²⁴したものであるからメタファーとして解釈²⁵し、復活も、イエスの直弟子たちや使徒パウロの「外的な感覚的経験ではなく、むしろ精神化(spiritualizing、内的な精神的経験)」²⁶であったと解釈する。なぜならば、伝統的キリスト教徒たちが待ち続けた終末、つまり、神による新しい始まりは「何年たっても、何世代たっても、やってはこなかった」²⁷からである。

3.4 伝統的キリスト教徒のとるべき態度

「神にたいして合法的な権利をもつような悪魔が

いると考えるのは、誤解を招くことである。厳格な宇宙の道德家をモデルにして、天の父のことを考えるのも、誤解を招く。さらに、十字架に関するキリスト教の神話を受け入れることが全人類に唯一の救いの道であるとするのも、誤解である²⁸。これらの「誤解(misleading)」は、過去の人びとにとっては役立つもの²⁹であった。昔はそれでよかった。だが科学の時代に生きる「われわれ自身の知的世界は、教会の内外を問わず、いまは非常に異なっているのであるから、そうした伝統的な贖罪論は、もはや何らの有益な機能も果たしえない」³⁰。現代の聖書学研究³¹では「歴史上のイエスが自らを神の受肉であると教えたり、思っていたりした、などという考えはとられていない」³²。よって、現代の伝統的キリスト教徒たちは、キリスト教だけが唯一の真正なる宗教であるとは考えてはならない³³。

現代キリスト教徒たちの取るべき態度は、「密かにキリストの十字架に頼ることをせず(not secretly dependent upon the cross of Christ)」³⁴、キリスト教も「他の諸宗教と並ぶ、純正な一つの霊性の道(one authentic spiritual path among others)」³⁵であると考えて、諸宗教がもつ宗教体験からの影響も広く受け入れなければならない。なぜなら「偉大な世界信仰はどれも超越者にたいする真正の応答であり、自我中心(self-centredness)から実在中心(Reality-centredness)へと人間が変革されてゆく脈絡をなしているものだからだ」。³⁶すでに、原理主義者をのぞいた、思慮深いキリスト教徒たちは、ローマ・カトリック教会の「教会の外に救いなし」や、伝統的プロテスタント教会の「キリスト教の外に救いなし」というドグマを退けている³⁷。

3.5 新しいキリスト教観

「世界を一つの共同体とする世界平和の発展に〔中略〕貢献することができる」³⁸のは、ローマ・カトリック教会でも伝統的プロテスタント教会でもない。それは、キリスト教を「他宗教と並ぶ一つの救いの道と見る「新しいキリスト教観(the new perception of Christianity)」」³⁹である宗教多元主義である。

自分たちが信仰する宗教だけが全人類に開かれた

救いの道であり、最終的な神の啓示の場であると自負しつづける「古い排他主義(the older exclusivism)」⁴⁰と、「救いの真の脈絡をなすのは、キリストが十字架の上で死んだおかげである」⁴¹、キリスト教徒以外の者も、すなわちユダヤ教徒もイスラム教徒、ヒンドゥー教徒、仏教徒、その他、すなわち信仰にコミットしている人はすべて「無名のキリスト教徒(anonymous Christians)」⁴²として神の恵みにあずかっている、つまりイエス・キリストの救いの領域内に含まれるとみる考えである「新しい包括主義(the newer inclusivism)」⁴³との、両者に代わる「第三のキリスト教」⁴⁴に至る道が、神の実在中心の宗教的多元主義である。

以上が、ヒックが提唱した宗教多元主義、すなわち伝統的キリスト教への決別の勧めの骨子である。

4. 賛・否

ヒックが提唱した宗教多元主義は、1980年から90年代にかけて、キリスト教だけでなく諸宗教にもさまざまな反響を及ぼした。

4.1 賛同的所見

ヒックは、諸宗教を俎上にのせて、「キリスト教も、他の偉大な宗教伝統も、ともに等しく救いの道である」⁴⁵と断言する。なぜならば、各宗教が「人間の置かれた状況の抜本的な改善や改革を主眼としている」⁴⁶からである。たとえばユダヤ教は「トーラー(律法)」に忠実であること、キリスト教は「イエスの使徒」であること、イスラム教は『コーラン』の教えるとおりに従順に生きること⁴⁷、仏教は釈迦が説いた「八正道」を実践すること、ヒンドゥー教は「三つの信愛(神への信愛、知への信愛、行為への信愛)」を守ること⁴⁸と、「それぞれの伝統は、この、よいものを達成する道について述べている」⁴⁹。それゆえに、伝統的キリスト教が自分たちの宗教こそ「唯一の真の宗教であるという主張」⁵⁰を否定しさえすれば、「他(宗教：筆者挿入)と協力しあって、国際平和を促進し、地球の環境問題や、第三世界の貧困、栄養不足、病気などの問題、さらには広範かつ断続的に起される戦争や飢餓の問題に取り組むこ

とができる」⁵¹と宣言している。

以上のように、客観的「知」の立場に立って論を進め、諸宗教の共存が可能であることを主張してきたヒックの宗教多元主義は、国際間、また民族間の宗教を背景とした紛争、あるいは異宗教間の個々人の付き合いにおいても、他信仰者への偏見と差別を払拭させ「寛容に至らせる(to learn to tolerate)」⁵²、世界平和への実現のためには必要な論理である、と言えよう。

これがゆえに、一宗教に捉われることなく、昔の人が登る道はそれぞれ違っても頂上に辿りつけば「同じ高嶺の月を見る」と言ったように、すべての宗教を平等に見ようとするヒックの宗教多元主義に、ユニテリアン⁵³をはじめとして、わが国では神仏習合宗教の徒には馴染みやすい側面から、賛成する人は多い。だからヒックは、神道・仏教の徒とキリスト教徒だけでなく新興宗教の信者たちも、現代では軋轢もなく共存しているわが国を「多信仰国日本」という表現をもって「深く敬愛している」⁵⁴と述べている。

4.2 批判的所見

ヒックは「神はキリスト教の教会や礼拝堂のなかだけでなく、ユダヤ教の会堂、イスラム教寺院、シーク教寺院、ヒンドゥー教寺院のなかでも、異なりはしても重なる心像を介して礼拝されているという事実を知るとは、その神がまさしく人類全体の神である」⁵⁵、ただ各宗教によって「人類全体の神」、すなわち神的存在への呼び名が異なる(God has many names)だけで、諸宗教は「本質的に同一(essentially the same)」⁵⁶である、と断言している。それがゆえに、ヒックは「キリスト教における神の像」が「阿弥陀信仰の仏教徒たちによっては真に礼拝されることがありえないと仮定する必要はない」⁵⁷とも断言する。換言するならば、阿弥陀信仰の仏教徒たちが、キリスト教における神の像を、真に礼拝されることが「ありえる」ということである。つまり、仏教徒が「南無阿弥陀仏」と称えている対象は、実は、キリスト教徒と「同一」の天の父、すなわち神的存在であるから、ありえないと仮定する必要はない、という意味である。

したがって、ヒックの救済の論理構造においては、キリスト教の神と仏教の阿弥陀仏とは「代替可能」⁵⁸となる。だから彼は、将来、諸宗教は「自由に互いの礼拝を訪れ(freely visit one another's worship)」、「やがて礼拝場所の共有(share places of worship)に踏みきり」、「時には聖職者の交換説教(a degree interchange of ministries)をおこなうようにもなる」⁵⁹と声明できたのである。

以上のように、ヒックの宗教多元主義は信仰者の心理を除外視した理論で展開されている⁶⁰。だが宗教とは、客観的「知」の立場以上に、主体的、献身的「信」の立場を第一とする⁶¹。たとえば親鸞が「たとひ法然聖人にすかされまひらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ」(『歎異抄』第二条)⁶²と、また使徒パウロがユダヤ教の立場⁶³を認めた上で「十字架の言葉は、わたしたち救われる者には神の力です」(一コリン、1:18)と語ったように、救済される者にとって、救済者への帰依は、東西を問わず、「一途」(北森嘉蔵)⁶⁴である。だから「同時」に「あれも これも」ではなく⁶⁵、生死の問題として「この道しかない」と、どうしても独善的⁶⁶、排他的⁶⁷、包括的⁶⁸な態度をとるようになる。

したがって、ヒックの救済の論理構造においてはキリスト教の神と阿弥陀仏は「代替可能」であろうとも⁶⁹、阿弥陀信仰の仏教徒においては、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」(マタ、27:46)十字架上でイエスを見捨てたユダヤ・キリスト教の神は「摂取不捨」⁷⁰ではないゆえに、また二元的な立場をとらない仏教においては、代替は「不可」である。各宗教は、他のものに交換できない固有の救済の論理構造をもっているからである。

また、すべての宗教が唯一なる神的存在を拝しているのであるならば、たとえば前世紀末の仏教過激派カルト教団による毒ガス・サリン無差別テロ、そして今世紀はじめのイスラム教原理主義過激派によるとされているニューヨーク・パリ同時多発無差別テロなどは、宗教的「寛容」の名のもとに赦されなければならないだろう。もし彼らを裁くならば、すべての宗教が唯一なる神的存在を拝しているがゆえに諸宗教間の平和共存が可能であると主張してきた

ヒックの宗教多元主義は、机上の論理となるからである⁷¹。

以上のように、ヒックが提唱した宗教多元主義の問題は、キリスト教文化圏に生きる人びとだけの課題でなく、非キリスト教文化圏に生きる私たちにおいても生死を決定する現実の問題である、と言えよう。

5. おわりに

ジョン・ヒックが提唱した宗教多元主義とは、伝統的キリスト教徒が天の父と呼ぶ神を「神的実在」と言い換えて、世界の諸宗教を一なる究極的神的実在の多様な表現であると捉える、キリスト教の哲学と神学におけるひとつの仮説である。その目的は、世界のすべての宗教が神的実在を拝していると強調することで、諸宗教間の誤解や闘争に終止符を打つことにあった。

だが伝統的キリスト教が、超越的・絶対的真理性を主張する限り、諸宗教間の平和的共存への実現は望めない、とヒックは主張する。だから彼は、伝統的キリスト教がすべての宗教を自分と同格に見る、つまり宗教的本質の同一性を認めるならば、諸宗教間の平和共存は実現されるであろう、と力説したのである。それゆえにヒックの宗教多元主義仮説は、グローバル化の意識が高まる現時代に相応しく見える。

しかしながら、諸宗教間の共存が実現されていない責任を「一」なる伝統的キリスト教だけに負わせ、「多」である諸宗教に問うことなく、キリスト者のみに変革を要請することで、先述の、国際平和を促進し、地球の環境問題や、第三世界の貧困、栄養不足、病気などの問題、さらには広範かつ断続的に起される戦争や飢餓の問題は解決されうるのだろうか。また、イエスの「十字架」と「復活」ぬき、すなわち三位一体論における子なるイエス・キリストぬきの神学は、果たしてキリスト教と呼べるのだろうか。そして、神を立てる・立てないという、まったく相反する教理を「同時」に両立させることが、ひとりの人間にできうるのだろうか。人は自身が信じている宗教以外の他宗教を心の底から真に理解

することができるのだろうか。最後に、すべての宗教が唯一なる究極的神的実在を拝しているのであるならば、たとえば仏教徒であることの必然性は「どこ」で見出されるのだろうか、といった疑問は残る。

そうであったとしても、ヒックが提唱した宗教多元主義は、宗教の世俗化・多元化現象の只中にある現代社会において、各宗教が互いに敬意を払いつつ、「どう」理解し、「どのように」協調して共存、すなわち世界の平和に貢献する道を開くかという、キリスト教文化圏から発せられた「宗教間の対話」の必要性を、非キリスト教文化圏に生きる私たちにも問わせた、という意味において社会的意義がある、と言えよう。また、信仰にコミットする・しないに拘らず、「宗教とは何か」という人生における重要なテーマを再度われわれに問わせた、という点においても、哲学的意義があると言えよう。

【参考文献】

- John Hick, "The Metaphor of God Incarnate", SCM Press Ltd, London, 1993.
- ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『神は多くの名前を持つ』岩波書店、1986.
- ジョン・ヒック、間瀬啓允 渡部信訳『もうひとつのキリスト教——多元主義的宗教理解』日本基督教団出版局、1989.
- ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『宗教多元主義—宗教理解のパラダイム変換—』法蔵館、1990.
- ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999.
- ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『ジョン・ヒック自伝—宗教多元主義の実践と創造—』トランスビュー、2006年.
- ジョン・ヒック、若林裕訳『神とはいったい何ものか 次世代のキリスト教』新教出版社、2014.
- 西田幾多郎『善の研究』岩波文庫、1948.
- RH. ドラモンド、田中友敏訳『多元化時代の宗教』ヨルダン社、1991.
- G. デコスタ編、森本あんり訳『キリスト教は他宗

教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』
教文館、1997。

武田龍精編『比較を越えて 宗教多元主義と宗教的
真理 阿弥陀仏とキリスト・浄土と神の国』龍谷
大学仏教文化研究所、1997年。

岸根敏幸『宗教多元主義とは何か 一宗教理解への
探究一』晃洋書房、2006。

峯岸正典「わがこととしての宗教間対話——東西靈
性交渉の経験から——」『宗教研究の現在』中央評
論、2007年。

間瀬啓允編『宗教多元主義を学ぶ人のために』世界
思想社、2008年。

星川恵慈『宗教と<他>なるもの 言語とリアリティ
をめぐる考察』春秋社、2011。

【脚注】

1) ヒックの理論は宗教多元主義における一つの在り方であ
って、それ以外にもある。たとえばヒックの神中心主義に真
っ向から対立しているジョン・B.カブ・Jrがいる。

2) 英国国教会の総会では、宗教多元主義者たちは「ヒトラ
ーを支持したドイツのキリスト教徒たち」にたとえられた。『チ
ャーチ・タイムズ』紙の見出しは、ヒックら多元主義者を「反
キリスト者たち」、ギリシア正教の大司教は「悪魔的性格を
もった敵のえじきとなった」と宣告した。ジョン・ヒック、
間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版
部、1999、p.12. John Hick, “The Metaphor of God
Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 2.

3) ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『ジョン・ヒック自伝 一宗
教多元主義の実践と創造一』トランスビュー、2006年、p. 51.

4) 西谷幸介「宗教多元主義は日本人の無宗教的現状を肯定す
るイデオロギーではない」、間瀬啓允編『宗教多元主義を学
ぶ人のために』世界思想社、2008年、p. 60.

5) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 209. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 163.

6) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 195. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 152.

7) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 195. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 152.

8) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 195. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 152.

9) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 3. John Hick, “The Metaphor
of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. ix.

10) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 3. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd,
London, 1993, p. ix.

11) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義へ
の道』玉川大学出版部、1999、p. 173. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 134.

12) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 152. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 163.

13) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 182. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 141.

14) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 182. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 141.

15) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 182. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 141.

16) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 174. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 135.

17) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 129. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 97.

18) 「「キリスト」は「神の子」と同意語となり、ついには、
三位一体の「子なる神」を表わすものとなった。「私は、イ
エスをこのように考えることが〔中略〕的確ではないと結論
するので、人類史に多大な影響を与えてきたあの人物を、単
にイエスあるいはナザレのイエスと呼ぶことによって、混乱
を避けようと思う」。ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子
訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 15. John
Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd,
London, 1993, p. 5.

19) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 195. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 152.

20) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 16. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,
p. 5.

21) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義
への道』玉川大学出版部、1999、p. 127. John Hick, “The
Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,

pp. 95-96.

22) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 127. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 96.

23) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 131. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 98.

24) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 39. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 25.

25) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 24. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 12.

26) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 39. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 25.

27) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 32. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 19.

28) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 172. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 132.

29) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 172. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 132.

30) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 172. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 132.

31) ヒックは、ルドルフ・ブルトマンの「非神話化」は「今日ではもっぱらユニテリアン運動に具体化されている抜本的な改革運動に対応する」と述べている。ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 206. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 160.

32) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 129. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 97.

33) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 26. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 13.

34) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 116. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 88.

35) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 26. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, pp. 13-14.

36) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 207. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 161.

37) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 190. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 148.

38) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 190. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. ix.

39) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 107. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 80.

40) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 116. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 88.

41) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 191. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 148.

42) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 115. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 87.

43) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 116. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 88.

44) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 116. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 88.

45) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 174. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 135.

46) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 174. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 135.

47) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 175. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 136.

48) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 175. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993,

p. 136.

49) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 175. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 136.

50) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 173. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 134.

51) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 173. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 134.

52) ジョン・ヒック、間瀬啓允／本多峰子訳『宗教多元主義への道』玉川大学出版部、1999、p. 189. John Hick, “The Metaphor of God Incarnate”, SCM Press Ltd, London, 1993, p. 147.

53) ペラギウス(360-420)が、三位一体論やキリスト神性論を否定して、神の単一性(unity)のみを主張したことから、イエスを宗教的指導者としては認めても、神としての超越性は否定する主義者をユニテリアンと呼ぶ。

54) ジョン・ヒック、堀江宗正訳「自分史」『宗教多元主義の探究』大明堂、1985年、p. 4.

55) ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『神は多くの名前をもつ』岩波書店、1986、p. viii.

56) ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『神は多くの名前をもつ』岩波書店、1986、p. 97.

57) ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『神は多くの名前をもつ』岩波書店、1986、p. 122.

58) ジョン・ヒック、堀江宗正訳「自分史」『宗教多元主義の探究』大明堂、1985年、p. 4.

59) ジョン・ヒック、間瀬啓允訳『神は多くの名前をもつ』岩波書店、1986、p. 121. 原著、p. 77.

60) 希望の神学を提唱したユンゲル・モルトマン(1926-)は「十字架のないキリスト教、シャリーア(イスラム法)のないイスラム教、聖地なしのユダヤ教、などというものがあり得るのだろうか。多元主義によって寸足らなくなった宗教のアイデンティティは、真の対話の始まりというよりむしろ終わりなのではないだろうか」と述べている。ユンゲル・モルトマン「多元主義神学は宗教間対話に有効か」『キリスト教は他宗教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』G. デコスタ編、森本あんり訳、教文館、1997、p. 202.

61) 仏教における「行道の構造は、いずれも最初に信が語られ、最後に慧が明かされて、その中間に出家者と在家者の別があるとしても、諸種の行業が説かれているわけで、それは基本的には、信、行、慧という行道」である、「たとえ歴史、社会、文化が変わっても、仏教における何れの経典、何れの宗派が説くところの仏道においても、原理的には、その行の内容は異なるとしても、それらはすべて、このような信、行、慧なる構造を原型とすることに変わりはない」。武田龍精「宗教多元主義と真理証言 一親鸞浄土教の課題一」、『宗教多元主義と真理証言』龍谷大学仏教文化研究所、1997年、p. 40.

62) 金子大栄校注『歎異抄』岩波文庫、1931、p. 40.

63) 「申命記」第21章には「木にかけられた者はすべて呪われる」と記されている。

64) 北森嘉蔵「神はあるか」『現代宗教講座』創文社、1954年、p. 53.

65) 「ひとが選ぶことができるのはただ一つの宗教だけであること、つまり一つを信ずることは実存的に他の信仰を排除するものである」。ユルゲン・モルトマン「多元主義神学は宗教間対話に有効か」『キリスト教は他宗教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』G. デコスタ編、森本あんり訳、教文館、1997、p. 208.

66) キリスト教包括主義の立場からパネンベルクは「われわれは、神がわれわれと同じように彼ら(非キリスト者：筆者挿入)を恵み深く見給うことを望む。けれども、一つの相違点は消えることがない。すなわち、キリスト教徒はキリストにおいて神の約束(将来の救済：筆者挿入)を与えられているのである。他の宗教伝統ではこの特定の約束は与えられていない」と述べている。『キリスト教は他宗教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』G. デコスタ編、森本あんり訳、教文館、1997、p. 151.

67) 高田信良「仏教研究から見た宗教多元主義」『宗教多元主義を学ぶ人のために』世界思想社、2008年、p. 150.

68) 峯岸正典は「仏教の立場からすればすべてが仏の子なのであり、仏教にも包括主義的側面があると言える。この包括主義的側面を取り去ると、仏は仏教徒しか救えないことになり、仏の慈悲は制限されたものになってしまう」と言っている。峯岸正典「わがこととしての宗教間対話——東西霊性交流の経験から——」『宗教研究の現在』中央評論、2007年、pp. 066-072.

69) ヴォルフハルト・パネンベルクは「ヒンドゥー教やシーク教徒が神に祈る時、彼らがキリスト教で礼拝される神と同じ神に祈ろうと思っているかどうかを、われわれはどのように知るであろうか」(p. 162)と問いかけ、「問題はただ、その中心にいます神を、キリスト教信仰もその他の宗教的視点もなしにどのようにして知ることができるのか、ということである。キリスト教伝統は、神がわれわれに知らされるのはまさに聖書の証言を通してであり、決定的にはイエス・キリストを通してである、ということを知る。キリスト教は〔中略〕キリストによる神の自己啓示を根拠としてしか言うことができないのである。そうでなければ、他宗教の信者が別の名前で礼拝しているのがこの同一の神であるということ、どうして知り得ようか」とヒックを批判している。『キリスト教は他宗教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』G. デコスタ編、森本あんり訳、教文館、1997、pp. 162-163.

70) 「撰取(おさめとり)、捨てることがない」、金子大栄校注『歎異抄』岩波文庫、1931、p. 41.

71) モルトマンは、多元主義神学は「ヒロシマ以前の世界の楽観主義に棲んでいるのではないだろうか。世界に一致をもたらすことは、こんにちでは形而上学ではなく全人類のための政治の問題である」と述べている。『キリスト教は他宗教をどう考えるか ポスト多元主義の宗教と神学』G. デコスタ編、森本あんり訳、教文館、1997、p. 209.

看護師等養成所別卒業者の就職場所の特徴

柏田 三千代
日本国際情報学会

Characteristics of the place of employment of graduates by nurses and other training centers

KASHIWADA Michiyo
Japanese Society for Global Social and Cultural Studies

From data on nursing school entrance and graduation, students with a low age group employed jobs in hospitals, high - age students employed jobs in clinics and elderly health facilities. However, we can compare many hospitals from briefing sessions where nationwide hospitals gather in one place now. Why a student with a low age group is employed in a hospital and a student with a high age group is in a difference in nursing ability required by a medical institution thought to be a reason for employment in a clinic or an elderly health facility Is not it?

1.はじめに

看護職員への就業者数は年間平均 3 万人程度増加しているが、平成 37 年には 3 万人から 13 万人が不足することが予測されている。そのため年々看護師等養成所が増加し、未来の看護職員を作り出そうとしているのである。

看護師等養成所の推移を政府統計の総合窓口 e-Stat が毎年看護師等養成所入学状況及び卒業状況として全国データを公表しているが、その調査の概要として次のようなことが示されている。看護師等養成所の入学状況及び卒業状況を把握し、目的として看護行政上の基礎資料として活用することであり、統計法に基づく一般統計調査を行っている。調査対象は、全国の看護師等養成所 1,696 校で、調査時期は毎年 4 月～6 月、方法はオンラインと厚生労働省－地方厚生局－都道府県－看護師等養成所の実施系統である¹。

先行研究²では、政府統計の総合窓口 e-Stat が公表している入学状況から看護師等養成所別に年齢や学歴に差があることが明らかになったが、では、それらの看護師等養成所を卒業する学生達の就業先に特徴はあるのかということは明らかにされていない。そのため、本研究では、政府統計の総合窓口 e-Stat

の看護師等養成所別の卒業生就職状況から就業先の特徴を考察していきたいと思う。しかし、卒業生就職状況には年齢や学歴などの情報がないため、入学状況の年齢や学歴から卒業生就職状況を比較しながら考察をしていく。

2.看護師等養成所別卒業生就業傾向

2.1 大学の入学状況と卒業生就業状況

大学は高校卒業以上の学歴者が受験資格を持ち、大学の 4 年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成 29 年度の大学総数は 267 校で 1 学年定員が 22,656 人、総定員は 90,364 人である。

大学における平成 20 年度～平成 28 年度の入学状況(表 1)では、年齢別 20 才未満が平成 20 年度 13,386 名から平成 28 年度 22,300 名に増加しているが、学歴別から見ると高校卒平成 20 年度 13,922 名から平成 28 年度 22,898 名と、大学には高校を卒業した 10 代後半の入学者が増加している。

一方、卒業生就業状況(表 2)では、平成 29 年度病院が 15,589 人、診療所が 11 人、老人保健施設は 8 人である。入学傾向から卒業生就業状況を考えると、

高校を卒業した20代前半の学生は大学を卒業し、その殆どが病院へ就職していることがわかる。

表1. 大学入学者の年齢・学歴推移

大学	20才未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒
平成20年度	13386	519	136	79	32	31	124	56	13922
平成21年度	14565	495	147	88	43	18	140	53	15112
平成22年度	16227	514	170	98	47	29	173	49	16819
平成23年度	16650	451	174	93	54	35	184	47	17185
平成24年度	17725	498	187	88	42	29	170	46	18194
平成25年度	18532	508	169	84	50	33	155	35	19126
平成26年度	20137	715	178	103	46	44	169	38	20973
平成27年度	21581	576	164	99	53	39	166	25	22279
平成28年度	22300	502	146	79	39	40	122	29	22898

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表2. 大学卒業者の就業場所

大学	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	7595	2	3
平成21年度	8196	4	1
平成22年度	9897	7	1
平成23年度	10882	5	4
平成24年度	11565	3	2
平成25年度	12276	58	4
平成26年度	13756	7	4
平成27年度	14067	5	5
平成28年度	14945	45	5
平成29年度	15589	11	8

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.2 短期大学3年課程の入学状況と卒業生就業状況

短期大学3年課程も大学と同じく、高校卒業以上の学歴者が受験資格を持ち、短期大学3年課程の3年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成29年度の短期大学3年課程総数は22校で1学年定員が1,300人、総定員は3,900人である。

短期大学3年課程における平成20年度～平成28

年度の入学状況(表3)では、年齢別20才未満が平成20年度1,916名から平成28年度1,429名に減少し、学歴別からも見ると高校卒平成20年度2,029名から平成28年度1,487名と減少している。

一方、卒業生就業状況(表4)では、平成29年度病院が1,212人、診療所が1人、老人保健施設は8人である。

入学傾向から卒業生就業状況を考えてみると、高校を卒業した20代前半の学生は短期大学3年課程を卒業し、その殆どが病院へ就職しているが、入学者数が減少していることより、短期大学3年課程から大学への進学に移行していることも推測できる。

表3. 短期大学3年課程入学者の年齢・学歴推移

短期大学3年課程	20才未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒
平成20年度	1916	105	67	31	11	9	57	36	2029
平成21年度	1964	124	82	49	24	18	59	50	2127
平成22年度	2019	120	92	51	43	27	89	54	2172
平成23年度	2103	120	78	39	30	27	93	42	2248
平成24年度	1959	98	76	43	11	15	69	21	2093
平成25年度	1804	85	68	29	20	16	63	33	1903
平成26年度	1448	93	58	35	22	12	55	25	1570
平成27年度	1568	97	53	26	13	8	50	25	1678
平成28年度	1429	65	42	19	9	11	36	27	1487

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表4. 短期大学3年課程卒業者の就業場所

短期大学3年課程	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	1562	2	0
平成21年度	1346	0	0
平成22年度	1493	0	0
平成23年度	1467	1	1
平成24年度	1528	2	0
平成25年度	1585	2	0
平成26年度	1758	0	1
平成27年度	1659	1	0
平成28年度	1572	1	4
平成29年度	1212	1	0

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.3 看護師3年課程の入学状況と卒業生就業状況

看護師3年課程も、大学・短期大学3年課程と同じく、高校卒業以上の学歴者が受験資格を持ち、看護師3年課程の3年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成29年度の看護師3年課程総数は554校で1学年定員が28,907人、総定員は88,308人である。

看護師3年課程における平成20年度～平成28年度の入学状況(表5)では、年齢別20才未満が平成20年度17,538名から平成28年度21,676名に増加しているが、これは20才未満に限らず20才～24才以外全ての年齢において増加傾向にある。25才～29才は平成20年度1,720名から平成28年度1,840名、30才～34才は平成20年度1,087名から平成28年度1,227名、35才～39才は平成20年度476名から平成28年度643名、40才以上は平成20年度192名から平成28年度323名と増加している。これらの結果は他の養成所と異なり各年代共に増加している。

一方、卒業生就業状況(表6)では、平成29年度病院が22,150人、診療所が27人、老人保健施設は22人である。入学傾向から卒業生就業状況を見ると、看護師3年課程は全ての年代が増加しているため、年齢で区別はできないが、看護師3年課程を卒業した学生の殆どが病院へ就職しているということは言える。

表5. 看護師3年課程入学者の年齢・学歴推移

看護師3年課程	20才未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒
平成20年度	17538	2173	1720	1087	476	192	1608	887	20378
平成21年度	17590	2280	2119	1276	656	266	1999	1013	20735
平成22年度	18679	2227	2214	1516	843	315	2635	1077	21701
平成23年度	19063	2300	2108	1332	746	290	2541	918	22026
平成24年度	19734	2200	1967	1271	635	222	2539	863	22312
平成25年度	20512	2054	1977	1193	632	222	2393	713	23111
平成26年度	20527	2122	2001	1242	615	260	2255	660	23539
平成27年度	21359	2071	2036	1246	598	285	2083	635	24506
平成28年度	21676	1985	1840	1227	643	323	1847	575	24913

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表6. 看護師3年課程卒業生の就業場所

看護師3年課程	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	18405	24	10
平成21年度	18124	30	9
平成22年度	18199	26	8
平成23年度	18794	37	12
平成24年度	19107	25	13
平成25年度	20709	40	19
平成26年度	21469	43	10
平成27年度	22028	49	13
平成28年度	22439	36	15
平成29年度	22150	27	22

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.4 高等学校・専攻科一貫教育校の入学状況と卒業生就業状況

高等学校・専攻科一貫教育校は、中学卒業以上の学歴者が受験資格を持ち、5年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成29年度の高等学校・専攻科一貫教育校総数は78校で1学年定員が4,199人、総定員は20,995人である。

高等学校・専攻科一貫教育校における平成20年度～平成28年度の入学状況(表7)では、年齢別17才未満が入学者の殆どを占めていることがわかる。

一方、卒業生就業状況では、平成29年度病院が3,100人、診療所が9人、老人保健施設は2人である。入学傾向から卒業生就業状況(表8)を考えると、高等学校・専攻科一貫教育校を卒業した20代前半の学生は、その殆どが病院へ就職している。

表 7. 高等学校・専攻科一貫教育校入学者の年齢・学歴推移

高等学校・専攻科一貫教育校	17才未満	17~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒	中学卒
平成20年度	3348	40	0	0	0	0	0	0	0	0	3388
平成21年度	3477	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3477
平成22年度	3731	212	0	1	0	0	0	0	0	0	3,941
平成23年度	4088	2	3	0	0	0	0	1	0	1	4,091
平成24年度	4139	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4,141
平成25年度	4234	42	0	0	0	0	0	0	0	0	4,276
平成26年度	4203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,203
平成27年度	4109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,109
平成28年度	4020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,020

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表 8. 高等学校・専攻科一貫教育校卒業生の就業場所

高等学校・専攻科一貫教育校	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	2410	9	2
平成21年度	2571	10	0
平成22年度	2610	19	3
平成23年度	2545	7	0
平成24年度	2569	8	0
平成25年度	2508	6	2
平成26年度	2608	23	1
平成27年度	3047	5	1
平成28年度	3042	20	0
平成29年度	3100	9	2

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.5 短期大学 2 年課程の入学状況と卒業生就業状況

短期大学 2 年課程は、准看護師課程もしくは准看護師課程高等学校衛生看護科を卒業し准看護師免許を取得した、高校卒業している学歴者が受験資格を持ち、短期大学 2 年課程の 2 年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成 29 年度の短期大学 2 年課程総数は 2 校で 1 学年定員

が 350 人、総定員は 700 人である。

短期大学 2 年課程における平成 20 年度～平成 28 年度の入学状況 (表 9) では、年齢別 20 才未満が平成 20 年度 9 名から平成 28 年度 86 名に増加しているが、しかしその他の年代は減少傾向にある。

一方、卒業生就業状況では、平成 29 年度病院が 145 人、診療所が 14 人、老人保健施設は 11 人である。入学傾向から卒業生就業状況 (表 10) を考えると、短期大学 2 年課程を卒業した准看護師の免許を取得している 20 代前半の学生は、その殆どが病院へ就職している。しかし、今までの大学、短期大学 3 年課程、看護師 3 年課程、高等学校・専攻科一貫教育校とは違い、全体数から考えると診療所や老人保健施設へ就業する学生が多い傾向にある。

表 9. 短期大学 2 年課程入学者の年齢・学歴推移

短期大学2年課程	20才未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒
平成20年度	9	15	31	59	89	132	8	18	305
平成21年度	6	11	11	44	82	192	2	5	332
平成22年度	62	8	4	45	76	205	1	0	398
平成23年度	82	2	5	37	77	152	0	0	354
平成24年度	88	5	5	28	45	127	1	0	294
平成25年度	78	5	9	38	52	131	1	1	310
平成26年度	103	8	6	26	44	110	0	0	295
平成27年度	96	14	5	18	32	93	1	0	254
平成28年度	86	17	6	20	43	104	2	0	274

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表 10. 高等学校・専攻科一貫教育校卒業者の就業場所

短期大学2年課程	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	280	24	8
平成21年度	273	30	14
平成22年度	172	41	19
平成23年度	128	28	10
平成24年度	175	21	23
平成25年度	162	21	3
平成26年度	152	18	13
平成27年度	112	21	9
平成28年度	136	20	12
平成29年度	145	14	11

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.6 看護師2年課程の入学状況と卒業生就業状況

看護師2年課程も短期大学2年課程と同じく、准看護師課程もしくは准看護師課程高等学校衛生看護科を卒業し准看護師免許を取得した、中学卒業以上の学歴者が受験資格を持つ。しかし、中学卒業の者は、准看護師として3年間の就労後の受験が条件である。看護師2年課程の2年間で所定の単位を取得し卒業することで、看護師国家試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成29年度の看護師2年課程総数は167校で1学年定員が9,640人、総定員は22,990人である。

看護師2年課程における平成20年度～平成28年度の入学状況(表11)では、年齢別ではすべての年代で減少しているが、学歴別の大学卒が平成20年度398名から平成28年度553名に増加し、大学卒から准看護師養成所を経て准看護師免許を取得後、看護師2年課程への進学者が増加していることがわかる。

一方、卒業生就業状況(表12)では、平成29年度病院が6,329人、診療所が483人、老人保健施設は284人である。入学傾向から卒業生就業状況を考えて、看護師2年課程を卒業した准看護師の免許を取得している学生は看護師2年課程を卒業し、その殆どが病院へ就職しているが、短期大学2年課程と同じく全体数から考えると診療所や老人保健施設へ就業する学生が多い傾向にある。すなわち、大学

卒から准看護師養成所を経て准看護師免許を取得後、看護師2年課程を卒業した者は、診療所や老人保健施設へ就業する学生が多い傾向にあるということである。

表 11. 看護師2年課程入学者の年齢・学歴推移

看護師2年課程	20才未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒	中学卒	高校等卒(再)
平成20年度	587	3368	1688	2017	1711	2695	398	544	10751	373	1229
平成21年度	586	2924	1709	1994	1705	2721	428	614	10282	315	1252
平成22年度	611	2414	1509	1875	1698	2575	460	570	9357	295	1066
平成23年度	552	2124	1457	1885	1648	2525	464	600	8877	250	917
平成24年度	481	2126	1389	1753	1682	2689	594	606	8829	251	846
平成25年度	559	2214	1267	1660	1728	2611	600	551	8660	228	949
平成26年度	503	2276	1162	1499	1600	2484	640	574	8084	216	915
平成27年度	472	2223	1024	1388	1429	2287	617	466	7538	182	917
平成28年度	468	2134	909	1236	1304	2139	553	449	7034	154	714

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001022606>, 2017/5/3.

表 12. 看護師2年課程卒業者の就業場所

看護師2年課程	病院	診療所	老人保健施設
平成20年度	9870	578	238
平成21年度	9239	615	316
平成22年度	8894	580	267
平成23年度	8776	598	304
平成24年度	8151	555	289
平成25年度	7467	519	297
平成26年度	7365	541	297
平成27年度	7407	596	264
平成28年度	6854	634	270
平成29年度	6329	483	284

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.7 准看護師課程

准看護師課程は、中学卒業以上の学歴者が受験資格を持つ。准看護師課程の2年間で所定の単位を取得し卒業することで、准看護師都道府県試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Stat によると平成29年度の准看護師課程は231校で1学年定員

が10,163人、総定員は21,226人である。

准看護師課程における平成20年度～平成28年度の入学状況(表13)では、一番多い年代は17～19歳だが17歳未満から39歳までは減少傾向にある。しかし、40歳以上は増加傾向にあり、学歴から見ると中学卒や高校卒、短大卒が減少している中、大学卒は増加している。これらの傾向から40歳以上の大学卒業者が増加しているという、看護師2年課程への進学の実付けになる結果である。

一方、卒業生就業状況(表14)では、平成29年度病院が4,481人、診療所が1,018人、老人保健施設は285人である。入学傾向から卒業生就業状況を見ると、准看護師課程を卒業した准看護師の免許を取得している学生は准看護師課程を卒業し、病院へ就職している者もいるが、全体数から考えると診療所や老人保健施設へ就業する学生が多い傾向にある。

表 13. 准看護師課程入学者の年齢・学歴推移

准看護師課程	17才未満	17～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒	中学卒
平成20年度	880	3325	2143	1850	1591	1140	885	711	968	8576	1481
平成21年度	716	3042	1932	2037	1664	1322	1037	813	1034	8504	1311
平成22年度	810	3279	1754	1884	1729	1464	1038	1004	1103	8537	1250
平成23年度	749	3372	1582	1869	1639	1350	960	1037	974	8276	1174
平成24年度	724	3328	1821	1710	1499	1249	976	1041	941	7918	1145
平成25年度	689	3168	1593	1725	1426	1203	938	1033	900	7711	1048
平成26年度	687	2980	1509	1665	1422	1082	974	973	814	7391	1089
平成27年度	685	2923	1587	1547	1354	1045	1068	878	719	7413	1139
平成28年度	627	2586	1329	1507	1350	1039	1021	807	616	7101	1110

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3

表 14. 准看護師課程卒業生者の就業場所

准看護師	病院	診療所	老人保健施設	その他	進学
平成20年度	4772	1331	191	228	3362
平成21年度	4952	1302	237	206	3221
平成22年度	4879	1171	275	292	2942
平成23年度	4965	1243	256	261	2776
平成24年度	5324	1308	227	218	2746
平成25年度	5093	1245	178	246	2999
平成26年度	4988	1113	212	206	2999
平成27年度	4788	1102	248	198	2713
平成28年度	4614	1110	212	268	2419
平成29年度	4481	1018	285	247	2414

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入

学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3

2.8 准看護師課程高等学校衛生看護科の入学状況と卒業生就業状況

准看護師課程高等学校衛生看護科は、中学卒業以上の学歴者が受験資格を持つ。准看護師課程高等学校衛生看護科の3年間で所定の単位を取得し卒業することで、准看護師都道府県試験の受験資格が得られる。政府統計の総合窓口 e-Statによると平成29年度の准看護師課程高等学校衛生看護科は15校で1学年定員が820人、総定員は2,540人である。

准看護師課程高等学校衛生看護科における平成20年度～平成28年度の入学状況(表15)では、年齢別では17歳未満が多く、学歴別でも中学卒業が多いが、全体的に年々減少傾向にある。

一方、卒業生就業状況(表16)では、平成29年度病院が118人、診療所が4人、老人保健施設は3人である。入学傾向から卒業生就業状況を見ると、准看護師課程高等学校衛生看護科を卒業した准看護師の免許を取得している学生は、准看護師課程高等学校衛生看護科を卒業し、進学を除いてはその殆どが准看護師課程と違い病院へ就職している。同じ准看護師免許を取得している准看護師課程と違いといえ、年齢である。これらの結果から、年齢層が高い准看護師は診療所や老人保健施設へ就業する学生が多い傾向にある。

表 15. 准看護師課程高等学校衛生看護科入学者の年齢・学歴推移

准看護師課程 高等学校衛生看護科	17才未満	17～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40才以上	大学卒	短大卒	高校卒	中学卒
平成20年度	795	9	4	1	2	1	4	0	0	18	798
平成21年度	656	9	4	4	1	1	5	1	0	21	658
平成22年度	768	14	12	3	3	6	5	0	1	81	728
平成23年度	726	10	6	1	2	5	2	1	0	23	726
平成24年度	694	43	9	4	3	2	5	0	2	31	726
平成25年度	658	8	9	3	1	4	5	0	0	30	658
平成26年度	655	9	12	0	2	1	4	1	2	23	656
平成27年度	660	2	3	1	0	0	5	0	2	9	660
平成28年度	599	3	1	1	0	0	3	3	0	3	600

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入

学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3

表 16. 准看護師課程卒業生の就業場所

准看護師 高等学校衛生看護科	病院	診療所	老人保健施設	その他	進学
平成20年度	101	15	4	1	539
平成21年度	111	12	3	0	544
平成22年度	105	17	8	1	603
平成23年度	108	10	6	10	573
平成24年度	65	8	4	6	506
平成25年度	109	11	2	0	551
平成26年度	118	14	4	1	528
平成27年度	94	9	5	0	534
平成28年度	85	8	2	3	522
平成29年度	118	4	3	0	493

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

2.9 平成 29 年度養成所別就業場所

平成 29 年度養成所別就業場所を病院（図 1）と診療所・老人保健施設（図 2）に比較してみると、病院は大学卒業生が 15,589 人、看護師 3 年課程が 22,150 人と多い。また、診療所は看護師 2 年課程が 483 人、准看護師課程 1,018 人と多く、老人保健施設は看護師 2 年課程 284 人、准看護師課程 285 人が多い。これらの結果から年齢層の低い大学や看護師 3 年課程の学生は病院へ就業し、准看護師課程や看護師 2 年課程の比較的年齢層が高い学生は診療所や老人保健施設へ就業する傾向にあると言える。

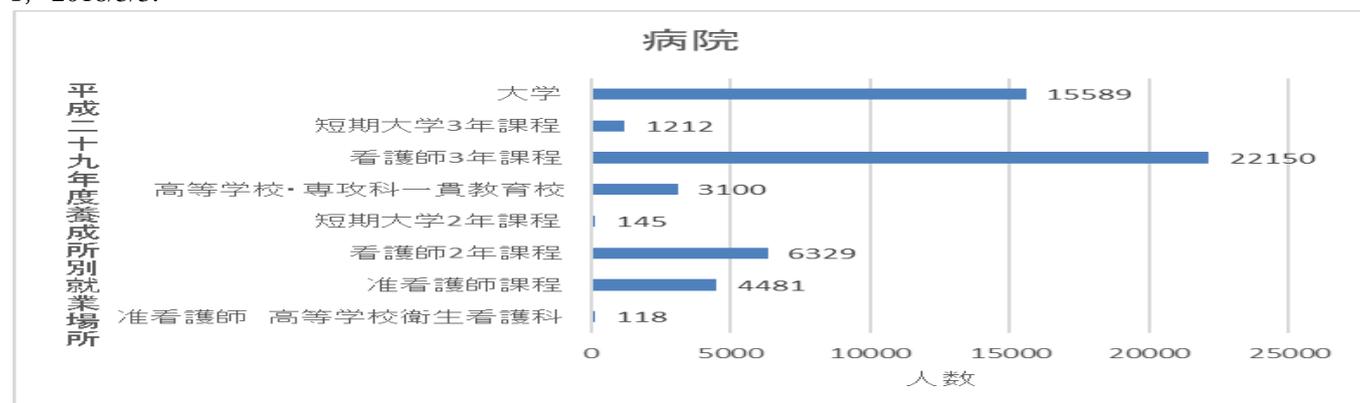


図 1. 卒業生の就業場所（病院）

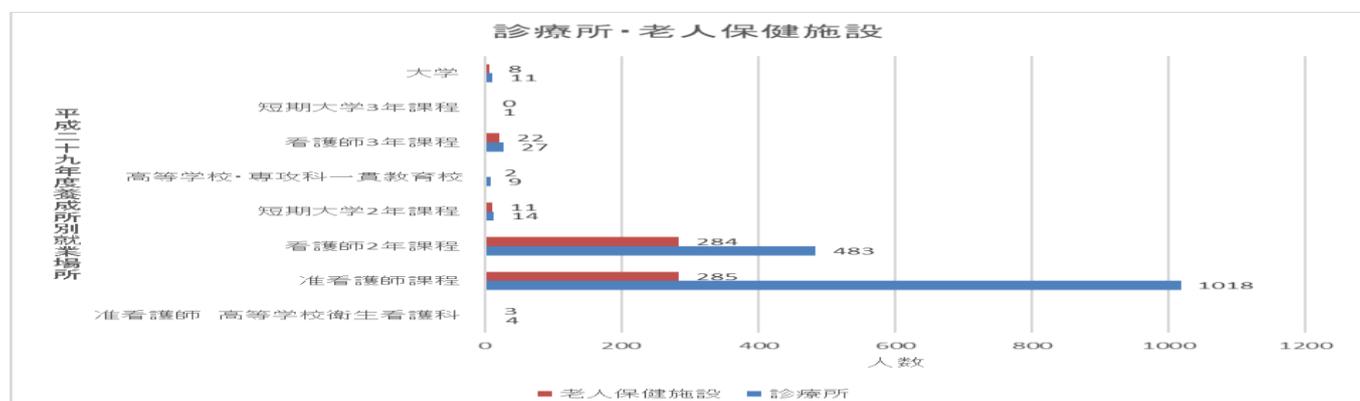


図 2. 卒業生の就業場所（診療所・老人保健施設）

2.10 養成所別就業医療施設

政府統計の総合窓口 e-Stat に卒業者の養成所と設置主体別 (表 17) の報告がされている。養成所は今まで述べてきた大学、短期大学 3 年課程、看護師 3 年課程、高等学校・専攻科一貫教育校、短期大学 2 年課程、看護師 2 年課程、准看護師課程、准看護師課程高等学校衛生看護科である。設置主体別とは、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、**独立行政法人労働者健康安全機構、その他の独立行政法人**、国、都道府県、市町村、日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合

会、国民健康保険団体連合会、全国社会保険協会連合会、船員保険会、健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合、公益法人、医療法人、学校法人、会社、医師会、社会福祉法人、宗教法人、その他の法人、個人の 26 に分類されている。

全体的に学校法人への就業が多いが、養成所別にみると、大学は国立大学法人やその他の独立行政法人に集中している。看護師 3 年課程は独立行政法人国立病院機構、都道府県、市町村、医師会に多い。しかし、准看護師の免許を持つ看護師 2 年課程や准看護師課程の学生は医師会への就業が多いのが特徴的である。

表 17. 卒業者の養成所と設置主体別

全国	大学	短期大学3年課程	看護師3年課程	短期大学2年課程	看護師2年課程	高等学校 専攻科一貫 教育校	准看護師課程	准看護師課程 高等学校 衛生看護科
独立行政法人国立病院機構	0	0	2,169	0	0	0	0	0
国立大学法人	2,252	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人労働者健康安全機構	0	0	352	0	0	0	0	0
その他の独立行政法人	2,339	94	413	0	0	0	0	0
国	95	0	133	0	28	0	98	0
都道府県	520	0	2,304	0	568	905	79	4
市町村	129	71	2,516	0	309	0	17	0
日本赤十字社	0	0	538	0	0	0	0	0
済生会	0	0	313	0	12	0	0	0
北海道社会事業協会	0	0	24	0	0	0	0	0
全国厚生農業協同組合連合会	0	0	644	0	0	0	0	0
健康保険組合及びその連合会	0	0	102	0	0	0	0	0
共済組合及びその連合会	0	0	33	0	0	0	0	0
国民健康保険組合	0	0	40	0	0	0	0	0
公益法人	0	0	1,140	0	231	0	61	0
医療法人	0	0	1,993	0	474	0	256	0
学校法人	9,698	1,415	6,079	176	3,159	2,160	166	94
会社	0	0	62	0	0	0	0	0
医師会	0	0	2,196	0	2,690	0	5,343	0
社会福祉法人	0	0	417	0	107	0	0	0
宗教法人	0	0	27	0	0	0	0	0
その他の法人	0	0	1,030	0	442	0	184	0

出典：政府統計の総合窓口 e-Stat:看護師等養成所入学状況及び卒業生就業状況調査一部データ加工,
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450141&tstat=000001022606&second=1>, 2018/3/3.

3.医療機関

3.1 就業先選び

以前までの就職先を選ぶ方法として、卒業と同時に養成所系列の附属病院に就職することが多く、就職活動をするとはなかったが、現在は全国の病院が一堂に集う合同説明会やインターンシップを経験しながら多くの病院を比較するように変化してきた。そして、併願し内定を得た医療機関の中から自身に合った医療機関を選ぶのである³。また、受験での年齢制限はその施設によって違うため、一概にはっきりとしたことはわからない。

3.2 病床機能

全国厚生労働関係部局長会議資料⁴の病床機能報告マニュアルによると、病床機能には大きく4つに分類される。

3.2.1 高度急性期機能

急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向け診療密度が特に高い医療を提供する機能で、救命救急棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室があるなど、急性期の患者に対し診療密度が特に高い医療を提供する病棟が該当する。

3.2.2 急性期機能

急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能を持つ医療機関とされている。

3.2.3 回復期機能

急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能で、特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）とされている。

3.2.4 慢性期機能

長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能で、長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能とされている。

3.3 看護力

患者の病状を急性期・回復期・慢性期・終末期に

分類すると、急性期に必要とされる看護力は、一刻を争う危機的な状況の患者が対象とされ、判断力や集中力など、高度な看護スキルや体力が要求される。回復期では、急性期を脱しているため、作業療法士や理学療法士などとリハビリテーションを行いながら、心身のケアを行っていく看護力が要求される。慢性期では、回復が困難な状況が続き、入院や通院が長期にわたることが多いため、信頼関係を築くコミュニケーション能力が問われる。終末期は、人生の最後を穏やかに過ごして貰うためのケアが必要なため、柔軟な対応力が必要とされる⁵。しかし、急性期は高度な看護スキルや体力、回復期は心身のケア、慢性期はコミュニケーション能力、終末期は柔軟な対応力と挙げられてはいるが、どの段階でも全ての能力は必要とされる。ただ、それぞれの分野の看護力としては、それぞれの分野に応じた能力が特に必要とされるのだろう。

4.おわりに

政府統計の総合窓口 e-Stat の看護師等養成所入学状況と卒業状況のデータから年齢層が低い傾向にある大学や看護師3年課程の学生は病院へ就業し、准看護師課程や看護師2年課程の比較的年齢層が高い学生は診療所や老人保健施設へ就業する傾向にあったが、現在は全国の病院が一堂に集う合同説明会やインターンシップを経験しながら多くの病院を比較するように変化している。また、併願し内定を得た医療機関の中から自身に合った医療機関を選ぶことも可能だが、その選択肢の医療機関は高度急性期機能、急性期機能、回復期機能、慢性期機能に分けられている。看護力として必要とされるのは、どの分野にも必要ではあるが、特に必要な能力として急性期は高度な看護スキルや体力、回復期は心身のケア、慢性期はコミュニケーション能力、終末期は柔軟な対応力とされている。看護師等養成所入学状況と卒業状況のデータと医療機関や看護力を考えると、年齢層が低い傾向にある大学や看護師3年課程の学生は病院への就業として、高度な看護スキルや体力に十分対応することができるからだろう。しかし、准看護師課程や看護師2年課程の比較的年齢層が高い学生は診療所や老人保健施設へ就業する傾向にある

のは、就職時の年齢制限も急性期よりは緩やかで、高度な看護スキルや体力よりも年齢が高いゆえに経験から得られる心身のケア、コミュニケーション能力、柔軟な対応力の方が適応しているのかもしれない。

¹ 政府統計の総合窓口 e-Stat：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査，

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/100-1.html>, 2017/11/1.

² 柏田三千代：看護師等養成所入学者の年代と学歴別の進路傾向，国際情報学会誌，2017，p 74-83.

³ 庄村敦子：看護師になるまでになってからのコスパ検証しました，看護師になる 2016，朝日新聞出版，p 49.

⁴ 医政局：全国厚生労働関係部局長会議資料，<http://www.mhlw.go.jp/topics/2016/01/dl/tp0115-1-03-01p.pdf>, 2017/5/5.

⁵ 庄村敦子：看護師になるまでになってからのコスパ検証しました，看護師になる 2016，朝日新聞出版，p 49.

評価場面に現れた言語現象

—「ちょっと」はどんな役割をしたのか—

加藤 香須美
日本国際情報学会

A remarkable language phenomenon in evaluating peers — Effect(s) of a word of “chotto” —

KATO Kasumi
Japanese Society for Global Social and Cultural Studies

This paper examines what effect or effects a small word “chotto” (literally, a little, a bit, sort of) has in expressing opinions about other fellow members in a peer group, on the basis of an analysis of language phenomena observed in evaluations of students attending language teacher training courses. It is found that they utter this small word so that they reserve strict judgments about other members in order to avoid hurting their feelings.

1.はじめに

「人を評価する」「人の〇〇を評価する」ことを難しいと感じたり、あるいは「人から評価される」ことを嫌だと感じたりすることはないだろうか。このような感覚は、どのような理由で生じるのであろうか。

評価というと、上司が部下を評価する人事評価、教師が生徒を評価する成績評価、客が店を評価するサービス評価などをイメージすることが多いであろう。最近では部下が上司を評価する、学生が授業を評価するというものあり、同僚やクラスメートなど同じ立場の人を評価する場面に遭遇することもある。

本稿では、同じ立場の者（仲間）が互いに評価をしあう場面において、どのような言語現象が見られるかを検証した。データは日本語教師養成講座で教育実習をする者同士が評価をしあう場面を録音して得た音声データである。それを分析した結果、「ちょっと」という言葉がネガティブな評価の際に特徴的に出現したことに注目した。この「ちょっと」が人とのコミュニケーションの中でどのような意味を

持ち、どんな役割を果たしているのかを検証する。それによって相手を評価するとき各々がどのような気持ちで言葉を発しているのか、評価された側はどのような気持ちでその言葉を受け取るのか、仲間として人間関係にどのように影響しているかという側面から「ちょっと」の役割を検証することを目的とするものである。

2. 「ちょっと」について

2.1 意味・機能

「ちょっと」は会話に頻繁に現れ、文脈によって意味や機能は変化し、日本人は巧みに使い分けている言葉である。元の意味は数量や程度を表す「少し」であるが、述語を修飾する働きを持つもの、呼びかけなどの感動詞、文中での間投詞の働きなどがあり意味や機能はとても広い。

意味・機能は「副詞用法事典」¹に用例と共に細かい説明がなされており、多くの先行研究で分類や分析がされている。大まかには本間（2009）²が談話の機能として分類したものがわかりやすく、それを参

¹ 飛田良文・浅田秀子（1994）「現代副詞用法事典」東京堂出版 PP291-293

² 本間妙 2009 談話における「ちょっと」の機能の効果—ディスコース・ポライトネス理論に基づいて—国際人間学フ

考に次に示す。

- ①数量・程度（分量表現）少し
- ②配慮（緩和、婉曲）ぼかし、にごし
- ③強調（感情や話の勢いを強める）
- ④注意喚起 呼びかけ、不満表明
- ⑤フィルター 前置き、間をつなぐ

2.2 先行研究

機能の一つである配慮表現は、先行研究において多くクローズアップされており、人間関係潤滑油（川崎晶子 1989）³としてプラスに機能するものである。泰暁麗（2014）は自然会話における「依頼」「断り」という人間関係の緊張感が高まる場面で「ちょっと」という人間関係の緊張感が高まる場面で「ちょっと」が配慮表現として機能している⁴と述べている。また、山岡（2016）は「非難」の発話状況で、相手との摩擦を緩和する配慮を動機づけとして、程度を抑制するために用いられる⁵としている。

一方、相手への配慮としない先行研究では、笹本（2006）が「依頼」を「行為要求」とし、要求度を下げる機能はあっても必ずしも相手へ配慮するものとは言えない⁶としている。また、マスデン（2012）は誘いを断るときにはっきりと断ることを不躰として曖昧に「ちょっと…」という表現使うことについて、対人関係を損なう恐れがある「敬遠」を意味する機能がある⁷ことも指摘している。

3.研究方法

3.1 調査場所

社会人対象の日本語教師養成講座において行われた教育実習での評価場面

3.2 調査協力者

38歳から59歳までの男性1名、女性4名の計5名の実習生

3.3 評価場面について

3.3.1 教育実習

実習は全9回で、1回の授業につき40分の場合は

2人、25分の場合は3人が担当した。学生は養成講座主催会社が募集した日本語が初級・中級レベルの外国人であった。

授業担当以外の実習生の役割は、タイムキーパー兼録画をする係、教案と実際の授業の進み具合のチェックをする係、教師と学生のやり取りの頻度をカウントする係、評価2人、司会、書記である。

そのうち、評価を担当する者は実習指導者から配布された評価表の13項目を5段階で評価し、項目以外には「気が付いた点」と「インターアクション上の特徴」を自由記述によって記載した。

3.3.2 講評会

模擬授業を終えた後、講評の時間が設けられておりそれぞれの役割の者が発表した。評価場面というのは、評価の担当の者2人の発表である。評価者は実習者に向けて発言し、基本的に一方通行で他の者とのやりとりはない。

4.分析方法

4.1 トランスクリプトの作成

評価者の発言を録音、文字化し、どのような言語現象が見られるか分析をした。評価者の発言の時間は一人57秒から4分44秒であった。

4.2 フォローアップ・インタビュー

文字データ(トランスクリプト)をもとにフォローアップ・インタビューを行った。インタビューの形式は半構造化インタビューを採用した。フォローアップ・インタビューの時間はおよそ40分から60分であった。

5.分析と結果

5.1 トランスクリプトの分析

作成したトランスクリプトを、それぞれポジティブな評価の発言とネガティブな評価の発言に分けた。分けた基準は以下の通りである。

オーラム 5号 pp51-69

³ 川崎晶子 1989 日常会話のきまりことば 日本語学 8-2 p30

⁴ 泰暁麗 2014 配慮表現としての「ちょっと」の研究 p39

⁵ 山岡政紀 2016 配慮表現における慣習化と原義の喪失 p5

⁶ 笹本明子 2006 「ちょっと」の発話機能について—行為要求文に表れる「ちょっと」を中心に—同志社女子大学大学院文学研究科紀要 6号 p125

⁷ マスデン眞理子 2012 曖昧な「ちょっと・・・」は丁寧か? : 言わないことと聞き手の付加をめぐって 熊本大学国際化推進センター紀要 3 p63

- ・ポジティブな評価として扱った場面
 - ①後件に誉め言葉がくる場合（よかった、いいなあとと思った等）
- ・ネガティブな評価として扱った場面
 - ①後件に否定的表現がくる場合（～なかった、～にくい等）
 - ②後件にマイナスイメージを持つ語がくる場合（短い、弱い、～てしまう等、授業としては望ましくない内容）
 - ③あとに気になった点、気づいた点としているところ、思ったことの発言（指摘）
 - ④したほうがいい等、提案や意見を述べる場合
- ・一つの発言の中でポジティブな評価の場面とネガティブな場面をわけた根拠
 - ①「ただ」、「逆に」等、ポジティブ評価からの逆接の接続詞が使われている。
 - ②「気になったのは」、「気づいた点」は、等の言葉が続く。
 - ③指導者から示された評価観点の項目が変わり、低いポイントを付けたことの説明
 - ④文脈

5.2 トランスクリプトの分析結果

発言のケースは、協力者5名で全19例であった。トランスクリプトの作成段階で気になったことは次の点である。発言の中に「ちょっと」という言葉が出現した際、伝えたい内容そのものと比べ、「ちょっと」という言葉が発言のどこの部分に入っていたか正確に記憶に残らず、何度も聞きなおして入っていた部分を特定する必要があった。そのため、話し言葉に特有な言語現象として印象に残った。

また場面をポジティブとネガティブに分けた段階で、ネガティブな評価の時に「ちょっと」が特徴的に現れた。19例のうち4例にネガティブ評価がなく、15例のネガティブ評価すべてに「ちょっと」が出現していた。ポジティブ評価では、19例中2例にのみ「ちょっと」の出現が見られ、15例には出現していなかった。1例に授業評価とは関係のない文脈（「DSが出たちちょっと前くらいに」）に1回

「ちょっと」が出現した。（表1）

評価者の記号	年齢	評価回数	コメントの時間	実習者	「ちょっと」の出現		
					ポジティブ	ネガティブ	その他
AF	59	4	57秒	DF	0	0	0
			1分13秒	BF	0	0	0
			1分14秒	CF	0	1	0
			1分06秒	BF	0	0	0
BF	49	4	1分22秒	DF	0	3	0
			1分27秒	AF	0	5	0
			1分47秒	AF	0	8	0
			1分49秒	DF	0	2	0
CF	51	2	4分44秒	BF	0	7	0
			4分08秒	EM	0	7	0
DF	50	5	3分00秒	CF	1	9	0
			4分36秒	EM	11	3	0
			1分35秒	CF	0	6	0
			3分51秒	BF	0	5	0
			2分11秒	EM	0	0	0
EM	38	4	2分13秒	BF	0	2	0
			2分50秒	DF	0	6	0
			2分43秒	CF	0	5	0
			3分58秒	AF	0	4	1

表1 評価場面における「ちょっと」の出現回数

これらの評価場面に現れた「ちょっと」について、どのような役割を担っているか文脈を「現代副詞用法事典」⁸ および「副詞の意味と用法」⁹ に照らし合わせると以下ようになった。

- ①間つなぎ（フィラー）断言をはばかり話者のためらいの気持ちを暗示（ほぼ無意識）
 - ②否定的見解の発言をやわらげる働き
 - ③改善提案や依頼、意見の内容をやわらげる働き
 - ④否定的言動の前置き（意識的）
- ②③④については、本間（2009）の分類における相手に配慮する働きに該当すると考えた。

この場面において話し手は相手にどのような配慮をしていたのだろうか。また、話し手は、なぜ断言をはばかり、ためらったのであろうか。

5.4 フォローアップ・インタビューの分析

トランスクリプトの分析により得た結果から導き出された課題を検証するために、フォローアップ・インタビューを行った。インタビューの形式は半構造化インタビューを採用し、質問は①「ちょっと」が出現した文脈の発話意図、②評価をする際に気を

⁸飛田良文・浅田秀子（1994）「現代副詞用法事典」東京堂出版 PP291-293

⁹ 国立国語研究所（1991）日本語教育指導参考書 19「副詞の意味と用法」大蔵省印刷局

付けたこと、③評価を受けることについてどう思ったかの3点を用意した。その他については、話の流れに従い自由に話してもらった。自由な話では、授業への内省、言葉の使い方が今に至った経験などに及んだ。

質問の①は「ちょっと」が出現した文脈を中心に、どういう意図で発話したかを聞いた。実習は互いの学びの場であるので、良くない点の指摘やその改善案などの意見をきちんと伝えようという気持ちがある一方で、はっきり言いにくい、言葉を濁したい、ストレートに言いにくい、強く言えない、発言に自信がない、指摘をためらった、伝えるときに心が揺れる、という発言が見られた。また、1人は否定的な

内容を言うので意識的にワンクッションおこうと「ちょっと」を用いたと話した。

質問②の評価をする際に気を付けたことへの回答は、聞き手が傷つかないこと、実習という学びの場としての相手のためになることの2点が全体として挙がった。

質問③は評価を受けることについてどう思うかと質問したのに対し、4人が「評価をすることについて」話し始め、自分が人を評価することを不遜だとの思いや評価が苦手、するほうが嫌と答えたのが印象的であった。反対に1人が「受けることについて」嫌いと回答した。(表2)

発話者	発話者の気持ち	評価をする際に気を付けたこと・その方策		「評価」という行為	
		聞き手を傷つけない配慮	聞き手のためになる配慮	評価をする	評価を受ける
AF	ネガティブなことを言っていない。	ポジティブなことをメインに言う。 あえていい所を探す。 ネガティブなことを言わない。	確実なことをいう。 いい点を伸ばす。	嫌い 評価をするほどの知識がないので正しい評価をする自信がない。	みんなよく見ている。
BF	はっきり言いにくい。 濁す。 ごまかす。 強く言えない。	褒めるのを心がける。	きちんと評価をする。 改善してもらえたらいい。	苦手 自分の授業が素晴らしくないのに人に言っているのか。ごめんなさい。	勉強である。 恥ずかしい。
CF	ストレートに言えない。 遠慮。 濁す。 不安、自信がない。	ストレートに言わない。 提案や改善案なども濁して伝える。	気づきを言う。 この場を最大限に生かす。	自分が正しいことを言えるレベルではない。 発言に自信がない。 私ごときが指摘なんて…	忌憚のない意見を言ってほしい。 みんなずばずば言わない。
DF	濁す。 指摘を躊躇。	感情的な気持ちを排除して発言。 批難にならないように。	よりよくなるようにダメ出し	自分もできてないのに言うのはおこがましい。	遠慮しないで思ったことを言ってほしい。 感情的なことも
EM	ぼかす。 ワンクッション置く。 躊躇。	ポジティブ→ネガティブ→ポジティブの順番で言う。 ストレートに言わずぼかして言う。	ネガティブなことを受け入れやすいように最初褒める。 (ダメなところがメイン) やる気をなくさせるような表現を避ける		嫌い、プライドが高い 受け入れるべきと自分に言い聞かせている。

表2

6.まとめと今後の課題

本稿ではまず、教育実習中に行われた講評会での評価場面においてどのような言語現象が特徴的であったか音声データを文字に起こして分析し、「ちょっと」という言葉を抽出した。「ちょっと」が出現した文脈のほとんどはネガティブな評価の発言であった。次に、トランスクリプトをもとに発話者に対し個別

にフォローアップ・インタビューを行い、発話の意図等を質問することによって「ちょっと」の意味・機能を検討した。

これらの分析によって顕著だった点は、ネガティブな評価として扱った「よくない点、気づいた点の指摘」や「改善点の提案、意見」を聞き手が傷つかないような表現として「ちょっと」を使い、濁したり

ばかしたりすることによって相手に配慮していたことである。評価の際にネガティブな内容をストレートに伝えることによって生じるかもしれない仲間との摩擦を避けたものと考えられる。

今回の調査の反省点としては、フォローアップ・インタビューの「評価を受けることについてどう思うか」という質問③について、「評価者からの指摘や提案・意見をどのように受け止めたか」という質問にすべきであった。このように質問の仕方を変えることによって、発話者が使った「ちょっと」が受け手に対して効果があったか検証できたのではないかと考える。しかしながら、この質問③への回答では、日本語教師としての経験が浅い、あるいは未経験である者が人を評価することへのためらいがあることを示した。このためらいは、「副詞用法事典」に提出されている「間つなぎ（フィラー）断言をはばかり話者のためらいの気持ちを暗示」という意味・機能に該当するとして、ためらっているから「ちょっと」と言ったか発話者に確認したところでは、あくまで程度副詞としての「少し」の意味である、または考えているだけとの答えであった。フィラーとして使われた「ちょっと」はほぼ発話者本人の意識に上っていない形で発言されているので、暗示しているかどうかとも無意識下のものであると考える。したがって、ためらいの気持ちがあったから「ちょっと」を使ったということ仮説として検証するには、発話者への掘り下げた調査が必要である。

さらに今後の課題としては、マスデン（2012）が指摘する「敬遠」意味する「ちょっと」の用法について検証する機会を持ちたいと思う。マスデン（2011）では、留学生が使う断りの「ちょっと」に日本人大学生が失礼だと感じると指摘した。この点について、日本人同士ならどうなのだろうか。本研究にかかわる中で、日本人に意見を聞く機会を持ったところ、「ちょっと」と断られたことで「敬遠された」と感じたと答える人が多かった。これをふまえ、日本人が使う断りの「ちょっと」に日本人がどう受け止め、対人関係にどう影響を及ぼすか量的研究も視野に入りたい。

【参考文献】

- 秋田恵美 2005 現代日本語の「ちょっと」について 創価大学別科紀要 17 pp72-89
- 岡本佐智子・斎藤シゲミ 2004 日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能 北海道文教大学論集 5 pp65-76
- 川崎晶子 1989 日常会話のきまりことば 日本語学 8-2 pp26-35
- 笹本明 2006 「ちょっと」の発話機能について—行為要求文に表れる「ちょっと」を中心に 同志社女子大学院文学研究科紀要 6号 pp115-136
- 泰暁麗 2014 配慮表現としての「ちょっと」の研究
- 鄭英愛 2011 会話文における「ちょっと」の配慮表現について（2） 日本文学論集 35号 pp82-51
- 中田智子 1991 談話における副詞のはたらき 『副詞の意味と用法』 国立国語研究所
- 中道万真木男 1991 副詞の用法分類—基準と実例— 『副詞の意味と用法』 国立国語研究所
- 野田尚史 2013 コミュニケーションのための言語と教育の研究 日本語教育のためのコミュニケーション研究 国語研プロジェクトレビュー 6 pp83-92
- 本間妙 2009 談話における「ちょっと」の機能の効果—ディスコース・ポライトネス理論に基づいて— 国際人間学フォーラム 5号 pp51-69
- 彭飛 1994 「ちょっと」はちょっと ポン・フェイ博士の日本語の不思議
- 真嶋潤子・浜田朱美 1999 日本語初級教科書の分析試案—「ちょっと」の意味・用法から— 日本語・日本文化研究 9号 pp27-44
- マスデン眞理子 2012 曖昧な「ちょっと・・・」は丁寧か？：言わないことと聞き手の付加をめぐって 熊本大学国際化推進センター紀要 3 pp63-75
- マスデン眞理子 2011 日本人大学生が失礼だと感じる留学生の誘い・断りの表現に関する予備調査 熊本大学国際化推進センター紀要 2 pp51-73
- 山岡政紀 2016 配慮表現における慣習化と原義の喪失

天津飯の起源

—一定説を疑う—

増子 保志
日本国際情報学会

Origin of Tianjin Rice

—Reexamine the theory so far—

MASUKO Yasushi

Japanese Society for Global Social and Cultural Studies

Tianjin Rice does not exist in China. Tianjin Rice is a dish arranged in Japan.

It is unknown why the name Tianjin was named. Tianjin rice is just a thing that puts a crab meat with eggs on the rice. This paper aims to reexamine the theory so far.

1.はじめに

我が国には中華丼や広東麺など中国には存在しない中華料理、いわゆる日本でアレンジされたジャパニーズ中華料理¹が存在する。これらの料理は高級中国料理店のメニューには無く、街場の大衆中華料理店の定番メニューとなっている。その中の一つにご飯の上にかに玉をのせた天津飯がある。

天津飯は中国には存在せず中国料理が日本化したものではなく日本で誕生した料理である。しかし、天津飯がいつから街場の大衆中華として親しまれたのかその起源は定かでない。現在、一般的に流布している説は、辻調理師専門学校の調理教授であった横田文良氏の説によるものがある。それは、

東京説・・・来々軒発祥説

大阪説・・・大正軒発祥説

というもので、ほとんどのメディア媒体がこの説を紹介している。しかし、両説とも「したという」とか「らしい」「だそうだ」と正確な資料に基づいたものではなく、ほとんど伝聞によるものを中心としている。果たしてこの説は正しいのであろうか。本稿では、天津飯に関しての横田説を中心とした先行研究を再検討し、その考察結果から仮説と課題を提示し今後の研究に繋げることを目的とする。

2. 先行研究にみる天津飯の起源

1) 横田文良説

i) 東京起源説

東京説では浅草のラーメン発祥の店といわれる来々軒が、「その三代目の主人が戦地から復員した後、東京駅の八重洲口に来々軒を出店し、この時銀座の中国料理店「萬寿苑」から料理人を回してもらった。その料理人がある時、「何か早く食べるものを作って」という客からの要望に応じて、天津飯を作ったとされている。卵に蟹の身を入れた蟹玉を井のご飯の上へのせ、酢豚の餡を応用した甘酸っぱい醤油味の餡をかけて「天津丼」と呼んだのである。当時天津は中国からの復員船が出る港として知られていることもあり、当時の東京の人々に大受けしたものだそうだ」（「来々軒」で修行した宮葉進氏からの伝聞）そのためか東京は蟹玉に甘酢餡をかけた天津丼が多い。とされている。

この説では、

- ①「当時」という言葉が使用されているが、その時期は明確ではない。
- ②蟹玉をご飯にのせて何故「天津飯」と名付けたかの根拠にかける。
- ③「何か早く食べるものを作って」という客からの要望に応じて、天津飯を作ったとされているが、調理時間という観点から見れば「炒飯」でも十分早く、

¹ 中国料理に似せて日本でアレンジされた料理（筆者・増子の造語）

天津飯が早くできるからという根拠は低いと考えられる。

④「当時の人々に大受けした」とあるが、まず当時という曖昧な記述で具体的な時期が確定できないうえ、新聞記事やエッセイなどを調査したがそのような記述は皆無である。

ii) 大阪起源説

一方、大阪説は「戦後間もないころ、大阪城近くの馬場町に陸軍の大阪八連隊本営があり、その前にあった「大正軒」という中華料理店が発案したという。今はもうないが大正時代関東大震災の後に開業したらしく亭主は山東省出身で、卵料理が得意であった。当時は戦後の混乱期であったため食糧も乏しく、売り物がなくて困り果てた末に知恵を絞った亭主は、天津の民間の食習慣、蓋飯（蓋飯とは、ご飯の上におかずを載せたもの。）を発想のもととしたらしい。

亭主は天津の食習慣を習い、天津で多く獲れたワタリガニを売り物に、これを卵でとじ蟹玉を作ってご飯の上に載せ、上からトロリとした餡をかけた。これが芙蓉蟹蓋飯、日本人がいう「天津飯」の第一号という説である。（辻学園講師・林良泰氏よりの伝聞）²

この説においても

- ①「したという」という伝聞形式の説明で確固たる証拠に欠ける。
- ② 近隣地区とはいえ山東省出身の料理人が料理に天津と名付ける明確な理由に欠ける。
- ③ かに玉から卵を連想し、卵料理を得意とする料理人が発案したかのように印象付けている。
- ④ 天津の民間の食習慣として蓋飯としているが、ご飯の上におかずをのせて食べる習慣は日本に古くから存在する。これも無理に天津ののせご飯を想起させるように印象付けたものである。

横田の主張する説は調理教授らしく、食べ物の構成要素である卵、蟹、ご飯を中心に論じられている。さらに中華料理店で提供されている料理ゆえにその起源を中国へ希求している傾向が強い。

2) 殷説

次に横田の説を発展させたものとして殷晴のレポートがある。殷によれば、天津飯の天津はかに玉や蓋飯（ガイファン）（おかずをご飯の上にのせること）とは関係なく戦後中国から日本に帰還した人々の経験に由来しているのではないかという説である。

殷の研究を引用すると、「第二次世界大戦後、中国の北方の最大の港として、天津の塘沽港は日本人の俘虜と居留民を輸送する任務を負っていた。1945年10月から1946年8月にかけて、北平・天津・山西・河北など華北の各地から合わせておよそ340,000人の日本人の捕虜・居留民が塘沽から帰国した同年12月から、毎月輸送された居留民の人数が急激に増加したが、塘沽港の輸送力にはやはり限界があるので、華北の各地から集められた日本人はしばらく天津に滞在しなければならなかった。そうした人々の中に、天津に滞在中に「芙蓉蟹」（または「芙蓉蟹のせ丼」）を食べたことのある人が存在していたと言えよう。この人物をとりあえず「Xさん」と称しておきたい。従って、天津飯の流伝ルートを推測すれば、

（1）Xさんが日本に帰った後、来々軒あるいは大正軒のクックになり、日本従来の中華料理カニ玉を活用して丼物にし、さらに自分の天津滞在中の経験に依じてそれを「天津飯」と名づけたこと。

（2）帰国して間もないXさんが、来々軒あるいは大正軒で偶然に「カニ玉丼」を食べ、自分の天津滞在中の思い出が引き起こされ、その丼物を「天津飯」と名づけた、といった2つの可能性が浮上する。

結果、「天津飯」が発明されてから天津のことを知っている人々に大受けしたのではなく、むしろ天津から帰国した人が「天津飯」と名づけたからこそ、カニ玉が「天津」と関係付けられるようになったということなのである。³

しかしながら、

- ① 芙蓉蟹自体、別段天津の名物料理ではないこと

³ 殷晴「天津飯」の由来：

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/ginnan/ginnan29>（2018年4月30日アクセス）

² 横田文良『中国の食文化研究 天津編』辻学園調理製菓専門学校、2009年3月、p101-p104。

② 芙蓉蟹は大正14年には日本に入ってきていること。

③ Xさんが来々軒や大正軒のコックになる確率は非常に低く、仮にコックになったとすれば、お店の記録に残っているはずである。(・・といわれている式の話にはならない)

④ Xさんが来々軒や大正軒で、かに玉井を食べて「天津飯」と名付けたとすれば、そのお店に相当影響力のある人間だと考えられる。一見の客が呼んだくらいでは名称として採用されないであろう。影響力のある人間が考え出したとしたら、何らかの記録が残っているのではないかと考えられる。

3) 天津産米説

「昭和の物資不足の時代に、中国天津産の良質米である「小站米」(シャオチャンミー xiǎozhàn mǐ)をわざわざ使った、蟹肉入り卵焼き乗せ井という意味で、「天津芙蓉蟹肉飯」という料理名であった。その長い名称が「天津飯」と短く呼ばれたものとされる。小站米は現在の天津市津南区小站鎮でつくられているため、中国では「小站稻米」(シャオチャンダオミー xiǎozhàn dàomǐ)とも呼ばれている。日本から持ち込まれて栽培された短粒種で、小粒で、ぱさつかず、粘りがある。この説では店や味付けは特定されていない。」⁴としている。

しかし、上記の出典が不明な点に加えて、日本産の米の井飯にお米の名前をつけることは皆無である。例えば新潟コシヒカリ井など存在しないように、わざわざ中国産の米の名前を井飯につけることはない。

4) 坂本説

次に中国麺類文化研究家の坂本一敏の説を紹介する。坂本は著書の中で中国天津での自らの経験から、天津飯は天津から日本に伝わったと主張している。坂本によると2008年5月、天津の天下一品というレストランで調理師の馬金鵬氏と会食した際の話の中で「馬氏の祖父である馬蓮慧が1909年日本の神戸と飲食文化の交流を行った際に日本から「味の素」を

教えてもらった代わりに、「天津飯」を教えたというものである。その「天津飯」は「帶魚(太刀魚)」を炒めたものを濃い醤油で味付けしたもの。もう一つは、卵と蝦を使ってとろみを付けた塩味のソースをかけて食べるもの」⁵だとしている。

しかしながら、いずれも天津飯の特徴であるかに玉は使用されておらず、中国人らしい“もった”話しであるのは明白で思わず失笑を禁じ得ない。しかしながら、坂本はこのにせ天津飯を「日本のものと中身は違うが、天津飯はあることはあった。」と述べている。

また、坂本は麺類研究家らしく次に天津麺について考察している。天津飯については、馬氏が伝えたとしているが、麺に関しては日本のオリジナルであると述べている。

「それは大正末期から昭和初期に浅草六区において、仕事帰りの客が開演時間に間に合わせるため早く食べようと、かに玉をご飯の上に乗せて食べたのが始まりで、それを麺の上にもせられるようになり、かに玉を調理したのが天津出身の調理人であったことからその名が付いたといわれている」⁶と記述している。

しかし、その時期も料理店も定かではなく、浅草六区近辺ということであれば、来々軒と推察されるが定かではない。坂本の説も「いわれている」という資料的根拠の無いもので、やはり横田の来々軒説が明白な証拠もないのに暗に影響しているようである。

3. 「かに玉」から見た天津飯

つまるところ、天津飯=かに玉+ご飯であるに過ぎず、問題は「かに玉のせ」が何故「天津」になったかということである。

次に天津飯の主要構成要素であるかに玉から天津飯を考察する。

1) 中国における「かに玉」

中国のかに玉は一般に「芙蓉蟹」と呼ばれる。芙蓉とは真っ白でふわふわした外見をいう。中国の

⁴ ウィキペディア「天津飯」:
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E9%A3%AF> (2018年4月31日アクセス)

⁵ 坂本一敏『誰も知らない中国拉麺之路』小学館、2008年12月、p24-p28。

⁶ 同上 p28。

かに玉は黄身と卵白を別々にして卵白の白身を使う。これに対して日本のかに玉は卵すべてを使うので黄色い。いわゆる蟹入りのオムレツである。

では、中国には蟹入りオムレツはあるのであろうか。類似のものとして香港に「芙蓉煎蛋飯」(フーヨンチンタンファン)がある。これは、ハム、叉焼、モヤシ、ねぎ等を入れて厚く焼いた玉子焼きをあらかじめかけてあるタレご飯の上にのせたものである。タレは叉焼にかける甘いタレが多い。しかし、これには字が示す通り蟹は入っていない。これは、いわ

ゆる「叉焼入りオムレツのせご飯」である。卵全部を使用するため黄色いが、なぜか芙蓉という字で表現されている。

2) 中国料理書の中の「かに玉」

さて日本ではいつ頃から蟹玉が存在していたのであろうか。我が国で発行された中国料理書において、かに玉について記述されているのは戦前期においては、下表の通りである。

	書名	発行年	著者	
①	家庭宴会支那料理	大正 2 年	阮塗二	なし
②	家庭で出来る食通の喜ぶ～	大正 6 年	服部茂一	なし
③	美味しく安く手軽に～	大正 14 年	秋穂敬子	芙蓉蟹
④	食通の喜ぶ日本、支那～	大正 15 年	服部茂一	芙蓉蟹
⑤	素人に出来る支那料理	大正 15 年	山田政平	芙蓉蟹粉 (蟹のオムレツ)
⑥	手軽に出来る珍味支那料理	大正 15 年	小林定美	芙蓉蟹粉、芙蓉蝦仁
⑦	御飯料理の作方二百種 西洋料理 支那料理	昭和 10 年	主婦の友	蟹玉井 * 1 滑蛋蟹飯 * 2
⑧	手軽に美味しく出来る～	昭和 12 年	大日本家庭料理研究会	芙蓉蟹粉 (かにの卵焼き) 芙蓉蝦仁 (卵蝦焼) 中華丼 (肉色々ごはん)

表 1 戦前期の中国料理書にみられるかに玉 (殷晴の表を筆者が一部改変)

⑦の 1935 (昭和 10) 年発行『御飯料理の作方二百種 西洋料理 支那料理』(主婦の友社編)には i) 「蟹玉井 (蟹と玉子に野菜の五目蒸)」 ii) 「滑蛋蟹飯 (芙蓉井)」と蟹と玉子を使用した 2 種類の料理が記述されている。

i) 蟹玉井・・・「野菜と蟹を醤油と砂糖で煮たものをご飯の上に乗せて、その上から割りほぐした卵をかけて蒸籠で蒸す。」と記述され、蟹玉の作り方が天津飯とは異なる。

ii) 滑蛋蟹飯・・・蟹やその他の野菜を卵でとじて、ご飯の上に乗せる
具材は、缶詰の蟹と缶詰のカニとタケノコ、ネギ、シイタケ、卵と、彩りのグリンピース少々。作り方は、蟹玉と同じで、これをただご飯の上に載せただけのもので天津飯に必須の餡がない。他の昭和初期から戦後までの中華料理書においても、蟹玉は必ず

と言っているほど載っていても、天津飯という言葉とともに蟹玉に餡をかけたご飯ものは登場しない。以上のことから、天津飯は戦後になってできたと言える。

4. 考察

戦後発行の中国料理書を調査してみると、戦前期と同様にかに玉に関する記述は見られるものの天津飯に関する記述は無い。日本でアレンジされた中華料理に似せた料理であるジャパニーズ中華であるので中国料理書に記述がないのは当然である。いずれにしても「かに玉」が「天津」に変化した根拠が明確ではない。街場の大衆中華料理店で提供されることが多いゆえ「中華」というカテゴリーにこだわりすぎているのではないだろうか。

次に、なぜ天津という言葉が使用されたのか。餃子

販売で有名な「宇都宮みんな」の歩みを紹介するページに昭和30年頃のお店を撮影した写真の中に「天津餃子」の貼紙が見える。⁷「みんな」の創業者は北京からの引揚者で直接天津と関わりがあるわけではなく何故餃子に天津と名付けたかは不明である。

中国の地方名を付けた料理は戦前から広東麵、南京そば、天津甘栗が存在していた。広東麵は五目そばの類似形で、なぜ広東という地名を付したのか不明である。南京そばは中国の拉麵が明治中期に横浜や長崎の中国人居留地を南京街と呼んだことに由来する。同じ南京でも料理ではないが「南京玉すだれ」は中国と無関係である。天津甘栗も天津が主産地ではないが栗の輸出港として天津と呼称されるように至った。

天津という呼称が使用される経緯については今後の課題だが、私見では確固たる根拠はなく「単なる思いつき」で呼称されるようになったのではないかと推察している。

5. 仮説の提示と今後の課題

下記表2のように戦後の中国料理書では天津飯の記述は無いが、天津麵に関する記述は見られる。国立国会図書館所蔵の中国料理書を調査した結果、昭和27(1956)年から昭和41(1966)年発行の書籍に天津麵の記述が見られる。(いずれも国立国会図書館蔵)

書名	発行年	著者	
中華料理独習書	昭和27年	似内芳重	天津麵
中華料理の基礎	昭和32年	主婦の友社	天津麵
西洋料理と中華料理	昭和34年	手塚みきお	天津めん
家庭中国料理独習書	昭和35年	同志社婦人	かに玉そば (天津麵)
中国料理・家庭料理全書	昭和41年	辻勲	かに玉そば (天津麵)

表2 中国料理書における天津麵の記述 (筆者作成)

昭和27年からの書籍には天津麵の記述が見られる

ことからこの時点で天津麵が普及していたことが判る。しかしながら中国には存在しない料理である天津麵が料理書に記載されたのは如何なる理由からであろうか。

ここで筆者は、次の仮説を提示する。「初めに天津麵ありき」。この仮説は天津飯が先にアレンジされたのではなく天津麵が先にアレンジされ後になって天津飯がアレンジされたのではないかと推察するものである。

戦後から昭和30年代の高度成長期にかけて闇市の屋台から再出発した大衆中華料理店において当時のラーメンは労働者層の安価なカロリー源として重要な地位を占めていた。

天津麵はかに玉+醤油ラーメンで構成されるものであり、当初はラーメンに生卵を割り入れて食していたものが変化して(生卵が嫌いな人が)かに玉の様な(正式な芙蓉蟹みたいなものではなく)玉子焼きをのせて欲しいと希望して現在の天津麵様な物になったのではないか。

しかし、スープに浮かぶ玉子焼きは食べづらい面がある。さらに、当時はラーメンにライスをつけて食するのが労働者層の定番であって、その流れから玉子焼きをご飯の上ののせて食することになり天津飯にアレンジされたのではないかと推察される。但し、この仮説では、なぜ「天津」という呼称が使用されたのかについての説明はできない。

今後の研究課題として、上記に提示した仮説の検証とともに、天津の呼称が使用されることになった経緯の調査、さらに

①街場の大衆中華料理店は戦後に中華料理が人気を博したことから日本蕎麦屋からの転身や派生した店が少なくないこと。

②そもそも日本でアレンジされた料理ゆえ日本蕎麦店の存在は無視できないこと。

③日本蕎麦店のメニューにある「玉子とじそば」は江戸時代からの代表的な種物メニュー⁸で天津麵はそれを中華風にアレンジしたものではないかと推察されること。

⁷ <http://www.minmin.co.jp/minmin/history.html> (2018年6月2日アクセス)

⁸ 『守貞漫稿』(江戸時代の天保から嘉永(1848~54年)にかけての風俗記録書より)。

以上から、今までのように「中華」の観点からの研究のみならず「日本」の観点から天津飯及び天津麵を考察する必要があると考える。

6. おわりに

先行研究を検討した結果、天津飯の起源や名前の由来に関して印象論といえるものが多く確固たるものを得ることはできなかった。

天津飯が天津という中国の地名と街場の大衆中華料理店で提供されている料理のため「中華」という領域にどの先行研究も固執しすぎている面がある。単なる“かに玉丼”としてよりも「中華」の装いを施した方が顧客に対する受容度が高く、また高級なイメージが出せるという“名前の力”が作用して本来の由来を見間違えていないだろうか。本研究では現時点で入手可能な資料に基づいて考察を行ったゆえ限界があった。よって今回は筆者による仮説を提示することで次の研究へ繋げていきたいと考える。

参考文献

横田文良『中国の食文化研究 天津編』辻学園調理製菓専門学校、2009年3月

澁川祐子「“あん”と出会って完成した天津飯」JB Press、2013年9月。

増子保志「謎の中華料理 油淋鶏」『Kokusai-joho』第2号2017年7月。

同上「変化するラーメン像 ー拉麵から Ramen へー」第8回超領域社会工学研究会研究発表要旨より、2018年6月3日。

報告論文

(研究ノート : Research Report)

報告論文は審査・査読を行っていません。

デジタル時代における企業経営と情報システム —「インターネット・マネジメント」を参照モデルとして—

符儒徳

開智国際大学国際教養学部

Corporate Management and Information System in Digital Era

—The Internet-Management Serves as a Reference Model—

FU Ru-De

Kaichi International University, Faculty of International Liberal Arts

1.序論

本稿では、デジタル時代における企業の情報システムと経営（マネジメント）を考える。そのために、コンビニエンスストア（コンビニ）の代表格「セブン-イレブン」（以下では「セブン」と呼ぶ）を例にとりながら、デジタル時代における企業の経営情報システム（MIS）について考察する。

現代の競争環境では、戦略のエッセンスは企業行動のダイナミクスにあり、目標となるのは顧客の目から見て他社を差別化し、模倣困難な組織のケイパビリティ⁽¹⁾を識別し、作り上げることである(Stalk et al.1992)。企業戦略を構成する要素は製品と市場ではなくビジネス・プロセスで、「プロセスの戦略的重要性」が説かれている(Stalk et al.1992)。また、鈴木(2003a)が「すべてをお客さまの立場に立って考えることが、我々の商売の基本である」としたうえ、経営の基本として「競争の時代における本当の差別化は妥協のない絶対の追求によってしかうまれない」と説いている。年代が変わっても競争⁽²⁾に関する思考は根本的なところで一致している。

このように競争環境は企業に対して徹底した顧客志向経営への圧力をもたらし、プロセス・イノベーション⁽³⁾の焦点は徹底した顧客志向にある。そのためには顧客への製品・サービスの提供における他社に対する先行性と、顧客ならびにパートナー企業との良好な関係性を実現できるプロセスの構築が必要とされる。こうしたプロセスの構築、そして、そのさらなる改善、イノベーションのために、デジタル

化とその活用が今日の企業に求められている。

デジタル化やグローバル化などにより、企業を取り巻く環境を表す新しい言葉として、VUCA⁽⁴⁾が登場してきた(e.g.寺澤2015)。これは外部環境の変化が状態化し、企業が持続的な成長を遂げるのがより難しくなることを意味するものである。そこで、発想転換が必要ならば、SWOTではなくフィリップ・コトラー(宮崎2007)のいうようにその逆「TOWS」で考えるのであろう。しかし、SWOTなど旧来の戦略ツールに頼るだけではもう生き残れないという指摘がある(McGrath2013)。一方、セブンという巨大な流通組織を一から作り上げたカリスマ経営者⁽⁵⁾であるセブン元CEO(最高経営責任者)(セブン&アイ・ホールディングス元会長)の鈴木敏文(鈴木2003a)が、「経営は変化への対応がすべてである。だからこそ、これを支えるベース(土台)としての基本が不可欠となる」と述べている。そのベースとは「お客様のニーズの変化や単品の動きをとことん見極めること」(鈴木2003b,p.123)である。そして、これを可能にしたのが当社の情報システムである。川辺(2003,p.243)もセブンが発展をやり遂げた成功要因の1つとして情報システムを挙げている。この情報システムはセブンがこれまでイノベーションの積み重ねによって実現してきたものである(鈴木2003b,p.122)という。

以下では、デジタル化する意味、情報システム(IS)と経営情報システム(MIS)、コミュニケーションとイノベーション、変化対応と創造的破壊について順

を追って述べる。セブンでは「対象を起点としたイノベーション」だけではなく「コミュニケーションを起点としたイノベーション」も実践していることがわかる。また、「インターネット・マネジメント⁶⁾」(符 2015)を参照モデルとしての有用性を指摘するとともに、今後の経営戦略についても言及する。

2.経営課題とデジタル化する意味

2.1 デジタル化という経営課題

いまや、何かを買うとき、「インターネット」(図1参照)のデータベースの利用で下調べをするのが当たり前になっている。店頭へ足を運んで販売員に話を聞く以前に情報を収集し、比較し、候補を絞り込むだけでなく、購入までインターネットで済ませるケースも少なくない。こういった時代、企業側は顧客に対して、価格はもちろんのこと、利用イメージが想起できる動画などの「情報」や、「顧客体験」(実際にトライアル)を提供する必要がある。

企業にとってビジネスのデジタル化は大きな経営課題であるが、しかし大きな変革がない限りでは企業はデジタルビジネスの波に乗ることはできないと指摘される(ベイカレント・コンサルティング 2015)。その理由はその中軸的役割を期待されるIT(情報技術)部門は目の前の業務に忙殺され、組織として追い込まれつつあるからである。

デジタル化できない企業を待ち受ける「運命」⁷⁾は、米レンタルビデオチェーン最大手「ブロックバスター」が好例であろう(e.g. Forbes Japan 2018)。要するに、デジタル化のもたらす変化を過小評価しているようなら極めて大きなリスクを抱えるということであり、変化を感じながらも現在の売り上げを損ねたくないという理由でデジタル化を躊躇している会社にも2010年に破綻したブロックバスターと同じような運命が待ち受けている。まさに、セブン元CEO(鈴木 2003b)が述べられているように、世の中の変化などへの対応力を失った時、いかなる過去の強者や覇者といえども破綻を免れないのである。つまり、変化に対応できない会社は生き残れない(鈴木 2013)。

言うまでもなく、「デジタル化はCEO(最高経営責任者)の使命」である。また、「顧客との接点をす

べてデジタル化すること」に留意する。

2.2 デジタル化する意味

デジタル化が影響を与えるのは主に「顧客体験」、「製品イノベーション」、「付加価値」という3つの領域である(Forbes Japan 2018)。なかでも強みを活かせるのが「顧客体験」である。要するに、シンプルかつ安心できる手順で、アクセスから注文までユーザーに円滑な顧客体験を提供できる。それによりイノベーションを起こすスピードを上げると期待される。

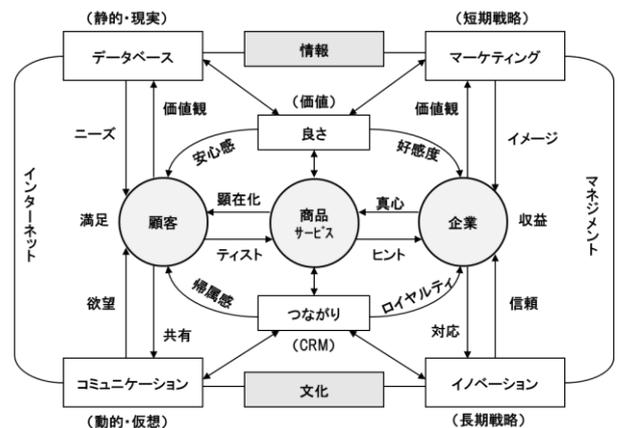


図1. 「インターネット・マネジメント」という混合型システム(左側:インターネット, 右側:マネジメント, CRM:顧客関係管理)

(出典) 符 2015:p.31 図5.

3.マネジメントと情報システム

3.1 マネジメント

フィリップ・コトラーによると、「企業にとっての勝利の方程式」が「イノベーション+マーケティング」である(宮崎 2008:p. 61)という。また、ピーター・ドラッカーによれば、「企業の目的が顧客の創造であることから、企業に2つの基本的な機能が存在することになる。すなわち、マーケティングとイノベーション」である(中野 2008:p. 105)。これをマネジメントの基本機能と呼ぶ(符 2015)。つまり、「マネジメント」の基本機能はマーケティングとイノベーションである(図1参照)。

3.2 情報システムと経営情報システム

情報の処理・創造・交換・蓄積などによって展開される人々の間の相互作用を「情報の相互作用」ととらえるならば、この情報の相互作用を支援するメカニズムは「情報システム（IS: Information System）」として認識される。とくに企業などの組織体に情報の相互作用を支援するメカニズムを「経営情報システム（MIS: Management Information System）」と称する（遠山他 2015:p. 16）。

ここで、遠山他(2015:p. 19)が述べているように、インターネットをはじめとする ICT(情報通信技術)は独立的に扱うべき存在ではなく人的・組織的要因と連動することによって収益性・生産性の向上に貢献するのであって、ICT が直接的あるいは自己完結的に収益性・生産性の向上に貢献するものではないことを指摘しておきたい。このように、インターネットをはじめとする ICT の技術的・経済的は必要条件であっても十分条件にならない。

ICT を駆使しようとするほど、ICT 以外の人的・組織的な「情報の相互作用」のメカニズムを整備し機能させなければならない。

また、企業文化⁽⁸⁾も見方によれば「情報の相互作用」によって組織に蓄積された知識である（e. g. 遠山他 2015:p. 24 図 1-4）。企業文化を醸成・変革するメカニズムも重要な企業のサブ情報システムとして認識できよう。ICT を前提とする情報システムは、これらの非技術的情報システムと相互補完的に機能することによって、高度な情報の相互作用を実現して、企業の環境適応的な維持・発展を可能にする。ただし、優れた企業文化自体が企業間の競争における優位性に繋がるのである⁽⁹⁾。

知識創造理論「SECI モデル⁽¹⁰⁾」（e. g. 加藤・松下 2007:p. 59, 遠山他 2015:p. 255）でよく知られる野中郁次郎(1996)が、「日本企業成功の秘密は知識創造である」と述べている。知識には「形式知」と「暗黙知」がある。言うまでもなく知識創造のために「場」が必要。すなわち、「創発」「対話」「システム」「実践」など4つの場が必要である。このことから、成功企業のマネジメントと情報システムの融合、いわば MIS（経営情報システム）は非常によくできているといえる。こういった企業には優れた企業文化が

あると考えられる。

3.3 イノベーション力点：技術と対象

前述のとおり、セブンは「すべてをお客さまの立場に立って考えることが、我々の商売の基本である」。また、その（経営）情報システムはセブンがこれまでイノベーションの積み重ねによって実現してきたものである。要するに、セブンは「人間・社会」という対象を起点としたイノベーションを続けて、技術（含む経営ノウハウ）として優れた MIS（経営情報システム）を構築してきたといえる（図 2）。

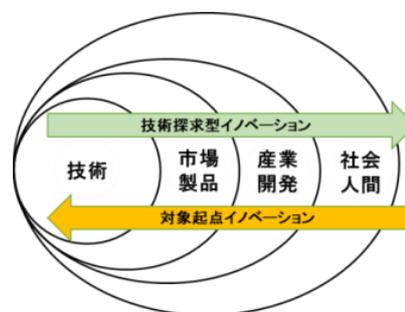


図 2. イノベーション力点

(出典) 筆者作成

4. コミュニケーションとイノベーション：セブンの場合

4.1 組織能力（ケイパビリティ）と全体会議

セブンの成功要因の1つとして情報システム（IS）を挙げることができる。それは、川辺(2003)が高く評価したセブンの組織能力（ケイパビリティ）の一部として捉えられる。特に IT（情報技術）を駆使できるケイパビリティを有する企業は「IT ケイパビリティ」を持つというならば、セブンはそのような組織であることが言を俟たないが、前述のとおり、ICT を駆使しようとするほど ICT 以外の人的・組織的な「情報の相互作用」のメカニズムを整備し機能させなければならない。以下ではセブンの場合について見よう。

「セブン-イレブン⁽¹¹⁾の創業以来、30年にわたって東京の本部で毎週行われている全体会議がある」と、セブン元 CEO の鈴木がその著書(2003a)の「まえがき」で述べている。そこで、「〇〇をして欲

しい「△△という商品を強化する」と言ったような「意味」を伝えるだけなら、メールなどでも伝えることは可能だが、「意識」を伝えるには、面と向かって話をするのが最も効果的だと言われている。鈴木元 CEO が 2016 年に退任したあとも、同社では全体会議（FC 会議）を隔週で開催することを続けているという⁽¹²⁾。従来通りの「意識」の疎通、ひいては「徹底」ができれば期待される。

このように、セブンは膨大な費用と時間をかけて意識の共有を行ってきたのである。その結果、コンビニ業界でダントツの王者と言われるセブンは、全国に 2 万店舗以上⁽¹³⁾を抱えながら、1 店舗あたり 1 日あたりの売上げは 65 万円程度である。対して、ライバルのローソンやファミリーマートは 50 万円台半ばで、毎日各店での平均売上げが 2 割以上違うと言われている。それは、前記のように「意識」の共有が優れているセブンは、競合他社との「徹底の差」である（e.g.小宮 2016.10.15）。

要するに、「〇〇をして欲しい」「△△という商品を強化する」などの「意味」を伝えるだけなら、「メール」を使う場合は「メッセージ」を媒体とする「コミュニケーション（伝達）モデル」（遠山他 2015, pp.36-37）であるのに対して、「意識」を伝えるために「会議」を開き、面と向かって話す場合は「情報」を媒体とする「情報処理モデル」（遠山他 2015, pp.34-36）であると考えられる。「情報処理モデル」に該当する「FC 会議」で、（以下はセブンの Web サイトからの引用）セブンは OFC（店舗経営相談員）へ有益な情報を伝える。情報を受けた OFC は地区ごとにミーティングを実施し、理解を深めたうえで地域に合わせた情報をオーナーに伝える。さらにオーナーと加盟店や従業員とのミーティングで情報が共有され、売場に反映している。こうした徹底の差は商品やサービスに表れ、それが大きな収益力の差という結果を生んでいる。

4.2 コミュニケーション起点のイノベーション

そもそも企業の「情報処理活動」の目的は「不確実性の削減」と「多様性の削減」にある。そこで、遠山他(2015:p.246)が述べているように、企業のメンバーが直面しているタスクの特性は多様性と分析可

能性によって表される（遠山他 2015:p.246 図 10-1 を参照）。タスクの多様性が高い場合に、問題は頻繁に生じ、広範囲にわたる。ここで、不確実性を削減するために多量の情報が必要とされ、主に ICT のような MIS が活用される。一方、タスクが分析不可能である場合には、問題は曖昧である。ここで、多様性を削減するために、リッチネス・レベル⁽¹⁴⁾の高いメディアである対面関係や会議など（フェース・トゥ・フェースのコミュニケーション・チャネル）が利用される。もちろん、セブン「FC 会議」のような、日本独特と言われる大部屋方式のフェース・トゥ・フェースのコミュニケーション・チャネルも優れた情報の相互作用のメカニズム（人的組織的な「情報システム」）として機能している（遠山他 2015:p.23）。

このように、セブンは、①「コミュニケーション：全体会議」→②「変化への対応の重要性を訴えて」→③「お客様のニーズの変化や単品の動きを押えてデータを見て仮説・検証を繰り返す」→④「絶えずイノベーションを引き起こす」、ことを続けてきた（e.g.鈴木 2003a, 2003b）。図 3 に示したように、これは「コミュニケーションを起点としたイノベーション」というよりほかはない。

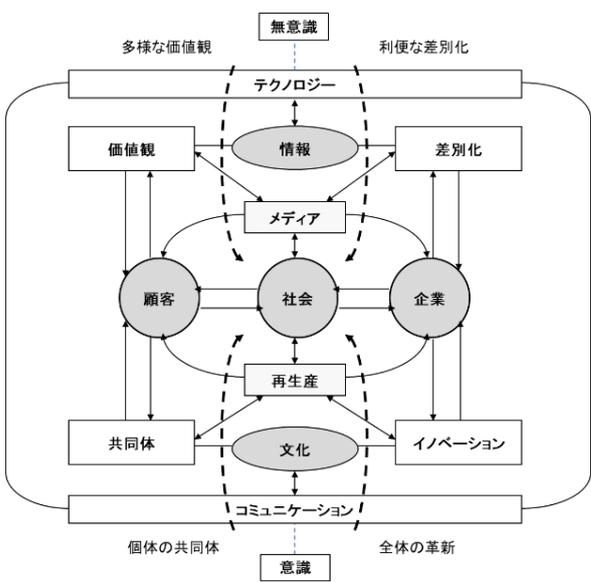


図 3. 社会志向型のイノベーション力点
（出典）符 2017:p.185 図 6 よりモディファイ

図 3 の中心は社会（図 2 参照）であるが、それを

人間の社会性に読み替えてよい。そして、下方の「コミュニケーション」から中心の「社会」に向かうのは「コミュニケーションを起点としたイノベーション」で、上方の「テクノロジー（技術）」からは「技術探求型イノベーション」（図2参照）である。これらを表すのが図中の破線の円弧（4つ）である。

5.時代変化への対応と創造的破壊の取り込み

5.1 変化対応と徹底の差

川辺(2003)等によれば、組織能力（ケイパビリティ）がセブンの最大強みであるといえよう⁽¹⁵⁾。その強みこそ、変化対応を可能にしたと考えられる。ここで、セブンのもう一つの特長である創造的破壊の取り込みについて事例に基づいて考える。

コンビニ業界では「品ぞろえ、鮮度、クリーンリネス（店の美しさ）、フレンドリーサービス」が「基本四原則」であるといわれている。コンビニ各社もそれらに力を入れているが、その徹底の差がセブンと他社とで違っていると指摘されている（小宮 2016.10.15）。

セブン元 CEO の鈴木がその著書(2003b)で次のように述べている。世の中の変化は激しいということ、その中でなんとか今日までやってこられたのは、つねに過去の経験を捨て、他人の真似を一切せず、仮説・検証にもとづいた自己革新、イノベーションを図りながら、創造的破壊に取り込み続けてきたからである。また、前述のとおり、「すべてをお客さまの立場に立って考えることが、我々の商売の基本である」（鈴木 2003a）。「お客様のため」ではなく「お客様の立場で」と考えるあたりを見ると、お客様側の小売業としてのアイデンティティが見て取れるだろう。

5.2 「常識を打ち破る」事例

例えば、普通の銀行は午後3時に閉まるが、コンビニは24時間開いているのでコンビニATMなら24時間使えて便利という発想で、セブン銀行を設立する（鈴木 2013）。また、銀行は業界の常識にとらわれて話にならないので自分たちで銀行の免許を取ろうという話になる。「楽のあとに成長はなし」と書かれている通り、生みの苦しみがある方が強い。一番ハードルの高い選択肢を選んだ結果、セブン銀行は

3年で黒字化し、手数料の面で見ても他の追随を許していない。また、2017年2月期の決算によれば、セブン銀行の単位床面積あたりの利益はセブンの40倍と極めて高収益であることがわかる。これは「競争の時代における本当の差別化は妥協のない絶対の追求によってしかうまれない」を経営の基本とするセブン（鈴木 2003a）ならではの結果であろう。

このように、小売りの世界から金融の世界へ、規制の壁を乗り越え、常識外のビジネスモデルを構想し、実現してきたのがセブン銀行である。セブン銀行は独自性が強くて、事業を開始する前には銀行業界からは「常識はずれ、素人の発想、うまくいくわけがない」とまったく相手にされなかったビジネスモデルであった（宮永 2018.3.9）。これはまたもセブン元 CEO であった鈴木（2003b）が述べた「常識を打ち破る」好例である。

6. 一時的競争優位と二兎追ひ戦略

6.1 スーパードットなひと

かつて川辺(2003:p.18)が述べたように、市場は「地域⇒家族⇒個人」へと変化してきた。3Dプリンタを用いてモデルハウスなどを造れるデジタルファブリケーションが進化した現代においては、もう一度「個」の時代が来ている（e.g.大岩 2017:p.12）。それぞれの「個」はすべて「スーパードットなひと⁽¹⁶⁾」である必要はないが、情報システムの責任者はそうなるべきであろう。

また、変化の激しい世の中にあって、社会の様々な動きを先取りし、社員の成長のために市場や顧客ニーズなど多様な情報を活用するには、情報システムの責任者をはじめとする関係者の構想力や社内外との協力の構築力を高める必要があるだろう。そのような構想力や構築力を高めるには、「テクノロジーの今」を知ろうという意識をもち、最新の技術そのものを自分の「コミュニケーション」の素材として「再定義」する必要がある（図3参照）。そういった人材は「コミュニケーションデザイン」⁽¹⁷⁾ができ、必要な時にそのプレイス（場または場所）に必要なコンテンツを設置することが可能であると期待される。

6.2 一時的競争優位

激変の世界で生き残るために、何かの発想転換が必要ならば SWOT ではなくフィリップ・コトラー（宮崎 2007）のいうようにその逆「TOWS」の発想であろうと考えたが、しかし多くの企業が変化を実感していながらも SWOT やマイケル・ポーターの「ファイブフォース分析」⁽¹⁸⁾といった旧来の戦略ツールに頼るだけではもう生き残れないという（McGrath2013）⁽¹⁹⁾。McGrath(2013)が持続的競争優位から「一時的競争優位」へと発想を変える必要性であると説いている。つまり、昨日までの自社の強みがまったく通用しなくなり予想もしない競争相手の出現に苦しめられる。こうした変化の激しい経営環境の下では企業戦略の目標とされてきた「持続的な競争優位を構築して、そこから長期間にわたって利益を得る」という考え方はもはや通用しない（図1参照）。市場や環境の変化に伴って次々と現れるチャンスを逃さず、そこに自社の戦略を迅速に適応させ続けてこそ、生き残ることができるというのが McGrath(2013)の主張である。この考えはセブン元 CEO の次のものに近いといえる。

「世の中の変化は激しいといいうこと、その中でなんとか今日までやってこられたのは、つねに過去の経験を捨て、他人の真似を一切せず、仮説・検証にもとづいた自己革新、イノベーションを図りながら、創造的破壊に取り込み続けてきたから」である（鈴木 2003b）。

6.3 二兎を追い二兎を得る戦略：安定と革新

McGrath (2013) は「企業を守っていた市場参入の障壁が崩れ、デジタル化で（優位だった製品が）いとも簡単に模倣される。もはや隠れる場所はほとんどない。競争がすぐ後ろから追いかけてくる」と警鐘を鳴らす。業界外からも予期せぬ競合相手・製品が現れる時代である。今後「一時的競争優位」の傾向はさらに強まると予測されている。そのため、新事業を次々と起こし、「一時的競争優位」の小波に乗り続けることで大きな成功をつかむこと、また「既存の事業が順調でもテクノロジーの変化で需要も変わる」ので波状的優位を重ねていくことがカギとなる。先の見えない熾烈な企業環境でも一時的優位を

続ければ企業は成長できるという。

さらに「アウトライヤー企業」⁽²⁰⁾には「安定重視とイノベーション」という「二兎追い戦略」を実行していることがわかり、この2つの絶妙な組み合わせにより安定した成長を続けることができるという（McGrath2013）。

7. 結論

これまでに述べてきたように、「インターネット・マネジメント」（図1）は参照モデルとしての有用性があることが示唆された。日進月歩のテクノロジーは新しい商品・サービスを生み出すこと、コミュニケーションは情動的相互作用を促し、新しいイノベーションを可能にすること、そこに、2つのイノベーションが期待される。つまり、テクノロジーとコミュニケーションを起点としたイノベーションが考えられる（図3）。その逆も起こりうる（図2）。

デジタル化することは企業にとって重要な課題であり、CEO の使命でもある。また、お客さまの立場に立って考え、顧客との接点をすべてデジタル化すること。デジタル化がもっとも影響するのは「顧客体験」で、少しだけの工夫で大きな効果が現れ、イノベーションを起こす速度がアップされる。

デジタル化の波に乗り遅れて失敗したケースが散見されるように、絶対成功する保証はない。目標を明確化したうえで経営状況等も鑑みながら情報システム（IS）を構築することがカギ。そのために全社をあげて組織的に取り込まなければならない。さらに、デジタル化した情報システム（MIS）を活用できる組織能力（IT ケイパビリティ）の開発・育成も欠かせない。企業文化にもよるが、セブンの「FC 会議」のように意思疎通も重要。そして、情報システムの責任者が企業内で部署間を行き来することや外部との協力関係を構築することができる、あるいはスーパードットなひとであると望ましい。

いまや、昨日までの自社の強みがまったく通用しなくなり予想もしない競争相手が出現する時代なので、長期的な安定を目指して、「過去の経験を捨て他人の真似を一切せず、仮説・検証に基づく自己革新・イノベーションを図りながら創造的破壊の取り込みを続けること」は有効な経営戦略であると思われる。

今後さらに考察と検証を重ねて研究を深めたい。

注

- (1) ケイパビリティ(Capability)とは、企業が全体としてもつ組織的な能力、あるいはその企業に固有の組織的な強みのこと。経営戦略を構成する重要な概念であり、戦略的な理解に基づくビジネス・プロセスの集まりである。例としては、スピードや効率性および高品質などが挙げられる。これらはオペレーションの柱となる要素であり、競争上の大きな優位性の源泉となりうる。競争戦略による差別化が困難な昨今の状況下ではケイパビリティを高め、戦略の実現性で他社に差をつけることによって持続的な競争優位を確立することができる。
- (2) 競争に関しては、マイケル・ポーター(1980)の「競争の戦略」を抜きに語れない。ポーターの「3つの競争戦略」の1つである「差別化戦略」は「付加価値」による高価格販売(高い利益率)によって他社に対する競争優位を確保しようとする基本戦略で、自社の製品やサービスに他社にはない「独自性・唯一性」を持たせようとする。
- (3) イノベーション(Innovation)とは、企業を発展させ、経済全体を従来からの延長線上にはない新たなステージへと導く活動である(e.g. 遠山他 2015, p. 171)。イノベーションはデジタル化に当たって不可欠である(Forbes Japan2018)。
- (4) Volatility (不安定), Uncertainty (不確実), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性)の頭文字を取って「VUCA」と呼ぶ。
- (5) 楠木建(2012)が指摘したように、商売センスは経験によってしか育たない。しかも「担当者」としての業務経験はまるで役に立たない。ニワトリと卵の論理そのものであって、商売丸ごとを経営するという生身の経験を重ねるしかない。そういう意味では、商売丸ごとを動かせる経営人材(経営者)がどこでも不足している。「VUCA」の時代では、より顕著になっている。
- (6) 「インターネット・マネジメント」とは、インターネット(Internet)とマネジメント(Management)をシステム的に融合することにより得られた混合型システムのこと。この混合型システムに対して、情報文化的な手法を適用することにより、そこに情報文化空間が内在していることがわかる(符 2015)。この内在する情報文化空間を「混合型システムに内在する情報文化空間」と呼ぶ。そして、この「混合型システムに内在する情報文化空間」を用いて、企業の経営戦略に対して考察したのが符(2017)である。
- (7) 経営戦略の研究を本格的に展開したアンゾフ(Ansoff1965)は企業の意思決定を3つ、すなわち「戦略的決定、管理的決定、業務的決定」に分類し、戦略的決定と多角化の問題を議論している。その好例は今取り上げた「デジタル化できない企業を待ち受ける「運命」とは」(Forbes Japan2018)。そして、その「ネットフリックス」(米動画配信大手)の株価が2018年5月25日のニューヨーク市場で上昇し、企業価値を示す時価総額が米娯楽・メディア大手ウォルト・ディズニーを超え米メディア企業で最大となった。
- (8) そもそも企業文化とは何によって形成されているのか。文化はそれぞれが独特であり、1つの文化は無数の要素から形成されている。しかし、優れた文化に共通する少なくとも6つの構成要素(Vision=ビジョン, Values=価値観, Practices=慣行, People=人材, Narrative=ストーリー, Place=場所)を見出している(Coleman 2018)。これらの要素を特定することは、差別化された文化と長続きする組織を築くうえでの第一歩となるという。
- (9) 優れた企業文化が利益をもたらすことは直感的に理解できるが、社会科学によっても裏付けられている。ハーバード・ビジネススクール教授のジェームズ・L・ヘスケットによれば優れた文化は「“文化的に凡庸な”競合他社と比べた場合、企業業績の差の20~30%を説明する」という(Coleman 2018)。
- (10) SECI モデルでは、知識変換モードを4つのフェーズに分けて考え、それらをぐるぐるとスパイラルさせて組織として戦略的に知識を創造し、マネジメントすることを目指す。
- (11) セブン-イレブン・ジャパン1号店は1974年5月にフランチャイズ店として東京・江東区豊洲に出店された(川辺 2003:p. 127, p. 128 写真)。
- (12) セブンのWebサイト(www.sej.co.jp)によると、加盟店との重要なパイプ役であるOFCに対し、最新情報・会社方針・業務やコンプライアンスに関する知識の共有のために隔週で全国のOFCが本部に集まって開催するのが「FC会議」という。毎回何百人も一堂に集まる。
- (13) 2018年3月末、セブンの総店舗数が20386店(www.sej.co.jp)。

- (14) 「リッチネス」は伝達される情報の豊かさを指して用いられる。組織におけるコミュニケーション手段について論じた「メディア・リッチネス理論」では協調・協働に用いる情報メディアをリッチネスの視点から選択すべきと論じている。情報には「不確実性」と「多義性」という要素が含まれ、どのように対処するかによって適切なメディアが選択される。対象が特定された伝達手段（面と向かって話す等）はリッチネスが高く相手を特定しない（文書などの）手段はリッチネスが低い。「メディアの相対的リッチネス・レベル」については、例えば、遠山他(2015, p. 248 図 10-2)を参照されたい。
- (15) 例えば、川辺(2003)は「第4章日本におけるコンビニエンスストアの発展」の「4 業態革新から組織能力の開発へ」や「第6章サウランド社の倒産と再建」の「5 組織能力の再建」, 「第8章結論—競争力の源泉—組織能力の開発と育成」などで、セブンの組織能力（ケイパビリティ）を高く評価している。
- (16) 「スーパードットなひと」とは、卓越した専門性を持ちつつ、専門以外の分野においても貧欲に自分自身のコンセプトとコミュニケーションを探し出すマルチプレーヤ（大岩 2017 : p. 12）。
- (17) 「コミュニケーションデザイン」とは、コミュニケーションを送り手と受け手の対峙関係のみで考えるのではなく伝わりやすくするために周辺環境をいかに整えるかを設計することである。
- (18) Porter (1980) は、企業と市場を巡る競争要因として“5 Forces (ファイブフォース)”と呼ばれる5つの要因（「新規参入業者、代替品（間接競合）、供給業者、買い手（顧客）、競争業者（直接競合）」）を指摘した。5 Forces (ファイブフォース) は、市場における自社の客観的な位置づけや競争環境を分析すると同時に、それらの要因に対応するための戦略立案に役立てられるとされている。
- (19) McGrath (2013) は次の6つの要素を組み合わせた「新しい戦略シナリオ」を提唱し、その活用法を具体的に説いている。①「継続的な事業の再構成・再構築」、②「衰退事業からの速やかな撤退」、③「資源配分の見直し」、④「イノベーションへの習熟」、⑤「新しいリーダーシップ・マインドセットの習得」、⑥「個人スキルの発揮」。
- (20) Outlier (アウトライヤー) 企業とは、異常値といえるほど抜群の成長を長年にわたって続ける企業のことである。

引用文献・参考資料

- Ansoff, H. I. : 1965, Corporate Strategy, McGraw-Hill. (広田寿亮(訳) : 1969, 『企業戦略論』産業能率大学出版部)
- Coleman, John: 2018. 5. 6, “Six Components of a Great Corporate Culture”, Harvard Business Review (<https://hbr.org/2013/05/six-components-of-culture>).
- Forbes Japan: 2018. 02. 15, 「デジタル化できない企業を待ち受ける「運命」とは」 (<https://forbesjapan.com/articles/detail/19734>).
- McGrath, R. G. : 2013, The End of Competitive Advantage: How to Keep Your Strategy Moving As Fast As Your Business. Harvard Business School Pr. (鬼澤忍(訳) : 2014, 『競争優位の終焉 市場の変化に合わせて、戦略を動かし続ける』日本経済新聞出版社)
- Porter, M. E. : 1980, Competitive Strategy: Techniques for Analyzing Industries and Competitors, New York: Free Press. (土岐坤・服部照夫・中辻万治(訳) : 1995, 『競争の戦略』ダイヤモンド社; 新訂版)
- Stalk, G.P., P. Evans, & L.E. Shulman: 1992, “Competing on Capabilities: The New Rules of Corporate Strategy”, Harvard Business Review, pp. 57-69.
- ベイカレント・コンサルティング : 2015, 『デジタル化を勝ち抜く新たなIT組織の作り方』日経BP社.
- 大岩直人 : 2017, 『スーパードットなひとになる。コミュニケーションとテクノロジーの“今”』PHP研究所.
- 加藤慶, 松下慶太 : 2007, 『情報メディア社会へのアクセス』八月書館.
- 川辺信雄 : 2003, 『セブン-イレブンの経営史—日本型情報企業への挑戦』有斐閣.
- 楠木建 : 2012. 1. 16, 「グローバル化の3つの壁(その3)「経営者」の希少性」 DIAMOND Online (<http://diamond.jp/articles/-/15622>).
- 小宮一慶 : 2016. 10. 15 「コンビニおにぎり「セブン」の旨さは“意識高い系”の賜物」 PRESIDENT Online (<http://president.jp/articles/-/20401>).
- 鈴木敏文 : 2003a, 『商売の原点』講談社.
- 鈴木敏文 : 2003b, 『商売の創造』講談社.
- 鈴木敏文 : 2013, 『変わる力 セブン-イレブンの思考法』朝日新書.

- 寺澤康介：2015, 『経営と人事 対話のすすめ—先の読めない VUCA の時代, 経営戦略と組織・人事戦略をいかにマッチさせるか』 ProFuture.
- 遠山暁, 村田潔, 岸真理子：2015, 『経営情報論 新版補訂』 有斐閣アルマ.
- 中野明：2008, 『ポケット図解 ピーター・ドラッカーの「イノベーション論」がわかる本』 秀和システム.
- 野中郁次郎, : 1996, 『知識創造企業』 東洋経済新報社.
- 符儒徳：2015, 「混合型システムに内在する情報文化空間に関する一考察」『情報文化学会誌』22(2), pp. 28-35.
- 符儒徳：2017, 「社会志向型企業の経営戦略の構造モデルに関する一考察」『開智国際大学紀要』第16号, pp. 179-189.
- 宮崎哲也：2007, 『フィリップ・コトラーの「マーケティング論」がわかる本』 秀和システム.
- 宮永博史：2018. 3. 9, 「セブンの40倍も儲かるコンビニ ATM の謎 銀行の収益モデルを真っ向から否定」PRESIDENT Online (<http://president.jp/articles/-/24589>).

地政学からみるモンゴルの概況

吉澤 智也

日本ウェルネススポーツ大学

1.はじめに

大陸の中で地続きにつながる国や地域と、海洋に面した国や地域は異なる発想によって発展してきた。それは、地理や環境、資源など人間の力をもっても変えることができない不変要素が存在しているためである。

そして、これらの諸要因が戦略的に重なった結果、人類は20世紀に2度の世界大戦を経験することになる。大戦後の世界は東西冷戦に突入し、国家よりも自由主義と社会主義といった政治経済の思想を重視するグローバルへと突入をした。だが、地政学を抜きにグローバルは存在せず、現代のように国家を意識するグローバルへと回帰している。

明治期の日本も近代国家を目指す過程では、西洋の影響を大きく受けながら展開をしていった。現代同様に複雑化する国際情勢の変化に順応し、西洋に目を向けながらもアジアを重視していたのは、紛れもなく地政学的思考からである。一方で、現代日本が当時のように地政学を重視した国家戦略を構築しているかは些か疑問でもある。

ユーラシアの小国モンゴルは、この地政学的思考が国家の根幹をなす政治、経済、外交、安全保障といった基本政策に強く影響を与えるものと重視してきた。それは、中露といった超大国に挟まれた地政学的条件から生まれた概念である。

日本の史実を見ても、そこには必ず地政学的セオリーが存在している。その理論に基づき現代日本は形成されてきた。自らのルーツとも言える歴史のポイントを掴むことで、自国のあるべき姿が見えてくるのだ。その戦略の先駆けは紛れもなく小国モンゴルである。

このように、地政学をベースに現代社会が抱える諸問題を捉えることは極めて重要であるが、戦後日本はそのメカニズムを活かし切れていない。その要

因が何かを検証することで、今後、日本がとるべき対外戦略の道筋が見えてくる。

本稿では、モンゴル国の概況を考察しながら、現代日本が不足している地政学的メカニズムを考えていきたい。

2. モンゴルの地政学的特徴

モンゴル国は2016年に、国家創設2225周年を迎えた。世界史上で最大の国家を築き上げ、文明を創造した英知を有している。

そのモンゴル国は、中国とロシアとのみ陸続きに国境を接する地政学的条件下から、両国のどちらにも偏らないバランス外交によって、国家としての主権を保持してきた。それは、両国の政治的恩恵や動静により、自国の運命が決定づけられてしまう宿命を背負っているからである。

図1 モンゴル国の位置



出展: <http://madriverr.me/category/asia-map> をもとに筆者作成

近年、関係が希薄化していたロシアのモンゴル国

への再接近、中国の AIIB¹の創設や一帯一路構想²による対モンゴル支援など、両国の積極的なアプローチが目立つなか、この地政学的条件を鉱物資源保有国という立場から逆手にとろうと躍起になっている。だが、総人口300万の小国モンゴルが両国に勝るのは、唯一、国土面積のみである。

一見、良好（バランス外交）にも見える中露関係だが、両国はユーラシアに収まらない超大国であることは誰もが知る事実であり、モンゴル国が小国である事実も変わらない。同じ主権を有する国家ではあるが、その他の面において比較すら成り立たない。その小国モンゴルが、国境を接する二つの超大国に対し、どのように対処（アプローチ）していくかは永遠の課題と言える。

3. 中露のパワーポリティクスとしての宿命

過去の大国の政策には、地政学が強く影響していたのは事実であり、現代においても直接的間接的に基本政策に取り入れている国が数多く存在する。南北朝鮮、北方領土、竹島や尖閣諸島、スプラトリー諸島、英国の EU 離脱、ウクライナ問題、中東情勢というように、日本への影響も少なからず存在する問題の影には、必ず地政学が密接に関わっている。

内陸に位置するモンゴル国の場合、地政学から目を背けることは不可能である。それは、モンゴル国の近現代史からも読み取れる。その史実からの問題提起は、中露という二大国に挟まれた小国モンゴルが、自国の政治経済と安全保障をいかに確保するかということである。この1世紀のモンゴル史が導く答えは、大国のパワーポリティクス³を利用することが、その唯一の方策という点である。

だが、史実の考証と民族的アイデンティティーの回帰といった、死活問題への結論には達していない。世界地図と世界史上からモンゴル国が消滅することはない。しかし、その地政学的条件下では、体形として国家を維持することに留まらず、自らのルーツと起源を守り続ける必要性が求められてくる。その

危機感が現代モンゴルにあるとは到底思えない。主権国家としての自治を保持し、如何に民族的アイデンティティーを守れるかの発想が不足しているからだ。それは、現代日本にも言えることである。

紆余曲折のモンゴル近現代史を考察すれば、中露のパワーポリティクスがモンゴル国と内モンゴル自治区（中国）の領土を二つに引き裂いたことは明らかである。それ以降も、幾度と中露に加えアメリカの政治干渉を受けてきた。その結果として、地政学によるパワーポリティクス理論を活かした「第三の隣国外交」（外交政策）⁴が誕生したと信じたい。そうでなければ、モンゴル国は史実から何も学習していないことになる。

「第三の隣国外交」に民族的アイデンティティーが加われば、中露にとっては脅威そのものになる。それは、モンゴル帝国の史実に加え、モンゴル民族のルーツ（記憶）がユーラシアからアジア、中東に至るまで広がるからである。そのルーツを活かすことが可能となれば、モンゴル国は地政学がもたらすパワーポリティクスに十分に対抗できる。記憶によるソフトパワーの展開は、計り知れない影響力を潜在しているのだ。

更に、モンゴル国が地政学と自らのルーツを活かした国家戦略を展開することで、現代のパクス・モンゴリカ（モンゴルの平和）⁵として、モンゴルの真の平和と安定に寄与することにつながる。そして、小国モンゴルが、その存在価値を高める唯一の方策を生み出すことへと発展していく。

4. 紆余曲折のモンゴル近現代史

13世紀初め、チンギスハンがモンゴル族と周辺地域にまたがる諸民族を統合し、広大なモンゴル帝国を築き上げた。13世紀後半には、ユーラシアの東西に及ぶ世界史上で最も広大な帝国とまで発展した。

モンゴル帝国の繁栄は、現代が見習うべく功績を幾多と残している。しかし、その経験は現代に活か

¹ 中国主導の国際金融機関。正式名称は、アジアインフラ投資銀行。

² 中国主導の広域経済圏構想。

³ 軍事力や経済力を背景に、国際政治を有利に展開しようとする政策。

⁴ 隣国の中国・ロシアとのバランスを維持しながら、それに過度に依存することなく、日本やアメリカとの関係を発展させる外交政策。

⁵ 13世紀から14世紀に渡りユーラシア大陸を支配したモンゴル帝国の覇権による平和で安定した時代。

されるどころか、モンゴル史の記憶のなかですら重視されずにきた。それは、自らの史実とルーツの考証と向き合う機会に、彼ら自身が恵まれなかったからかもしれない。モンゴルの近現代は侵略と統治のもとに収められ、自らの存在過程に触れることはタブーとされてきたからだ。

図2 モンゴル帝国の最大領域



出典：<https://www.sekainorekisi.com>

彼らは、辛亥革命やロシア革命を契機に、自らの利権(自治)を確保しようと幾度となく試みてきた。そして、中ソの対立に挟まれながらも、両国に独立を承認させるなど国家としての復権を目指した結果、1961年に国連への加盟を果たし、1990年には独立を果たして現在に至っている。

しかし、大国を利用した独立への試みは、大きな代償も伴った。1907年の日露協約⁶によって、外モンゴルと内モンゴルの利権保証が両国で行われた。その秘密協約が悪くも引き継がれた結果、現在のモンゴル国と内モンゴル自治区を引き裂く原因になったのだ。加えて、中露の勢力圏争いがモンゴルの統合を認めず、粛清運動にまで発展した。

2009年に世界の主要国のトップが相次ぎ交代した頃、モンゴル国でも1989年の民主運動から20年の節目という時期に差し掛かっていた。そして、モンゴル国でも政権交代という大転換を呼び起こした。これによって、中露へのバランス外交に加

⁶日露戦争後、日本とロシアの間で結ばれた協約。

え、欧米やアジア諸国との関係を更に深めようといった新方針が打ち出されることになる。

この一連の流れは、建国以来の悲願である中露両国に翻弄されないがための大転換と言える。当然、このなかには日本も含まれているが、日本がモンゴル国を活かした対ユーラシア政策を打ち出すには至っていない。

5. モンゴルを取り巻く国際環境の変化

中国がユーラシアの将来を我がことと考えたのは、習近平による一帯一路構想の提示と、AIIBの設立に露出されている。モンゴル国は上海協力機構⁷で度々メンバーへの昇格を要請されてきたが、オブザーバーの位置から動いていない。この判断の背景が、「第三の隣国外交」からくるものなのかは不明である。

図3 一帯一路の地図



出展：https://ja.wikipedia.org/wiki/一帯一路#/media/File:One_Belt_One_Road.png

帝国を築いた当時のモンゴル国は、大都⁸に大規模な水路を引き、太平洋からユーラシアの内陸に物資を供給していた。更には、中東に至るまで陸路の道を敷き詰めた。チンギスハンは、ユーラシアを収めるうえで、交通システムの重要性を理解していたのだ。それは、物資の供給に留まらず、統治に最も重

⁷中華人民共和国・ロシア・カザフスタン・キルギス・タジキスタン・ウズベキスタン・インド・パキスタンの8か国による多国間協力組織。

⁸モンゴル帝国のクビライハンが1267年から26年を費やして現在の北京の地に造営した都市。

要な情報を集約させるためでもあった。

現代のボーダレスでグローバルな環境も、陸の孤島には無縁でしかない。モンゴル国が地政学的な現実を打破する方法を模索するには、マッキンダーの地政学⁹のように、「地理学からみた歴史の回転軸」が不可欠と言える。

また、ユーラシアにおいて、中露両大国の前に対抗し得る力を有しているのは、アメリカではなく EU しかない。他の諸国は、インドを除き追従するしかない現実がある。だが、中露と EU に対して影響力を強めてきているのがイスラムのパワー(影響力)だ。しかも、欧露の場合には、イスラムの北上により社会不安を招いている。

中国の場合には、主に新疆ウイグル自治区に棲息しているウイグル族の動向に躍起っている。それは、後背地トルコの悩みの種でもある。ISIS¹⁰による支配地域の消滅は、問題の根をボーダレスに各地へ拡散させただけなのだ。

そのトルコのモンゴル国への再接近は、この数年の間に目まぐるしく加速化した。その背景には、トルコが内政政策重視から地政学と史実に基づく独自性を重視するといった、戦略的外交方針に転換をしたことが大きく影響している。そういう意味では、中国の一带一路と類似していると言えるが、内政に躍起っている中国共産とは、史実の扱いが異なる点で根本が違う。だが、トルコもイスラムに加え、クルド人との衝突に翻弄されている現実がある。

よって、これらの問題を打破する別の観点からの選択肢が求められてくる。その具体策の発見は歴史の軌跡に求めるしかない。それをモンゴル国に求めるのであれば、チンギスハンの帝国経営において、異なる民族と文化、宗教(特にイスラム)と共生できた唯一の事例がある。当時の帝国経営はボーダレスな共同体の先駆けでもあった。

つまり、パクス・モンゴリカが創成され史実の検証を、モンゴル国が中心となり進めることが必要なのだ。その枠組みは学術的な領域に留まらず、共同

体としてグローバルに共有される必要がある。その牽引を日本が取ることで、敵意されることがなく日本がユーラシアでの存在意義を高めることが可能となる。それは、強い地域的一体性と豊かな文化独自性を持ち合わせた、現代日本の世界史的使命にもなり得る。

6. おわりに

ソ連の崩壊以後、モンゴル国は日本を含めた西側諸国からの経済支援を得て現在に至っている。西側諸国がモンゴル国に好意的であったのは、中露大国の狭間にある緩衝国家という理由に加え、中露の政治文化と異質である面への評価が働いたと考えられる。

21世紀に入り、ロシアに代わり中国がユーラシアで存在感を高めている。軍事に重点を置いたソ連や現在のロシアとは異なり、中国は経済を重視している。その名分が、地政学を活かした一带一路構想であり、上海協力機構が推進している。この構想はボーダレスに展開されるが、結局は中国共産の一方支配による政体のもとで執り行われる。これは、中国共産にとって未知の分野への突入でもある。

だが、運営主体は開放的でないと成り立たない。この現実には、モンゴル帝国の経営マインドの反極とも言える。そのため、モンゴル国は帝国時代のルーツを活かした国家戦略に基づき、一带一路構想に参画することで、その影響力を保持することが可能となる。

モンゴル国が中露の回廊国家でしかないと思いつく視野狭窄から離脱できる最短距離は、「第三の隣国外交」に加え、こうしたビジョンに基づいた国家戦略を打ち出すことである。それは、現在のモンゴル国の地政学的条件が、超大国中露に接する飛び地であることを再認識するところから始まる。その認識をもたらず母体は、自らの一体性が何に由来しているかを知り得ることからかもしれない。

そして、現代日本にも同様のことが言える。少なくとも、地政学がもたらす影響と、その史実を再検証することから取り組む必要がある。モンゴル近現代史のなかには、当時の日本が与えた影響が事実として残っている。そういう意味でも、日本がモンゴ

⁹ ハルフォード・マッキンダーによる、ユーラシアを基点とした国際関係の力学を地理的に分析した理論。(ハートランド理論)現代地政学の開祖。

¹⁰ イスラム国家の樹立を掲げるスンニ派武装組織。

ル国の地政学的概況と近現代史から吸収できる要素は計り知れない。

現在の日本の外交政策が、過去の史実からの失敗と成功が入り混じった結果だとは考えにくい。近隣諸国は相次ぎ早に戦略的な外交方針を打ち出し、関係諸国を巻き込みながら自国の存在意義を高めている。そのなかには、地政学に加え史実と自国のルーツが必ず含まれている。今、日本がユーラシアの小国モンゴルから何を学び吸収できるか、その真価が問われている。

参考文献

鯉淵信一「現代モンゴル概観 — 民主化から 20 年」、
『気候変動枠組条約及び京都議定書等における国際交渉の行方』

廣瀬陽子「ユーラシア統合の理想と現実」、『地域統合の現在と未来 6 章』

Ts バトバヤル「モンゴル現代史」、『明石書店』

ワルター・ハイシッヒ「モンゴルの歴史と文化」、『岩波書店』

ハムスレン・バグワスレン「現代モンゴル外交の展開と模索」、『環日本海研究 (12)』

岡洋樹「日本外交戦略にとってのモンゴルを再評価する」ニッポンドットコム、

<https://www.nippon.com/ja/currents/d00120/>

梅原直樹「中国一帯一路構想の特徴と今後について」、
『国際通貨研究所』

バッサム・ファトウ「中東地域におけるトルコの外交上の役割」、『中東協力センターニュース』

研究レポート

涼拌麺から冷やし中華へ

—冷やし中華はいつ “冷やし中華” になったのか?—

増子 保志

日本国際情報学会

1. はじめに

暑さが気になる季節になると、街場の中華料理店に登場するのが冷やし中華である。きゅうりの千切りに、トマト、ハム、錦糸玉子など色とりどりの具材と、水でしめた中華麺を酸味のきいた醤油だれや胡麻だれで食する。その色彩感覚や油分の無いところなど、明らかに日本の料理である。しかし何故“冷やし中華”とわざわざ中国の料理であるような「中華」という名称をつけたのであろうか。本場中国には冷やし中華なる食べ物は存在しない。

冷やし中華が中国料理ではなく、日本料理である根拠として、①麺を水で洗う調理法であること。②タレに酢を使用することが挙げられる。いずれも中国でこの調理法は使用されていない。その根拠として、水が日本のように綺麗ではなく硬水であること。お酢は調味料としてかけて使用するが、スープ様に浸して使用することはないこと。この2つの理由から冷やし中華は日本料理であると推定できる。ではなぜ日本発祥の麺料理なのに“中華”と称したのであろうか？

本稿では日本由来の料理である“冷やし中華”が、いつ如何なる経緯で「中華」とよばれるようになったのかについて考察する。

2. 地域別にみる冷やし中華の呼称

冷やし中華と考えられる料理は地域によってその呼称に違いが認められる。日本経済新聞社クイックVoteの調査によると、関東、東海、東北（岩手県を除く）地方は「冷やし中華」と呼称されていることが多い傾向にある。それに対して、北海道地方は「冷やしラーメン」が57%に対し、「冷やし中華」は40%、残りは冷麺と呼称されている。「冷やしラーメン」という呼称は、ラーメンの発祥と関係が深い可能性がある。

東北地方でも岩手県では「冷やし中華」と「冷風麺」が50%ずつという結果が出ている。九州地方では福岡県を除く各県では「冷やし中華」が圧倒的に多く、福岡県のみ「冷やし中華」(46%)と「冷麺」(54%)が拮抗している。四国地方も両者が拮抗している。

対して関西地方では、「冷麺」と呼称される傾向が多く、京都府の89%を筆頭に和歌山県、大阪府、滋賀県などが60%で「冷麺」と呼称されている。¹

¹ 日本経済新聞社「食べ物新日本奇行」(いわゆる冷やし中華)(リンク切れ)

このことから、関西地方では「冷やし中華」というネーミングが全国的に広がる以前に「冷麺」が地域的に定着していたと言える。次章で述べるが、「中華のサカイ」が「冷麺」を発売したのが1953年であることから、「冷やし中華」という呼称はそれ以後と推察される。

3. 冷やし中華の起源

冷やし中華の起源として、現在下記の説が一般的に流布している。

① 涼拌麺（仙台、「龍亭」）

1937（昭和12）年の秋。仙台シナ料理同業組合（現・宮城県中華料理生活衛生同業組合）の組合員たちが、閉店後集会を持った。当時、クーラーなど冷房設備は無く、熱くて油っこいラーメンは、冬は人気商品だが、暑い夏には売り上げが激減してしまう。夏にも集客できるメニューを考えられないだろうか、初代組合長で、龍亭の店主だった四倉義雄のもとに組合員たちが集まり、夏向きの冷たい麺料理の開発に取り組んでいた。

冷たい麺料理は、麺の「のどごし」が命だ。ツルツルとしたのどごしのよい食感を生むためには、茹であがった麺を水で素早く締めなければいけない。だが、水の悪い中国では、水を使った調理法は敬遠される。上海や四川などでは冷麺（リャンメン）や涼拌麺（リャンパンメン）といった、具とタレを混ぜて食べる麺料理があるが、麺は団扇であおいで冷ます程度だ。日本のキンと冷えた麺料理と比べると、明らかにぬるい。

一方、きれいな水がどこでも手に入る日本では、冷麦やざるそばなど、昔から冷たい麺料理が食されてきた。中華そばも他の麺と同じように冷やしてみればいいのか。組合員たちがそう発想したのも、美味しい水に恵まれた日本の風土があつてこそだった。

組合員たちの試行錯誤のすえ、冷やし中華の原型となるメニューが完成する。開発当時の冷やし中華は涼拌麺と呼ばれていた。

水洗いした麺がすぐ固まってしまうのを防ぐため、麺には植物油をまぶす工夫をほどこした。具は、茹でたキャベツ、塩もみしたキュウリ、細切りのニンジン、トマト、チャーシュー。鶏ガラスープをベースに醤油、酢を加え、さっぱりとした味に仕上げたタレを麺と具の上からたっぷりかけた。

こうして出来上がった冷たい中華麺の料理は、「涼拌麺」として発売された。四倉は「昭和12年、全国の業界に先駆けて涼伴麺を開発し・・・」との記録を残している。当時、ラーメン1杯が10銭ほど。「涼拌麺」は25銭と高価だったにもかかわらず、もの珍らしさも手伝って人気を呼び、市内の中華料理屋に広まっていった。²

② 五色涼拌麺（五目冷やしそば）（東京「揚子江菜館」）

1946（昭和21）年、東京都千代田区神田神保町にある「揚子江菜館」のメニューに「五色涼拌麺」が登場する。

考案したのは、2代目店主の周子儀で、ざるそばが大好きだったという周は、もやしと細

² <http://ryu-tei.jp/index.html>（2018年6月1日アクセス）

切りの肉を乗せる上海料理の涼拌麺を、ざるそばをヒントにアレンジ。細切りにした様々な具材を放射状に山型に盛り付け、通称「富士山」と呼ばれる名物料理を完成させた。このメニューが、現在の冷やし中華のスタイルの元祖と言われている。³

③ 冷麺（京都「中華のサカイ」）

1939年の創業で当初は喫茶店で開業し戦後に中華料理店になった。1953年ごろに始めた冷麺には、エビや錦糸卵も乗っていたが、「より安い値段で多くの人に食べてほしい」とすぐに焼き豚、キュウリ、のりだけのシンプルな形になった。冷水でキュッと締めた太麺に絡むタレは、甘酸っぱさの中に、からしの刺激がある。

以上それぞれの店舗が我こそは冷やし中華発祥の地であるとの主張をしているが、いずれの料理店も「冷やし中華」という呼称は使用されていない。当時は中国料理名で呼称していたものを冷やし中華という言葉が全国的に広がったため自店が「冷やし中華」を開発した店という主張をしているが、結局のところ中国の料理をアレンジしていただいただけに過ぎない。次に中国料理書の中ではどのように記述されているのであろうか。

4. 中国料理書の中の冷やし中華

1) 戦前期

①冷蕎麦 『料理相談』（安東 著、鈴木商店出版部、1929（昭和4年））国会図書館蔵

支那ソバを茹でて酢、砂糖、氷をまぶし又焼、キュウリ、ラッキョウ、タケノコ、タケノコを載せて冷スープ、醤油、酢、胡椒をかけるとの記述がある。

<冷蕎麦は前稿（焼きそばの作り方。筆者註）のものを茹で、皿盛りにして、酢、砂糖を加へた汁で調味し、氷をかけて供します>

具材は、チャーシュー、キュウリ、酢漬けラッキョ、味付け筍。これらを千切りしておき、麺の上に盛る。さらに醤油、冷ましたスープ、酢、コショウ、味の素で作ったタレを、麺と具の上からかけて出来上がり。<汁の方の砂糖及び酢を多く利かすとあまりにしつこくなくなります>と記されている。⁴

このことから、冷やした中華そばを醤油と酢を使ったタレで食べる料理は、仙台の龍亭で売り出されるよりも前に、すでに存在していたことが分かる。

②涼拌湯麺

1933（昭和8）年発行の『簡単に出来る家庭向支那料理三百種』（新井兵吾編、大日本雄弁会講談社）には、<日本のざるそばのやうなもの>として「スープそば（涼拌湯麺）」なるものが紹介されている。

「麺は茹でて水にさらしておく。具はハム、鶏肉、チャーシュー、芝エビ、シイタケ、薄

³ <https://www.travel.co.jp/guide/article/19598/>（2018年6月1日アクセス）

⁴ 『料理相談』（安東 著、鈴木商店出版部、1929（昭和4年））

焼き玉子、サラダ菜と豪華だ。これらはすべて細切りにしておく。スープに塩、醤油、味の素を加えてひと煮立ちし、冷ましたものを丼に入れる。そこへ麺と具を盛り入れれば完成だ。」

この説明では具に錦糸玉子を使っているところが、現在の冷やし中華を彷彿させる。しかし、タレに酢を使っていないところが現在の冷やし中華とは異なっている。

③三絲涼麵

『栄養と料理』（1936（昭和11年））では、「鶏肉、焼豚、キュウリ等を細切りにして、水にさらした麺の上のにせ、酢、醤油をかける。」と記述され麺を水にさらし、酢と醤油をかけるという冷やし中華の基本が記述されている。

この他に、冷たい中華そば料理の記述があったものとして1939（昭和14）年発行の『洋食と支那料理』（主婦の友社）がある。同書には「三杯酢を使った冷たいおそば」として「涼麵」の作り方が掲載されている。

以上のように戦前期の中国料理書には冷やし中華という名称での記述は見られない。

2) 戦後期

1950年から1966年までに発行された中国料理書では、涼拌麵、肉絲拌麵、冷やしそばという記述がなされている。1967年以降になると、それらの記述はなくなり、中国料理の一つの料理として扱われることが無くなった。このことは、冷やし中華という名称がこの時期にジャパニーズ中華⁵として定着してきたことの現れと言えるであろう。

4、涼拌麵から冷やし中華へ

昭和30年代の高度経済成長に伴い食文化が多様化し、夏場の涼拌麵は、中華料理店の人気メニューとなった。かかる状況下、仙台のだい久製麵社は家庭用のうどんやそば、ラーメン等の生麵を製造販売していたが夏季のうどん、ラーメンの需要の伸び悩みから夏場向けの新商品開発の必要性に迫られていた。

だい久製麵社のホームページによると、「1960（昭和35）年、仙台の製麵会社「だい久製麵」が家庭用の冷やし中華「元祖だい久 冷やし中華」を開発。液状のタレをつけるというアイデアが消費者の心をつかみ、爆発的なヒットとなった」⁶

これまで「涼拌麵」「冷やしそば」「冷やし中華そば」などと呼ばれていた名称も、この商品の発売を機に「冷やし中華」が主流となった。

爆発的ヒットか否かは不明だが、この時点で「冷やし中華」という呼称が使用されている。

続いて1962年（昭和37年）には明星食品が「明星冷やし中華」を発売し、「冷やし中華」がさらに広く全国へ知られるようになった。

さらに、日本蕎麦屋店が冷し中華に注目し、店のメニューとして採用され始めた。ヒゲタ

⁵ 中国料理に似せて日本でアレンジされた料理（筆者・増子の造語）

⁶ http://www.dai9.co.jp/?page_id=23（2018年6月2日アクセス）

醤油社のホームページによると、「日本蕎麦屋さんから専用の冷し中華スープを開発してほしい」というご要望が高まりこれを受け、1963(昭和38年)業務用の冷し中華スープ(2倍希釈)を発売し、同年家庭用も同じ2倍希釈タイプで発売いたしました。⁷とあり、街場中華店のみならず、日本蕎麦店や家庭においても「冷やし中華」という呼称が使用され、全国的に広まったものと考えられる。

5. 今後の課題

本研究では、現時点で入手可能な資料に基づいて考察を行ったゆえ限界があった。先行研究を含めて“中華”という呼称が付いていることから、中華料理の面からの考察が中心となっているが、

- ①街場の大衆中華料理店は戦後に中華料理が人気を博したことから日本蕎麦屋からの転身や派生した店が少なくないこと。逆に老舗と呼ばれている日本蕎麦店には冷やし中華は置かれていない。
- ②そもそも日本でアレンジされた料理ゆえ日本蕎麦店の存在は無視できないこと。
- ③冷やし〇〇というメニューは日本蕎麦店のメニューに多くみられること。醤油ベースのタレは日本蕎麦店の“かえし”を利用できること。

以上のことから今後の研究の課題として、「和」の観点から日本蕎麦店における冷やし中華の考察が必要と考えられる。

また、2章で見たように地域によつての呼称の違いに関してもその歴史的経緯や同じ中華麺を使用するラーメンとのかかわり合いについてもこれからの研究が必要と考える。

6. おわりに

中華料理店や中国料理書で「涼拌麺」「冷やしそば」「三絲涼麵」と呼称されていた料理は、昭和30年代の高度経済成長におけるラーメンの需要拡大の影響を受けた製麺メーカーによる家庭向け商品の発売を契機として「冷やし中華」という呼称に置き換わり全国的に広まった。さらに、中華という言葉を使用したことで既存の冷やした日本蕎麦やうどんとは違った異質感や若干の高級感を醸成することでさらなる広がりを見せた。日本の国民食と言われるラーメンの呼称が時代に応じて変化しているよう⁸に今後、冷やし中華もどの様に変化するか興味深い。

参考文献

- 澁川祐子「冷やし中華はやっぱり「日本料理」だった」JB Press、2011年8月。
同上『ニッポン定番メニュー事始め』彩流社、2013年9月。

⁷ <http://www.higeta.co.jp/topics/130401.html> (2018年6月2日アクセス)

⁸ 増子保志「変化するラーメン像ー拉麺からRamenへー」第8回超領域社会工学研究会研究発表要旨より。2018年6月3日。

日本国際情報学会誌規程

第1条 (目的)

1 日本国際情報学会（英文名：Japanese Society for Global Social and Cultural Studies、以下「学会」という）は、学会の活動成果の発表を目的に日本国際情報学会誌『国際情報研究』（英文名：The Journal of Japanese Society for Global Social and Cultural Studies、以下「学会誌」という）を発行する。

第2条 (編集委員会)

- 1 学会誌の企画、原稿の募集（依頼）及び編集のために編集委員会を置く。
- 2 編集委員会は、編集委員長、編集副委員長各 1 名、および編集委員若干名によって構成される。
- 3 編集委員長は、会長、副会長、理事の中より理事会が選任する。
- 4 編集副委員長は、編集委員長が会員の中より推薦し、理事会が選任する。
- 5 編集委員は、編集委員長が会員の中より推薦し、理事会の承認を得るものとする。

第3条 (執筆者の資格)

- 1 執筆の資格を有する者は次の各号に掲げる者とし、執筆は公募及び依頼とする。
 - (1) 会員
 - (2) 会員を筆頭執筆者とする共同執筆者
- 2 前項各号に掲げる者以外の者から執筆の申し出があった場合には、編集委員会はこれを承認することがある。
- 3 会費未納者については執筆資格を停止する。

第4条 (原稿の要件)

- 1 学会誌に執筆する原稿の要件は、次の各号のとおりとする。

- (1) 未発表の原稿であること。
 - (2) 完成原稿であること。
 - (3) 原稿の種類は、次のいずれかに該当するものであること。
 - ① 研究論文 (審査論文: Original)
 - ② 報告論文 (自由投稿論文: Review、研究ノート: Research Report)
 - ③ 書評 (Book Review)
 - ④ その他編集委員会が認めたもの
 - (4) 論文の原稿は、表、図、写真を含め 12 ページ以内とすること。研究ノートその他は特に形式は定めないが、論文に準拠することが望ましく、またそのまま掲載できる完全原稿とし、400 字原稿用紙で 20 枚以内とする。ただし、編集委員会が、特別の事由を認めたときはこの限りではない
 - (5) グラフを含む表、図、写真は、そのまま製版できるように作成すること。
 - (6) 原稿の使用言語は、印刷可能な言語の範囲内とすること。
- 2 年度における投稿は、研究論文、報告論文、及び書評で各 2 稿以内、または合計 3 稿までとする。ただし共同執筆は、この数に含まない。

第 5 条 (原稿の採択)

- 1 執筆原稿が学会の主旨及び第 4 条・第 7 条に規定する原稿の要件・形式に合致しないとみとめられる場合には、不採用とする。また不採用になった原稿の執筆者は、結果に対する異議申し立てをできないものとする。
- 2 投稿原稿の採否は、以下の(1)から(5)の細則に従い、各分野の専門家(レフェリー)に投稿原稿の審査を依頼し、その意見をもとに編集委員会で審議し、決定する。
 - (1) 投稿原稿は、まず編集委員会において、その内容について第一次審査を行う。
 - (2) 第一次審査にパスした原稿は、匿名でレフェリーに送られ、審査を受ける。レフェリーからの審査意見は、編集委員長に伝達される。
 - (3) 投稿原稿は、レフェリーの審査意見をもとに編集委員会で審議し、採否を最終決定する。
 - (4) 審査にあたる、レフェリーの名前は公表しない。
 - (5) 編集委員会の判断により原稿執筆者に、内容変更の依頼を行うことがある。

第 6 条 (学会誌の発行)

- 1 学会誌は、各年度 1 回発行することとし、各年度の原稿募集（依頼）・執筆期限・発行期日等は、編集委員会が決定し、公表する。

第 7 条 (論文原稿の形式)

- 1 学会誌に執筆する論文原稿の形式は、編集委員会が別に定める「日本国際情報学会誌執筆要領」によるものとする。ただし、「日本国際情報学会誌執筆要領」ではその論文の真価を表現できないと編集委員長が認めた場合は、別途編集委員会が定めた形式による。

第 8 条 (論文等の転載)

- 1 学会誌に掲載された論文の転載は、その学会誌発行後半年を経過していない場合は、編集委員会と協議し、承諾を得るものとする。
- 2 転載論文等には、学会誌に初出した旨を付記するものとする。

第 9 条 (校 正)

- 1 校正是著者校正とし、校正期限を遵守し、校正時に大幅な訂正を行わないこととする。
- 2 前項の規定に反し、執筆者が校正時に大幅な訂正を行い、学会誌の発行に重大な支障をきたすおそれがある場合には、第 5 条第 1 項の規定を準用する。

第 10 条 (原稿料)

- 1 原稿料は、会員以外の者への依頼原稿を除き、無料とする。

第 11 条 (改 廃)

- 1 この規程の改廃は、編集委員会の議を経て、理事会が行う。

附 則

この規程は、平成 17 年 5 月 1 日から施行する。
平成 17 年 5 月 第 5 条を改定する。
平成 21 年 12 月 第 1 条を改定する。
平成 22 年 6 月 第 4 条、第 5 条を改定する。
平成 23 年 8 月 第 3 条 2 項、第 4 条 2 項を追加する。

初回 平成 15 年 8 月 30 日理事会決定

第 4 回改定 平成 23 年 8 月 8 日理事会決定

編集後記

ルクア (LUCUA) という大阪駅北側のノースゲートビルディングにあるファッションビルがある。ルクア (LUCUA) の由来は「Lifestyle (ライフスタイル)」、「Urban (都会の)」、「Current (流行の)」、「Axis (軸)」の頭文字であり、「Look up」「歩く」ともかけて命名された。(Wikipedia から)

さいきん、この地下飲食店街「LUCUA FOOD HALL」がオープンした。ここでは、“買う・食べる・集まる”をキーワードに、マルシェのように新鮮な食材の販売はもちろん、売り場に併設されたダイニングで、販売している旬の食材を使用した料理をいただける。

ゆっくりとお食事を楽しめるのはもちろん、クイックに食事を済ませたいニーズにもお応えし、店内中央には「ミート&イートスクエア」を設置し、購入した商品をソフトドリンクやアルコールなどのお好みのドリンクに合わせていただけるなど、あらゆる食のシーンやニーズにお応えできるお店が集合している。

筆者も職場の帰り、1,000円程の美味しそうなボトルワインを購入して(レジでコルクを開け、グラスを貸してもらえる)、美味しそうな食材を選びレジを済ませ、「ミート&イートスクエア」コーナでグラス片手に『Kokusai-Joho』の構想を練っている。どちらも自由度は高い設定である。是非、皆さまも体験していただきたい。

(坊農 豊彦)

編集委員会 委員長 佐々木 健
委 員 加藤 香須美
委 員 川原 有加
委 員 立石 佳代
委 員 坊農 豊彦
委 員 増子 保志
委 員 村上 恒夫

『Kokusai-joho』第3号(3巻1号)2018年度 日本国際情報学会誌

2018年7月8日発行 領価2,000円 (CD配布・送料込み)

発 行 日本国際情報学会
静岡県静岡市駿河区谷田 52-1
静岡県立大学国際関係学部
諏訪一幸研究室
TEL 04-2996-4160
FAX 04-2996-4163
URL <http://gscs.jp/>

編 集 日本国際情報学会 編集委員会

無断転載を禁ず